

# 平成19年度

## 相模原市自然環境観察員制度

### 年次報告書



## 相模原市

## はじめに

相模原市では、市民と行政が一体となって本市の自然環境を調査することにより、身近な自然に目を向け自然環境に対する関心を高め、環境保全意識の高揚を図るとともに大切な自然を監視・保全していくための基礎資料を継続的に集積していくため、平成13年度に市民ボランティアによる「自然環境観察員制度」を設置しました。

19年度は、91名の皆様のご参加をいただき、調査の企画やセミナーの運営にもご協力をいただきながら、全体テーマ調査や専門部会調査を実施いたしました。

この報告書は、自然環境観察員の皆様一人ひとりが「今の相模原の自然」を注意深く、生きものたちの命の息遣いを感じながら、地道に調査した記録や活動内容をまとめたものです。

活動結果や皆様から寄せられたご意見を活かし、相模原市の自然環境がより良いものになるよう、また、本制度が市民の皆様方に根付き、活動の輪が広がるよう、本書をご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本制度の運営にあたりご協力をいただきました、自然環境観察員の皆様に心からお礼申し上げます。

平成20年 3月

相模原市立環境情報センター

# 目次

第1章 自然環境観察員制度について	1
1 自然環境観察員の募集	1
2 自然環境観察員制度の概要	1
3 実施内容	2
第2章 身近な生きもの調査	3
1 全体テーマ調査	3
1.1 調査区域とテーマの選定	3
1.2 春の七草分布調査	10
1.3 セミの鳴き声調査	26
2 自主テーマ調査	53
3 任意参加調査	54
4 専門部会調査	56
4.1 植物調査部会	56
4.2 湧水調査部会	57
4.3 河川生物相調査部会	59
4.4 野鳥調査部会	60
第3章 かんきょう学習セミナー	66
1 第1回かんきょう学習セミナー	66
2 第2回かんきょう学習セミナー	66
3 第3回かんきょう学習セミナー	67
第4章 その他の活動	68

## 資料編

- 1 調査の手引き
  - 春の七草分布調査
  - セミの鳴き声調査
- 2 自然観察かわらばん
  - 自然観察かわらばん（野鳥調査部会版2号）
- 3 ご意見・ご感想

# 第1章 自然環境観察員制度について

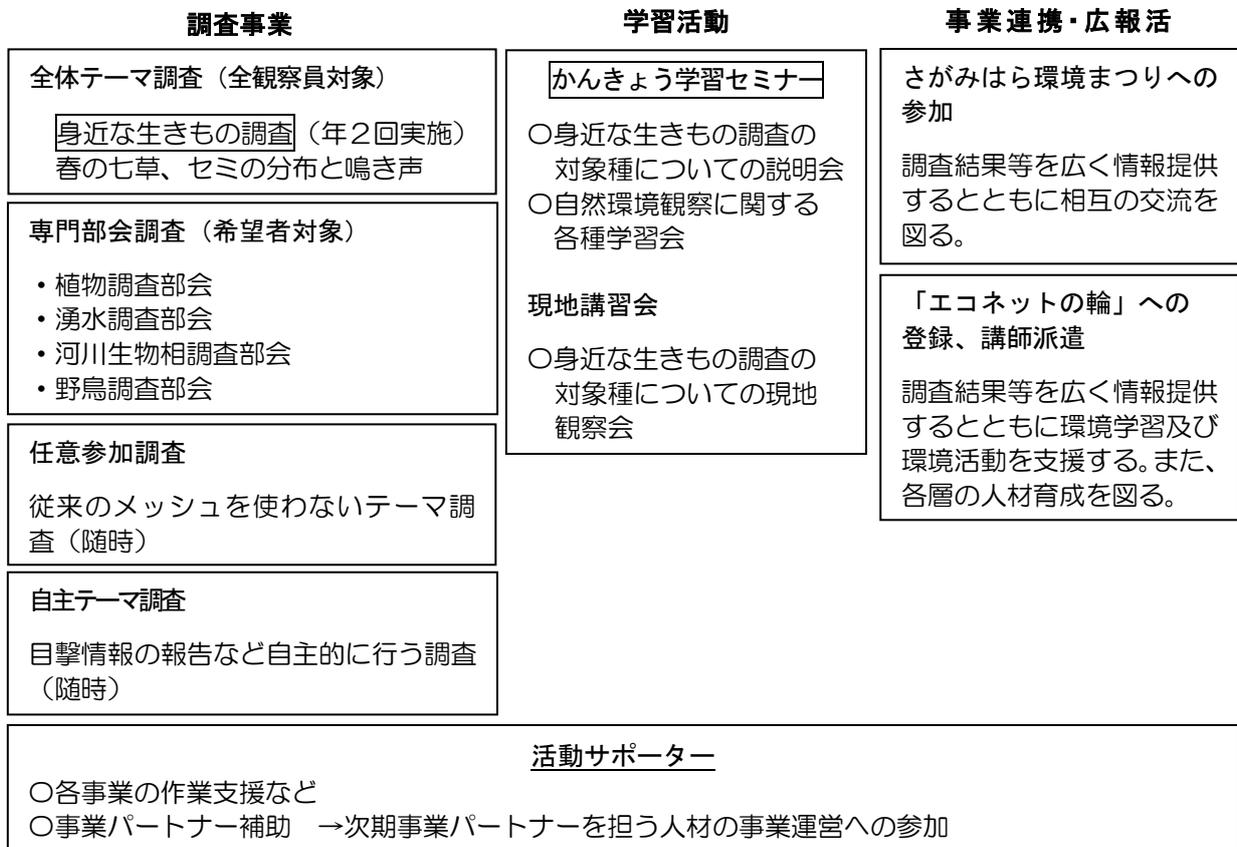
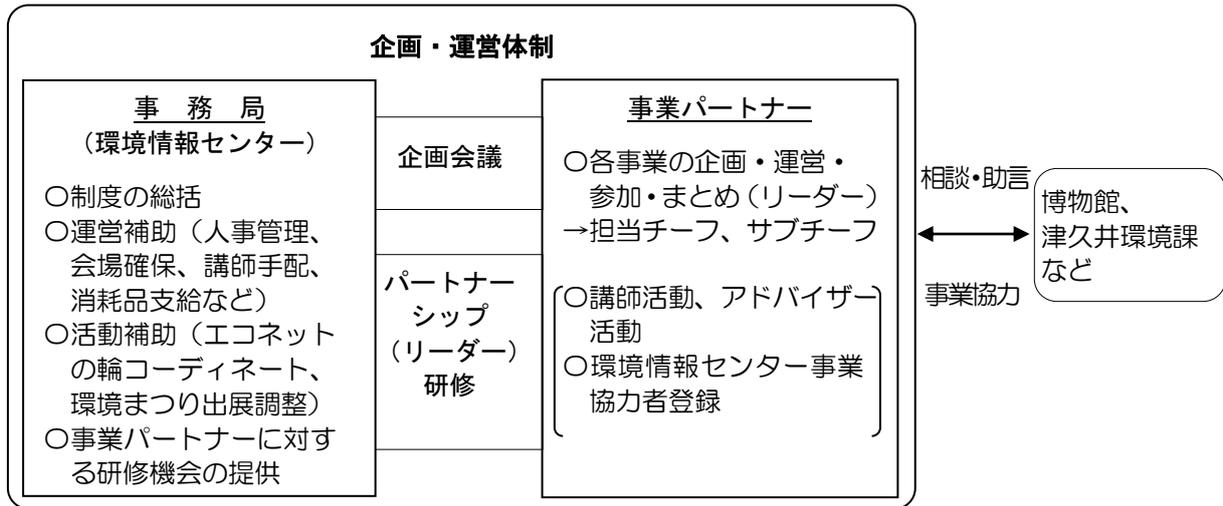
## 1 自然環境観察員の募集

観察員の募集は「広報さがみはら」（平成19年3月1日号）などで行いました。

様々な世代の方からご応募をいただき、91名を「相模原市自然環境観察員」として登録しました。

## 2 自然環境観察員制度の概要

本制度の運営及び活動については、以下のとおりです。



### 3 実施内容

#### (1) 身近な生きもの調査

	調査項目	実施時期
1	全体テーマ調査	
	春の七草分布調査	平成19年4月15日～6月13日
	セミの鳴き声調査	平成19年7月20日～10月15日
2	自主テーマ調査	平成19年4月16日～20年1月31日
3	任意参加調査	
	春の七草分布調査（津久井地域）	平成19年4月22日～5月22日
	ハルゼミの分布調査	平成19年4月15日～5月29日
4	専門部会調査	
	植物調査部会	平成19年7月20日 他
	湧水調査部会	平成19年10月7日 他
	河川生物相調査部会	平成19年9月29日 他
	野鳥調査部会	平成19年5月7日 他

#### (2) かんきょう学習セミナー

	実施内容	実施日	参加者数
1	自然環境観察員制度について 事務局職員 春の七草と環境について アジア航測株式会社 染矢 貴さん ハルゼミと環境について アジア航測株式会社 藤本 真宗さん 春の七草分布調査について 自然環境観察員 西田 和子さん	平成19年 4月15日	60人
2	セミの生態と環境について 市立博物館 守屋 博文さん セミの鳴き声調査について 事務局職員	平成19年 6月24日	43人
3	津久井地域の自然環境調査（動物調査）の結果について アジア航測株式会社 藤本 真宗さん 平成19年度の活動結果について 事務局職員 平成20年度の調査対象種について 事務局職員	平成20年 3月2日	43人

## 第2章 身近な生きもの調査

### 1 全体テーマ調査

#### 1. 1 調査区域とテーマの選定

相模原市は、平成18年3月に津久井町、相模湖町と、19年3月に城山町、藤野町と合併し、市の西部には県民の水がめである相模湖、津久井湖などの湖や緑豊かな自然環境を有しています。

自然環境観察員制度は、10年度から12年度までに行われた旧相模原市域の自然環境基礎調査結果が反映された相模原市環境基本計画（13年3月策定）に基づき運営していることから、19年度の本制度における身近な生きもの調査も、旧相模原市域を中心に実施することにしました。

全体テーマ調査では、従来のとおり、旧相模原市内を500×500mのメッシュに区分し、担当のメッシュを決め、このメッシュを単位として生きもの調査を行い、調査結果をとりまとめました。（図1-1・表1-1参照）

19年度の調査テーマは、制度が発足した13年度から調査してきた指標動植物種を18年度から追跡調査していることなどから、14年度に調査を行った「春の七草分布調査」と「セミの鳴き声調査」といたしました。



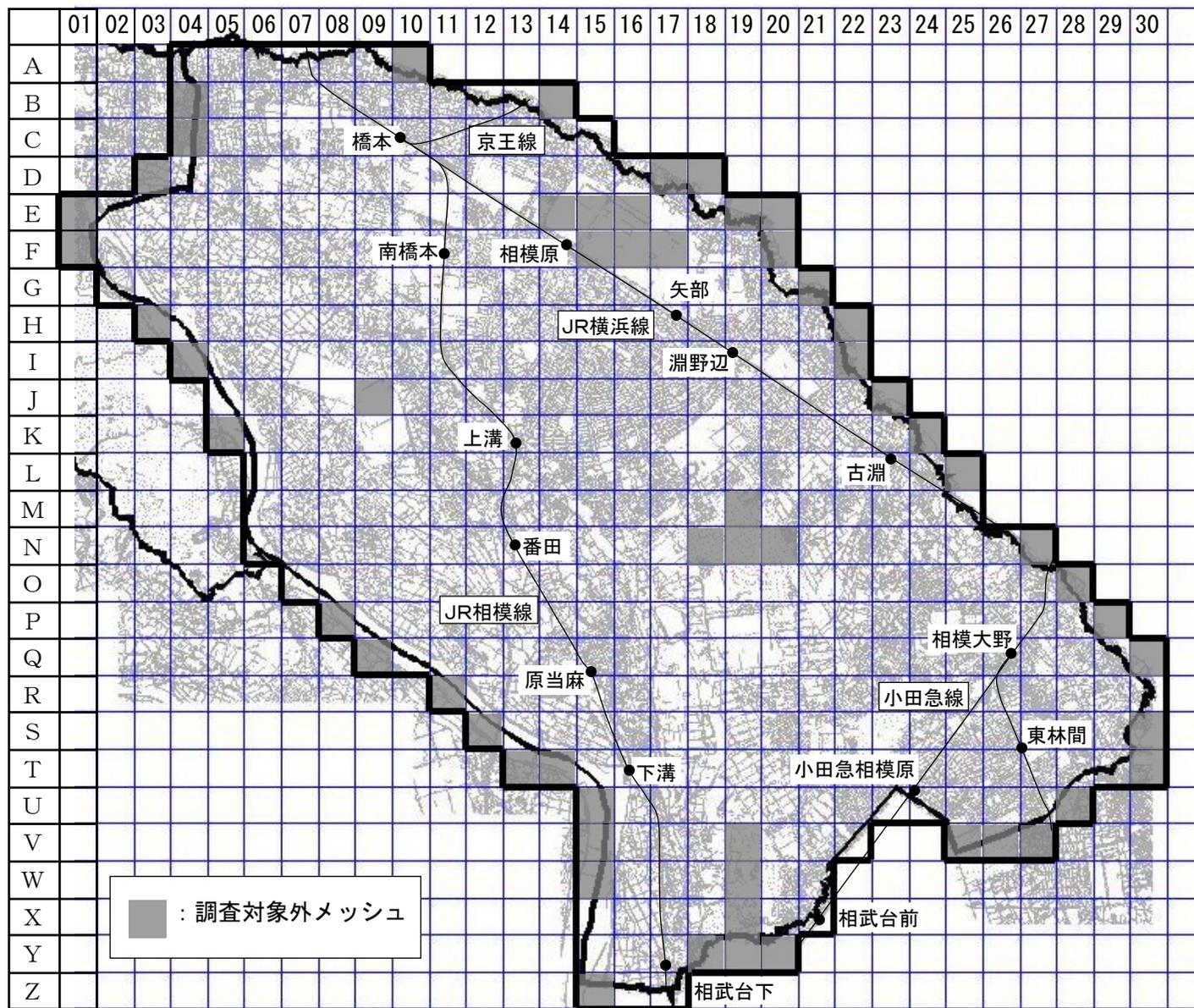


図 1-1  
メッシュ見取り図

表1-1 メッシュ目印一覧

メッシュ番号	目 印	メッシュ番号	目 印
A04	華蔵院、森下バス停	D14	すすきの町、こばと児童館
A05	相原当麻田自治会館、相原保育園	D15	宮下本町1丁目、補給廠北側
A06	当麻田小学校西側、新町幼稚園	D16	補給廠北側
A07	当麻田小学校東側、JR 横浜線	E02	カインズホーム南側
A08	元橋本町交差点、相模原インドアテニス	E03	大島、井上養鶏場、スリーエフ
A09	瑞光寺、橋本本町バス停	E04	県営大島団地、市営上九沢住宅
B05	相原小学校	E05	下九沢内出交差点
B06	星の子保育園、新日鐵エンジニアリング	E06	職業能力開発総合大学校
B07	相原中学校、大和製罐	E07	相模原北公園、北清掃工場
B08	橋本高校、橋本郵便局	E08	橋本台収集事務所
B09	旭小学校	E09	橋本自動車学校
B10	北消防署、橋本4丁目市街地住宅	E10	国道16号、129号、セントラル自動車
B11	宮上小学校東側、蓮乗院	E11	小山小学校、大河原陸橋
B12	東橋本ひまわり保育園	E12	小山2丁目 たけのこ保育園
B13	境川坂本橋、天縛皇神社	E13	向陽小学校西側、矢掛立体交差
C05	二本松こどもセンター	E17	補給廠北側、上矢部1丁目付近
C06	日本板硝子	E18	上矢部2丁目、御獄神社
C07	ロイヤルホームセンター、大和製罐	F02	諏訪森下橋
C08	北警察署、オラリオンマンション	F03	相模川自然の村、ピレッジ若あゆ
C09	相原高校、協同病院	F04	大島幼稚園、長徳寺
C10	JR橋本駅	F05	大島小学校、相模原総合高校
C11	相模原みどり幼稚園	F06	相模原総合高校東側
C12	東橋本2丁目交差点、田村電機製作所	F07	六地藏交差点
C13	小山白ゆり幼稚園	F08	上中の原団地、フードワン
C14	宮下本町2丁目、境川昭和橋	F09	橋本ゴルフセンター
C15	宮下本町1丁目、境川小山橋	F10	柴胡ヶ原墓地、東プレグランド
D04	二本松保育園	F11	JR南橋本駅
D05	内出中学校北側、湘北病院	F12	ホームセンターコーナン東側
D06	職業能力開発総合大学校	F13	氷川神社東側
D07	峡の原工業団地	F14	JR相模原駅
D08	ホームセンターくろがねや	F18	補給廠東北側、富士工業
D09	国道16号、東京電力橋本変電所	F19	相模つばさ幼稚園
D10	旭中学校	G02	相模川、諏訪森下頭首工
D11	小山公園スポーツ広場	G03	神奈川県内水面試験場
D12	宮下1丁目、協栄産業前バス停	G04	老人福祉センター溪松園
D13	三菱電機	G05	ロシナンテ、井上醬油

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
G06	大沢小学校	I08	三菱重工業北門
G07	九沢小学校、大沢中学校	I09	田名葛輪、NTT田名電話交換センター
G08	大沢団地、いなげや	I10	てるて幼稚園
G09	塚場交差点	I11	横山小学校
G10	国道129号、日電寮バス停	I12	横山公民館
G11	日本電気橋本技術センター、JR相模線	I13	相模原高校
G12	清新6丁目付近、清新小学校西側	I14	JA農協会館
G13	清新小学校	I15	税務署、相模原中央病院
G14	ダイエー、さがみ夢大通りバス停	I16	富士見小学校
G15	相模原4~6丁目付近	I17	国道16号鹿沼台交差点
G16	伊藤病院、補給廠	I18	鹿沼公園、市立図書館
G17	上矢部団地、麻布大学西側	I19	共和中学校、JR淵野辺駅
G18	麻布大学、麻布大淵野辺高校	I20	淵野辺5丁目、青山学院大学
G19	大野北中学校	I21	淵野辺本町4丁目 皇武神社
G20	日枝神社、境川宮前橋	J05	相模川、神沢不動尊
H04	大島、相模川	J06	清岩寺、古清水自治会館
H05	大島交差点、法性寺	J07	三菱重工業南側
H06	日々神社、相和病院	J08	三菱重工業南門
H07	JA営農センター	J10	国道129号、鳩川、四ッ谷児童館
H08	明神平自治会こども広場、田名葛輪	J11	上溝1丁目、横山丘陵緑地(蛭沢地区)
H09	九沢橋、金泉寺	J12	横山公園、よこやま幼稚園、日金沢橋
H10	下九沢団地	J13	さがみはらグリーンプール
H11	昭和電線ケーブルシステム	J14	星が丘1丁目、横山歩道橋
H12	小町通2丁目、清新学校給食センター	J15	千代田5丁目付近
H13	清新中学校	J16	千代田4丁目、千代田保育園
H14	相模原消防署	J17	市営東団地、弥栄郵便局
H15	相模原市役所	J18	国道16号淵野辺十字路
H16	村富神社	J19	国道16号共和4丁目歩道橋、コジマ
H17	JR矢部駅	J20	共和2丁目付近、新田稻荷神社
H18	淵野辺総合病院、矢淵陸橋	J21	カルピス、相模中央自動車学校
H19	淵野辺小学校	J22	東淵野辺2丁目付近、龍像寺
H20	東京電力大野変電所、グルメシティ	K06	清水保育園、清水入口バス停
H21	根岸橋	K07	田名清水、田名ひだまり公園
I05	神沢スポーツ広場、神沢不動尊	K08	田名四ッ谷自治会子ども広場
I06	水場バス停	K09	新キャタピラー三菱西側
I07	三菱重工業西側	K10	国道129号、新キャタピラー三菱

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
K11	鳩川幼稚園、市営鳩川住宅	M10	相模田名高校
K12	上溝本町交差点、姥川橋	M11	新宿小学校
K13	JR上溝駅、上溝中学校	M12	上溝南中学校
K14	星が丘小学校	M13	南上溝保育園、亀ヶ池八幡宮
K15	OKストア	M14	道保川公園西、丸崎ゴルフ練習場
K16	並木小学校	M15	道保川公園、七曲り、陽光台公民館
K17	弥栄小学校、弥栄中学校	M16	緑が丘中学校北側
K18	市立博物館、宇宙科学研究所	M17	青山学院大学グラウンド
K19	共和小学校南側、由野台中学校	M18	青葉3丁目 青葉の郷
K20	国道16号共和交差点、大野台郵便局	M20	相模原ゴルフクラブ入口・大野台中央小
K21	国道16号嶽の内入口付近	M21	相模原養護老人ホーム
K22	たけのうち幼稚園、淵野辺東小学校	M22	大野台小学校
K23	古淵1丁目、淵野辺東小学校東側	M23	南消防署大沼分署
L06	相模川（右岸に葉山島青少年広場）	M24	市営斎場
L07	堀の内交差点、田名北ふれあい広場	M25	古淵鶴野森公園、グリーンハイツ
L08	田名北小学校	N06	田名八幡宮、相模川小沢頭首工
L09	八千代銀行田名支店	N07	水郷田名団地、高田橋
L10	田名工業団地入口バス停	N08	田名半在家・田名陽原、南光寺
L11	上溝高校南側、石橋自治会館	N09	田名テラス、田名団地
L12	上溝小学校、ちとせ橋交差点	N10	田名バーディゴルフ
L13	全農ミート	N11	田名新宿
L14	陽光台小学校	N12	国道129号上溝南中学校信号
L15	陽光園、光が丘小学校	N13	JR番田駅
L16	青葉小学校、県営上溝団地	N14	安楽寺、上溝南こどもセンター
L17	弥栄高校、相模原球場	N15	上溝虹吹、清泉の郷
L18	銀河アリーナ、淵野辺公園	N16	緑が丘中学校、消防署緑が丘分署
L19	由野台中学校南側、松が丘2丁目交差点	N17	相模原浄水場
L20	大野台中央小学校北側、凸版印刷	N21	大野台8丁目、木もれびの森
L21	大野台公民館	N22	大野台中学校
L22	シマチュウホームセンター、ジャスコ	N23	慰霊塔、相模ひまわり幼稚園
L23	JR古淵駅、イトーヨーカドー	N24	相模原南警察署
L24	JR横浜線古淵陸橋	N25	鶴野森中学校
M06	田名幼稚園	N26	鶴野森団地、幸延寺
M07	相模川ふれあい科学館	O07	相模川高田橋
M08	田名小学校、田名中学校	O08	望地弁天キャンプ場
M09	相模田名高校西側、たんぽぽの家	O09	バス折返場（望地キャンプ場入口）

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
○10	田名聖地霊園	P27	谷口幼稚園、谷口中学校北側
○11	田名塩田4丁目 東急建設工場	P28	谷口小学校
○12	テクノパル田名工業団地	Q10	相模川（望地キャンプ場下流）
○13	上溝南高校	Q11	スーパーアルプス、田名病院
○14	上溝南小学校南側、諏訪神社	Q12	JA緑化センター
○15	姥川中ノ虹橋、山谷バス停	Q13	夢の丘小学校、当麻市場交差点
○16	下溝古山公園スポーツ広場	Q14	光明学園相模原高校、相模原養護学校
○17	神奈川中央交通麻溝操車場	Q15	JR原当麻駅北側、スーパー三和
○18	北里大学	Q16	姥川下原橋（横浜水道道）
○19	麻溝台高校	Q17	県立相模原公園
○20	北里2丁目、相模原ゴルフクラブ	Q18	県立相模原公園
○21	木もれびの森、大野台8丁目バス停	Q19	麻溝台工業団地、KYB
○22	西大沼3丁目、4丁目付近、大沼変電所	Q20	麻溝台2丁目、ニコン
○23	大沼小学校、大沼神社、大沼公民館	Q21	麻溝台中学校
○24	老人福祉センター若竹園	Q22	双葉小学校
○25	若松小学校	Q23	御園東ふれあい広場
○26	鶴野森3丁目付近 鹿島台小学校	Q24	谷口台小学校
○27	鹿島台小学校	Q25	市南合同庁舎、ロビーシティ
P09	田名望地、望地の渡し	Q26	小田急相模大野駅、伊勢丹
P10	リバーサイド田名ホーム	Q27	相模大野病院、谷口中学校
P11	カインズホーム、塩田さくら橋	Q28	鶴園小学校北側、稲荷神社
P12	テクノパイル田名工業団地、塩田ホーム	Q29	上鶴間本町8丁目付近 上鶴間橋
P13	塩田原交差点、東京電力北相模変電所	R12	相模川、相模原ポンプ場
P14	東京電力北相模変電所、スーパーなかや	R13	如来堂、無量光寺
P15	当麻 あざみがや交差点	R14	当麻東原公園、水田
P16	当麻 上中丸交差点	R15	麻溝小学校
P17	相模原沈殿池	R16	天応院
P18	北里大学病院	R17	麻溝公園スポーツ広場
P19	麻溝台高校	R18	麻溝公園
P20	北里大学東病院	R19	総合体育館南側
P21	相模台収集事務所、木もれびの森	R20	麻溝台保育園
P22	グレーブの里、大沼交差点	R21	顕正寺、ひかり幼稚園
P23	大沼小学校南側、若松郵便局	R22	御園4、5丁目、ふれあいの森
P24	神奈川総合産業高校、相模女子大学	R23	みゆき台団地バス折返所
P25	大野南中学校、相模大野高校	R24	豊町、黒河内病院
P26	相模大野中央公園、国道16号谷口陸橋	R25	県高相合同庁舎、プラザシティ

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
R26	新町中学校北側	T29	くぬぎ台保育園、深堀ポンプ場
R27	消防上鶴間分署、南大野幼稚園	U16	三段の滝下広場
R28	上鶴間公民館、大野小学校	U17	相陽中学校、誠心相陽幼稚園
R29	鶴園小学校南側、長島神社	U18	勝坂歴史公園スポーツ広場
R30	中和田幼稚園、上鶴間高校	U19	新磯野、相武台中学校北側
S13	昭和橋上流河川敷	U20	もえぎ台小学校、相武台高校
S14	昭和橋スポーツ広場	U21	相武台団地
S15	水田、八景の棚	U22	相模台3・4丁目
S16	姥川谷戸橋、上谷開戸橋	U23	相模台2丁目、(座間市相模が丘)
S17	相陽台ホーム、相模が丘病院	U24	小田急相模原駅、相南4丁目
S18	廃棄物処分場	U25	東海大相模高校
S19	小松会病院	U26	消防東林分署
S20	若草小学校、消防麻溝台分署	U27	東林間8丁目付近
S21	桜台小学校、相模台中学校、国立病院	V16	磯部頭首工公園、郷土民族資料館
S22	相模台小学校	V17	消防新磯分署、磯部八幡宮、勝坂遺跡
S23	南台4丁目、上鶴間(米軍住宅)	V18	磯部2114付近 勝源寺
S24	南台郵便局、コナミスポーツクラブ	V20	相武台グリーンパーク
S25	鶴の台小学校	V21	相武台小学校
S26	森下記念病院	V22	行幸道路、村富線交差付近
S27	くぬぎ台小学校	W16	能徳寺、御嶽神社
S28	相模林間幼稚園	W17	新磯小学校、新磯保育園
S29	住宅展示場、上鶴間高校南側	W18	新戸、米軍キャンプ
T15	相模川 光明学園野球場	W20	緑台小学校、新磯野郵便局
T16	JR下溝駅	W21	相武台出張所
T17	相陽中学校、大下坂	X15	相模川
T18	峰山霊園、勝坂青少年広場	X16	新戸、水田
T19	新磯野、峰山霊園入口交差点	X17	新磯出張所、れんげの里あらいそ
T20	若草中学校	X18	新磯高校
T21	相模台団地	X20	キャンプ座間No4ゲート
T22	相模台出張所	X21	小田急相武台前駅
T23	鶴ヶ丘団地	Y15	新戸スポーツ広場北側
T24	松が枝公園、小田急線	Y16	新戸、泰成建工
T25	東林保育園	Y17	JR相模線相武台下駅、長松寺、
T26	東林出張所、東林小学校	Z16	JR相武台下駅西側地域、水田
T27	東芝林間病院	Z17	JR相武台下駅南側
T28	上鶴間中学校		

## 1. 2 春の七草分布調査

### (1) 調査期間

平成19年4月15日～6月13日（設定期間4月15日～5月31日）

### (2) 調査方法

担当メッシュの中央部半径約50mの円内の道ばた、水田、畑など「春の七草」が生えていそうな場所を歩き、春の七草（対象種はセリ、ナズナ、ハハコグサ、ハコベ、コオニタビラコの5種）を探しました。

見つけた春の七草については、種名と生育していた環境を記録しました。

### (3) 調査対象メッシュ

市内の総メッシュ数は417ですが、平成14年度、19年度調査で調査したメッシュは次のとおりです。

表1-2-1 調査メッシュ数

	調査メッシュ	未調査メッシュ	調査対象外メッシュ	総メッシュ
H14	301	47	69	417
H19	329	30	58	417



(4) 調査結果

①春の七草の確認状況

表1-2-2 春の七草の確認状況

		確認メッシュ		未確認メッシュ		合計	
		メッシュ数	割合	メッシュ数	割合	メッシュ数	割合
セリ	H14	16	5.3%	285	94.7%	301	100%
	H19	34	10.3%	295	89.7%	329	100%
	増減	18	5.0	10	-5.0	28	-
ナズナ	H14	162	53.8%	139	46.2%	301	100%
	H19	228	69.3%	101	30.7%	329	100%
	増減	66	15.5	-38	-15.5	28	-
ハハコグサ	H14	193	64.1%	108	35.9%	301	100%
	H19	274	83.3%	55	16.7%	329	100%
	増減	81	19.2	-53	-19.2	28	-
ハコベ	H14	212	70.4%	89	29.6%	301	100%
	H19	235	71.4%	94	28.6%	329	100%
	増減	23	1.0	5	-1.0	28	-
コオニタビラコ	H14	51	16.9%	250	83.1%	301	100%
	H19	55	16.7%	274	83.3%	329	100%
	増減	4	-0.2	24	0.2	28	-

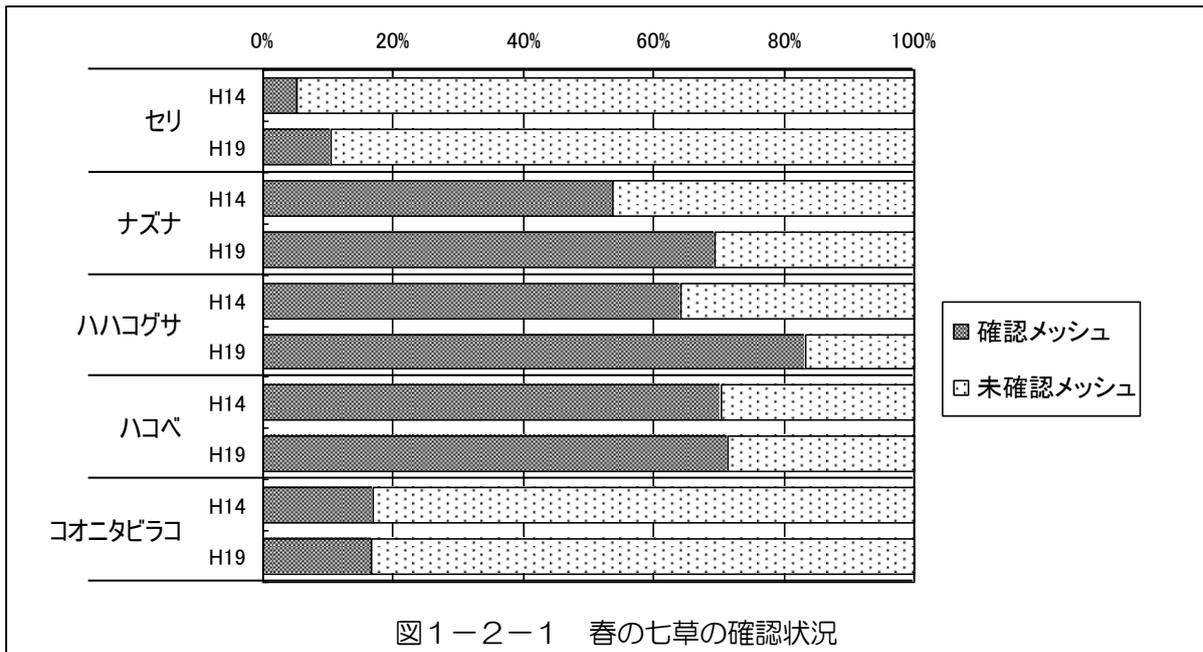


図1-2-1 春の七草の確認状況

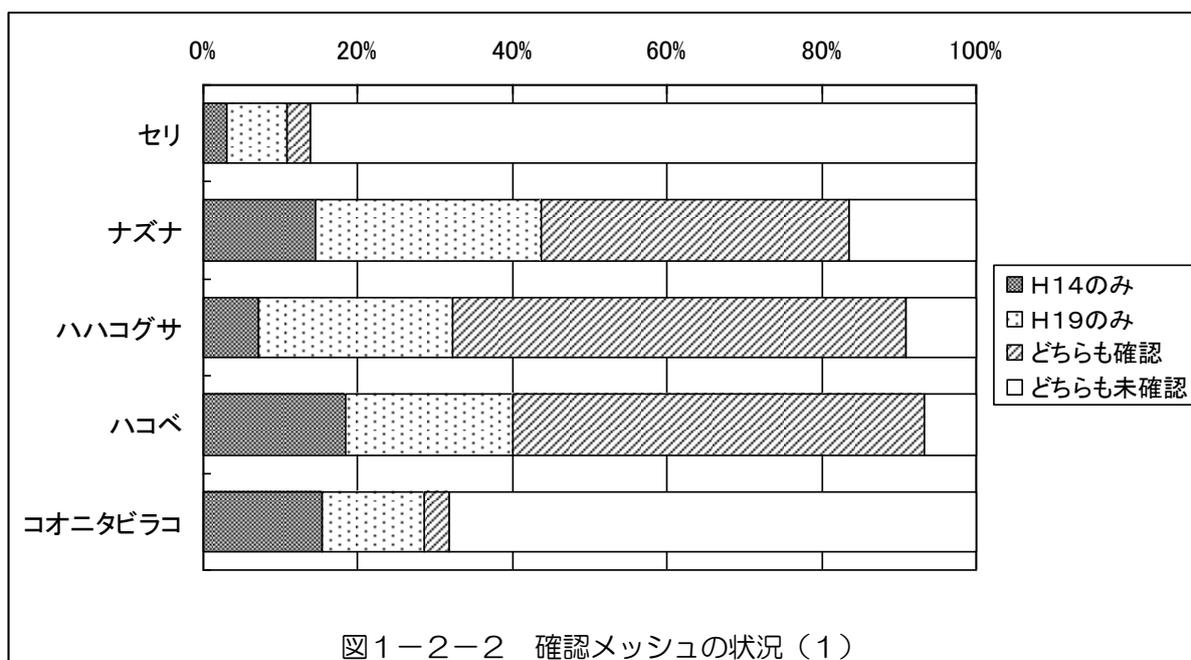
②確認メッシュの状況（１）

平成14年度と19年度の両年度で調査が実施された267メッシュにおける確認メッシュの状況は表1-2-3のとおりです。

※総メッシュ417のうち、次のものを除きました。H14未調査メッシュ47・調査対象外メッシュ69、H19未調査メッシュ30・調査対象外メッシュ58。

表1-2-3 確認メッシュの状況（1）

	H14のみ 確認	H19のみ 確認	どちらも 確認	どちらも 未確認	合計
セリ	8	21	8	230	267
	3.0%	7.9%	3.0%	86.1%	100%
ナズナ	39	78	106	44	267
	14.6%	29.2%	39.7%	16.5%	100%
ハハコグサ	19	67	157	24	267
	7.1%	25.1%	58.8%	9.0%	100%
ハコベ	49	58	142	18	267
	18.4%	21.7%	53.2%	6.7%	100%
コオニタビラコ	41	35	9	182	267
	15.4%	13.1%	3.4%	68.2%	100%



③確認メッシュの状況（２）

②確認メッシュの状況（１）のうち、調査対象種を確認できたメッシュのみで比較した状況は表１－２－４のとおりです。

表１－２－４ 確認メッシュの状況（２）

	H14のみ確認	H19のみ確認	どちらも確認	合計
セリ	8	21	8	37
	21.6%	56.8%	21.6%	100%
ナズナ	39	78	106	223
	17.5%	35.0%	47.5%	100%
ハハコグサ	19	67	157	243
	7.8%	27.6%	64.6%	100%
ハコベ	49	58	142	249
	19.7%	23.3%	57.0%	100%
コオニタビラコ	41	35	9	85
	48.2%	41.2%	10.6%	100%

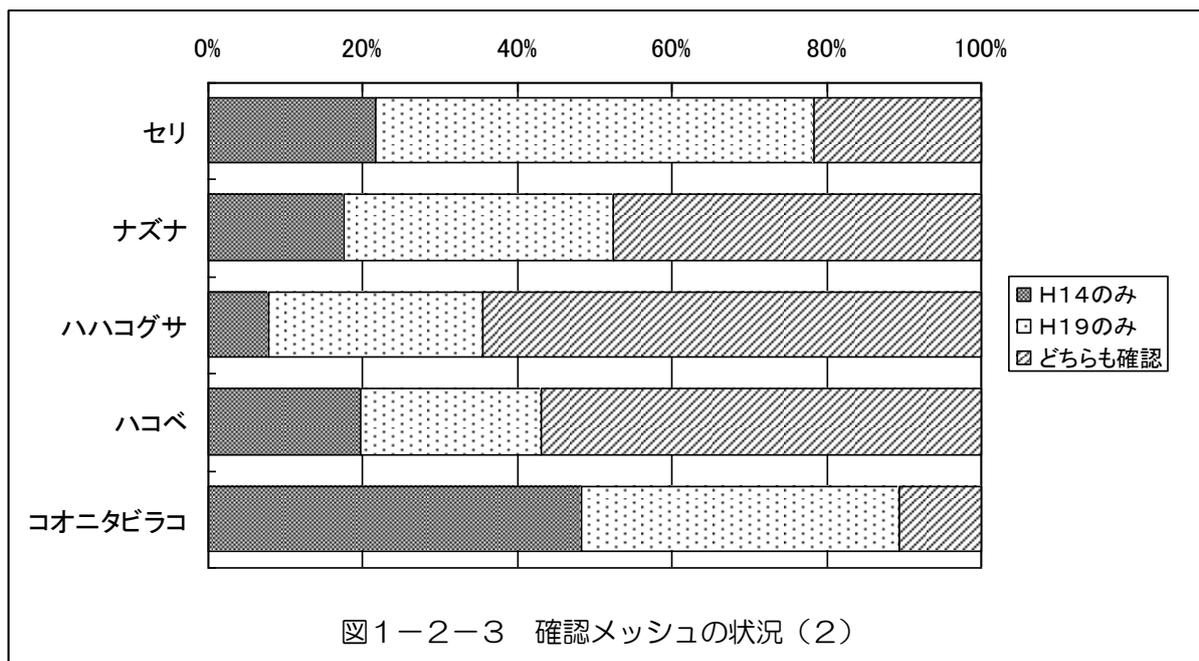


図１－２－３ 確認メッシュの状況（２）

④春の七草の周辺環境

表1-2-5 春の七草の周辺環境

	(舗装道路)	(未舗装道路)	空き地	駐車場	公園・グラウンド	林・森	水田	畑	小さな水路 (幅2M未満)	大きな河川 (相模川・境川など)	その他	未記入	合計
ゼリ	3	4	4	0	0	0	10	4	4	9	2	0	40
	7.5%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	10.0%	10.0%	22.5%	5.0%	0.0%	100%
ナズナ	101	54	72	69	32	3	5	58	1	3	20	2	420
	24.0%	12.9%	17.1%	16.4%	7.6%	0.7%	1.2%	13.8%	0.2%	0.7%	4.8%	0.5%	100%
ハハコグサ	120	66	109	67	43	10	8	61	2	3	50	0	539
	22.3%	12.2%	20.2%	12.4%	8.0%	1.9%	1.5%	11.3%	0.4%	0.6%	9.3%	0.0%	100%
ハコベ	120	62	87	49	34	11	2	59	0	6	28	2	460
	26.1%	13.5%	18.9%	10.7%	7.4%	2.4%	0.4%	12.8%	0.0%	1.3%	6.1%	0.4%	100%
コオニタビラコ	13	9	10	2	6	1	10	3	1	1	5	2	63
	20.6%	14.3%	15.9%	3.2%	9.5%	1.6%	15.9%	4.8%	1.6%	1.6%	7.9%	3.2%	100%

※太枠は種ごとに上位5位までの周辺環境を表しています。

⑤春の七草の分布状況

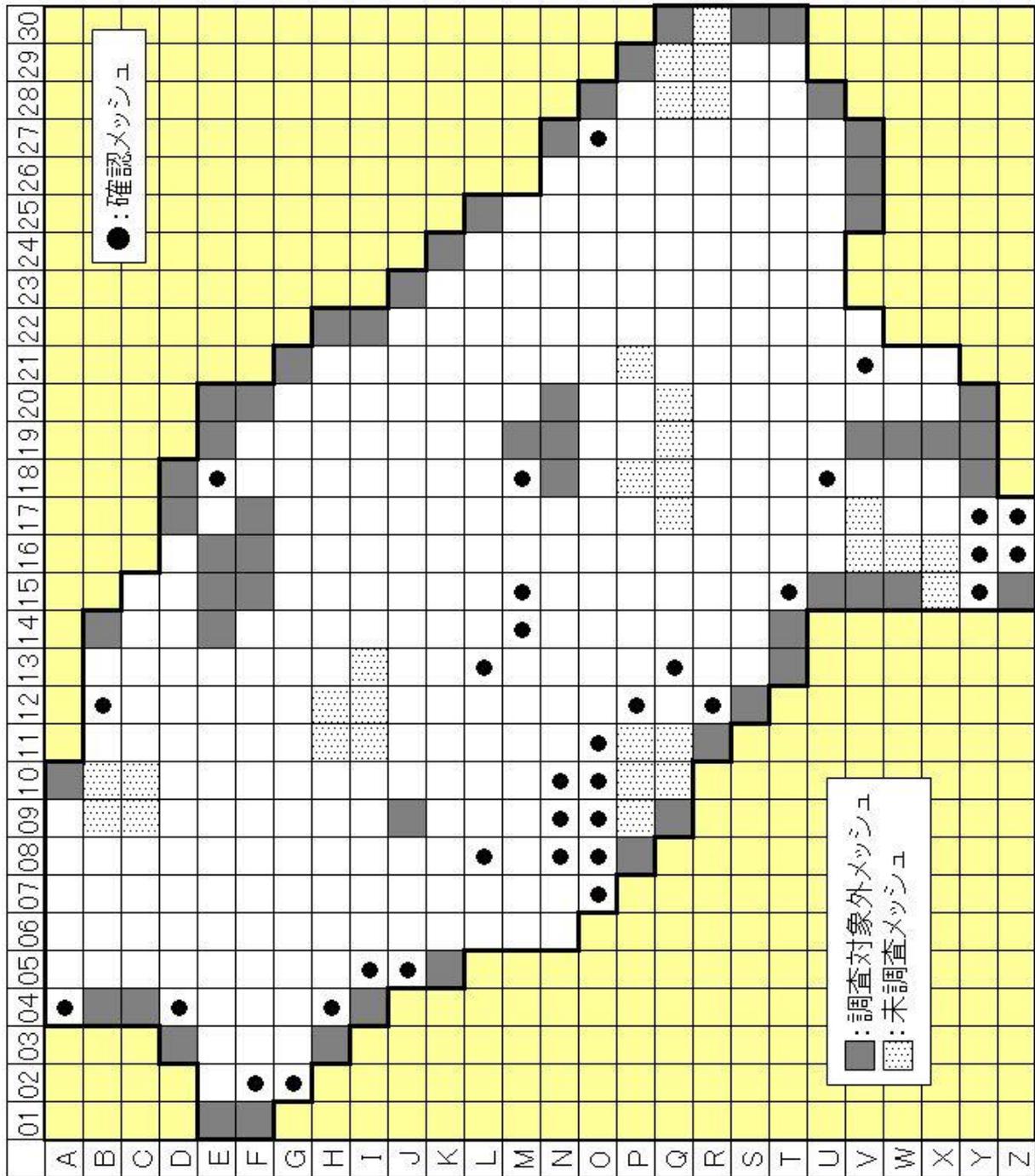


図1-2-4  
平成19年度分布状況(ゼリ)

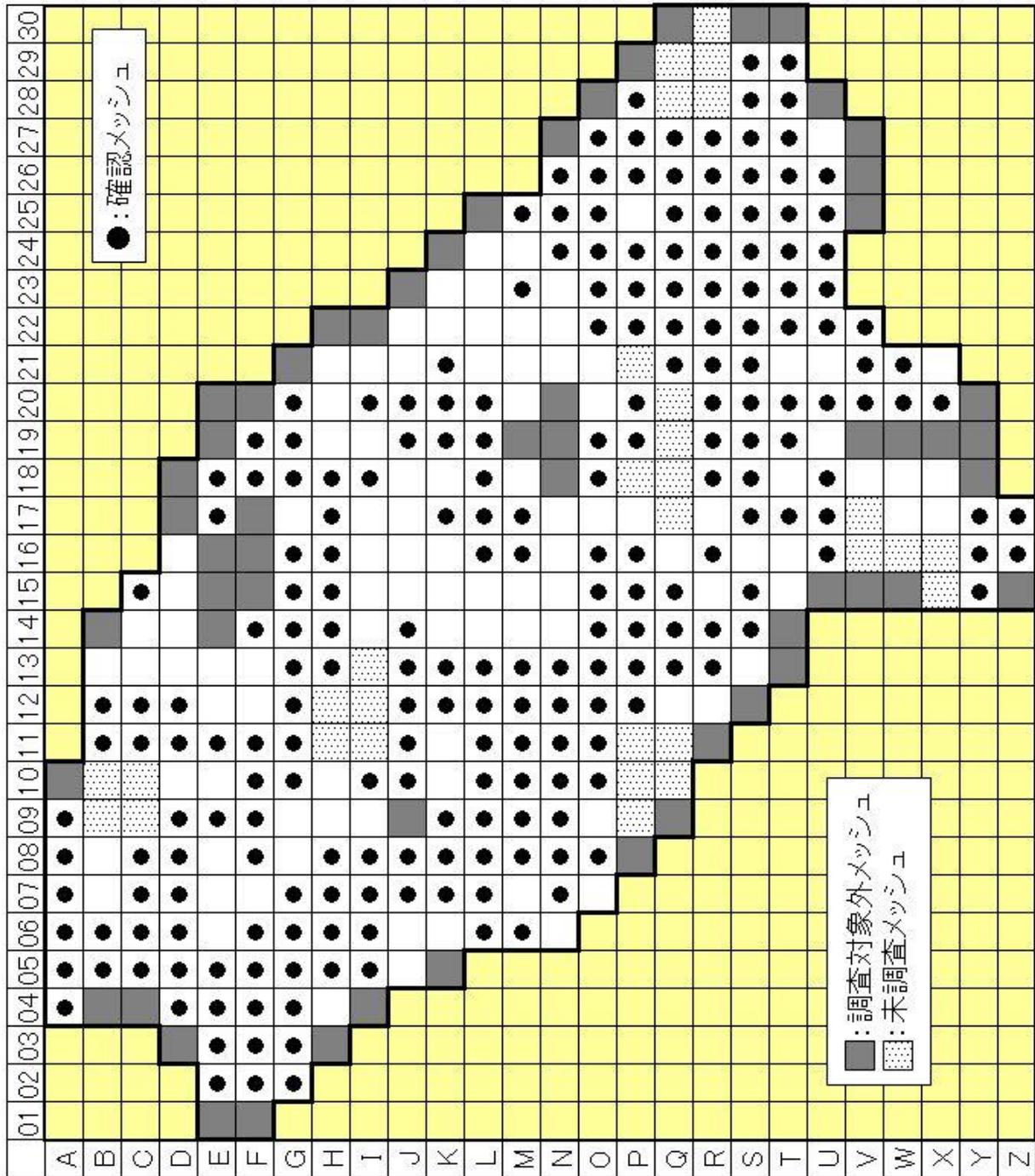


図1-2-5  
 平成19年度分布状況(ナズナ)

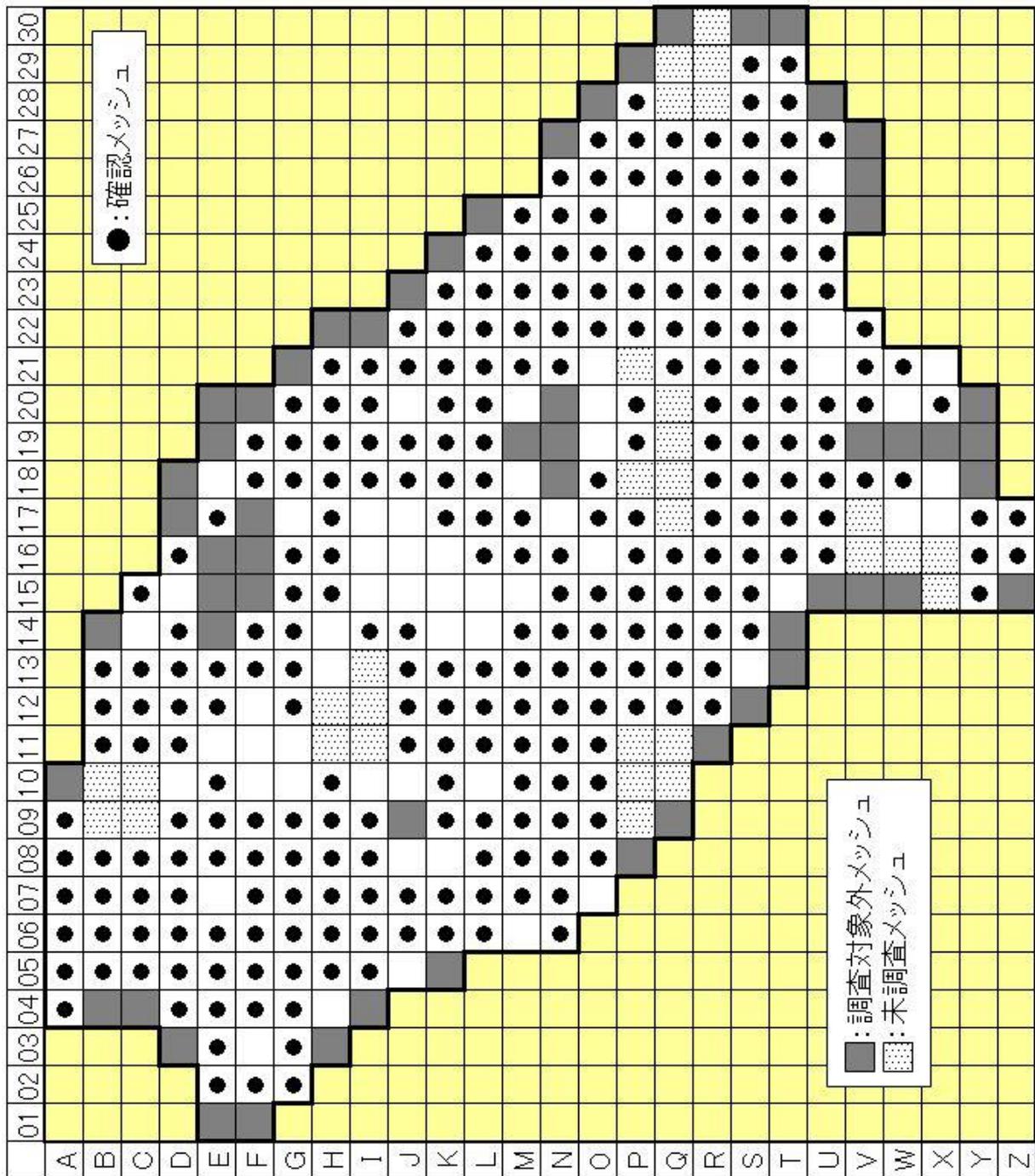


図1-2-6  
平成19年度分布状況(ハハコグサ)

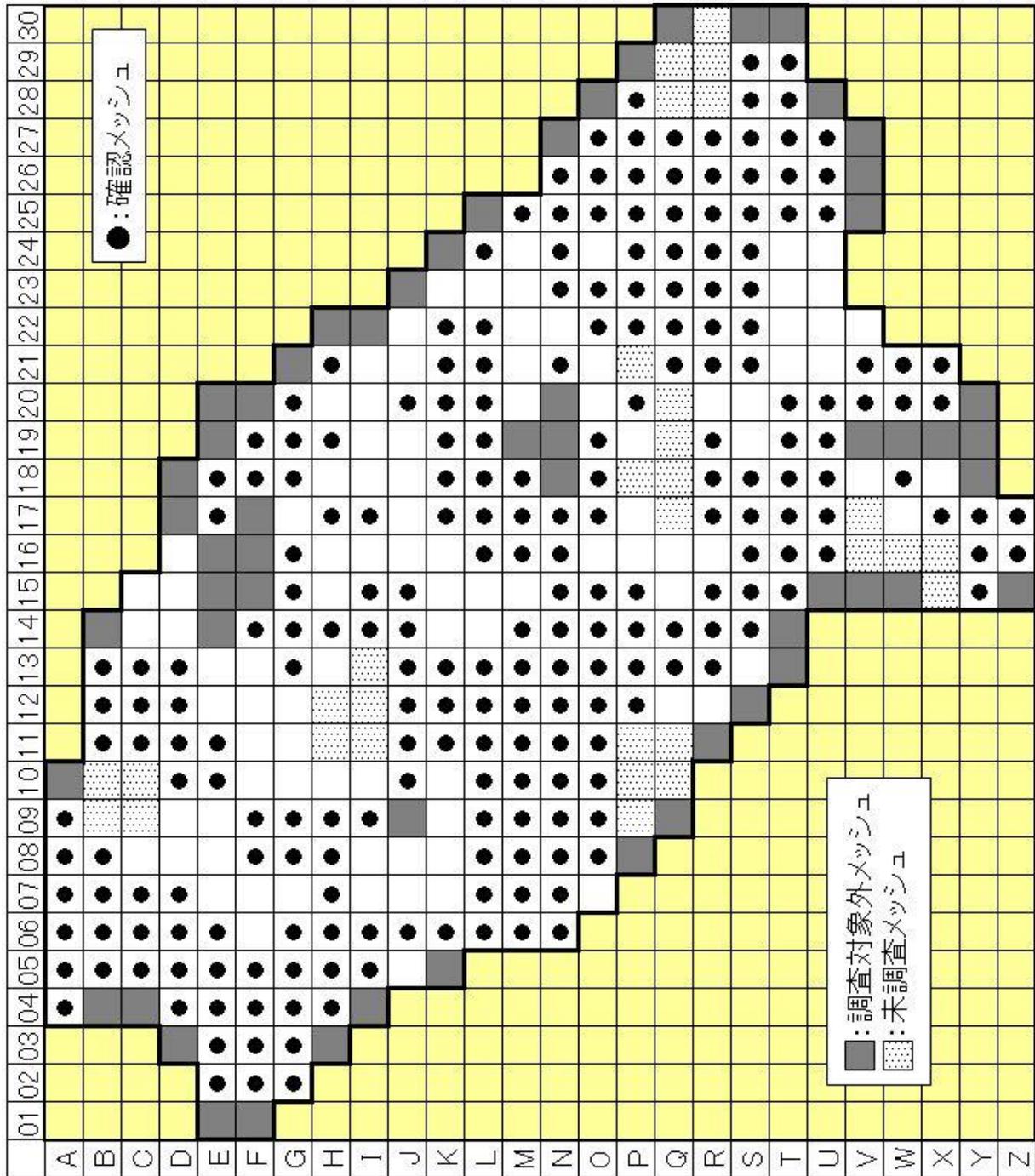


図1-2-7  
 平成19年度分布状況(ハコベ)

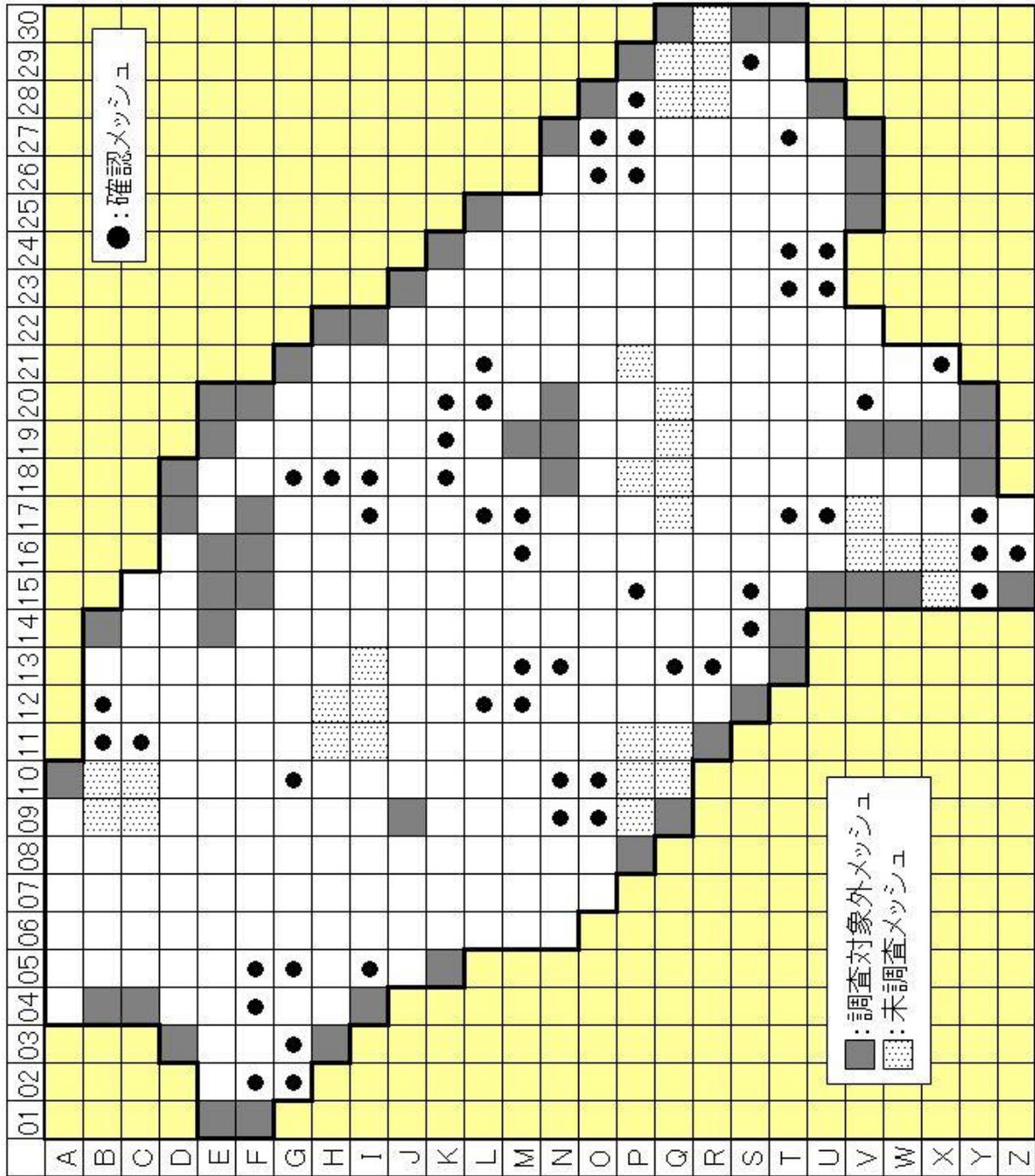


図1-2-8  
平成19年度分布状況(コロナビラコ)

⑥春の七草の平成14年度と19年度の分布状況

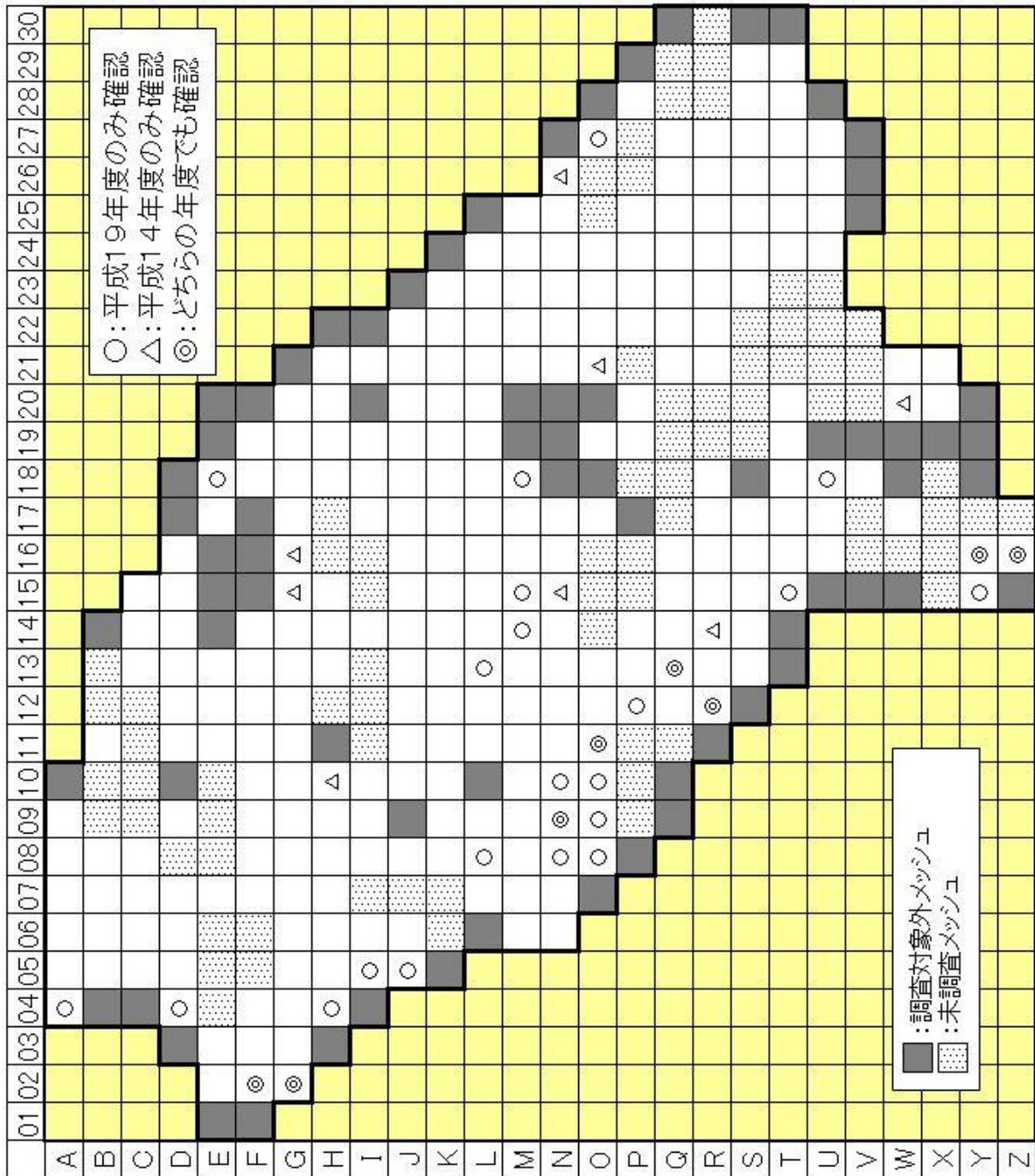


図1-2-9  
平成14・19年度分布状況(セリ)

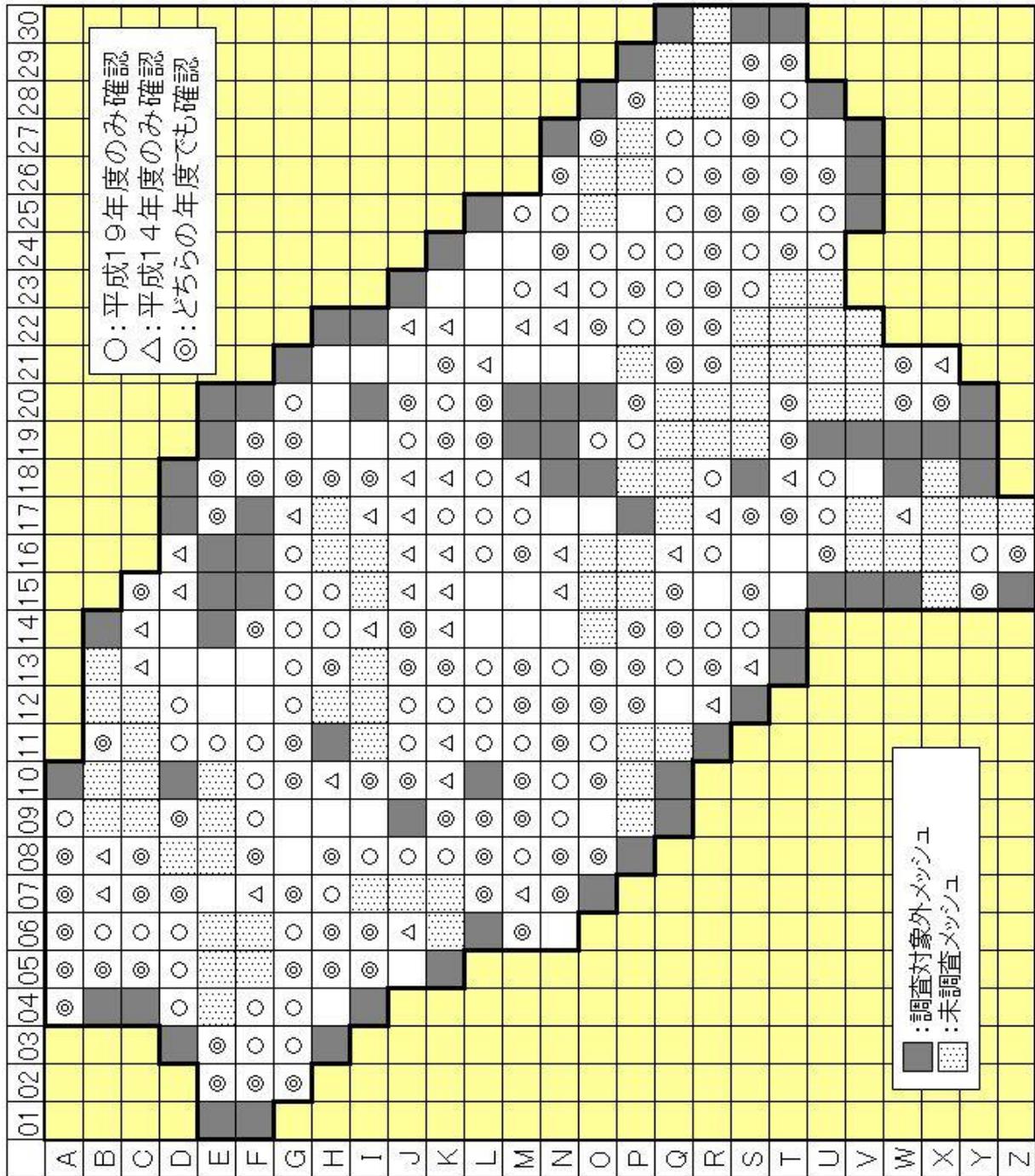


図1-2-10  
 平成14・19年度分布状況(ナズナ)

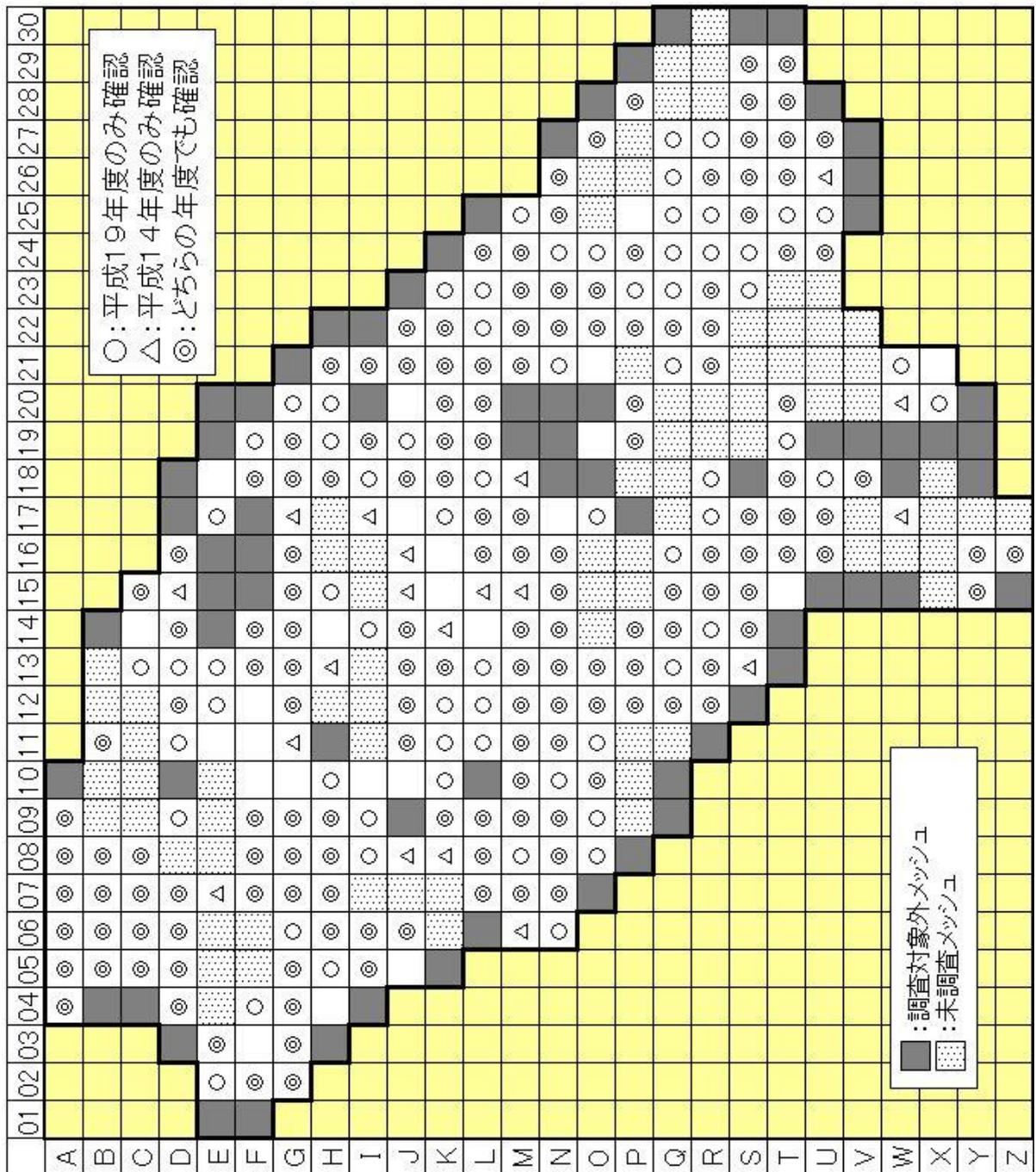


図1-2-11  
 平成14・19年度分布状況(ハハコグサ)

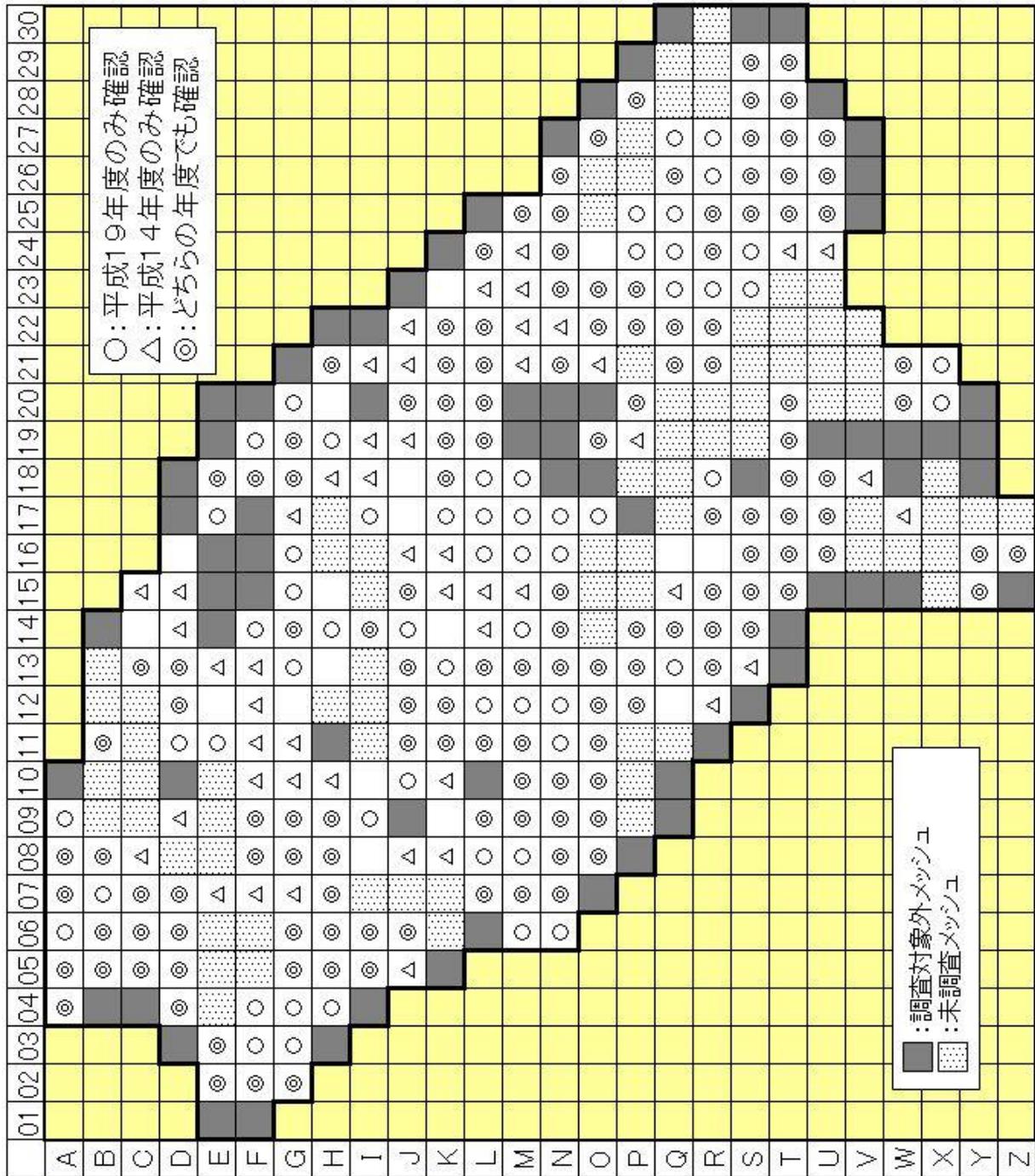


図1-2-12  
 平成14・19年度分布状況(ハコベ)

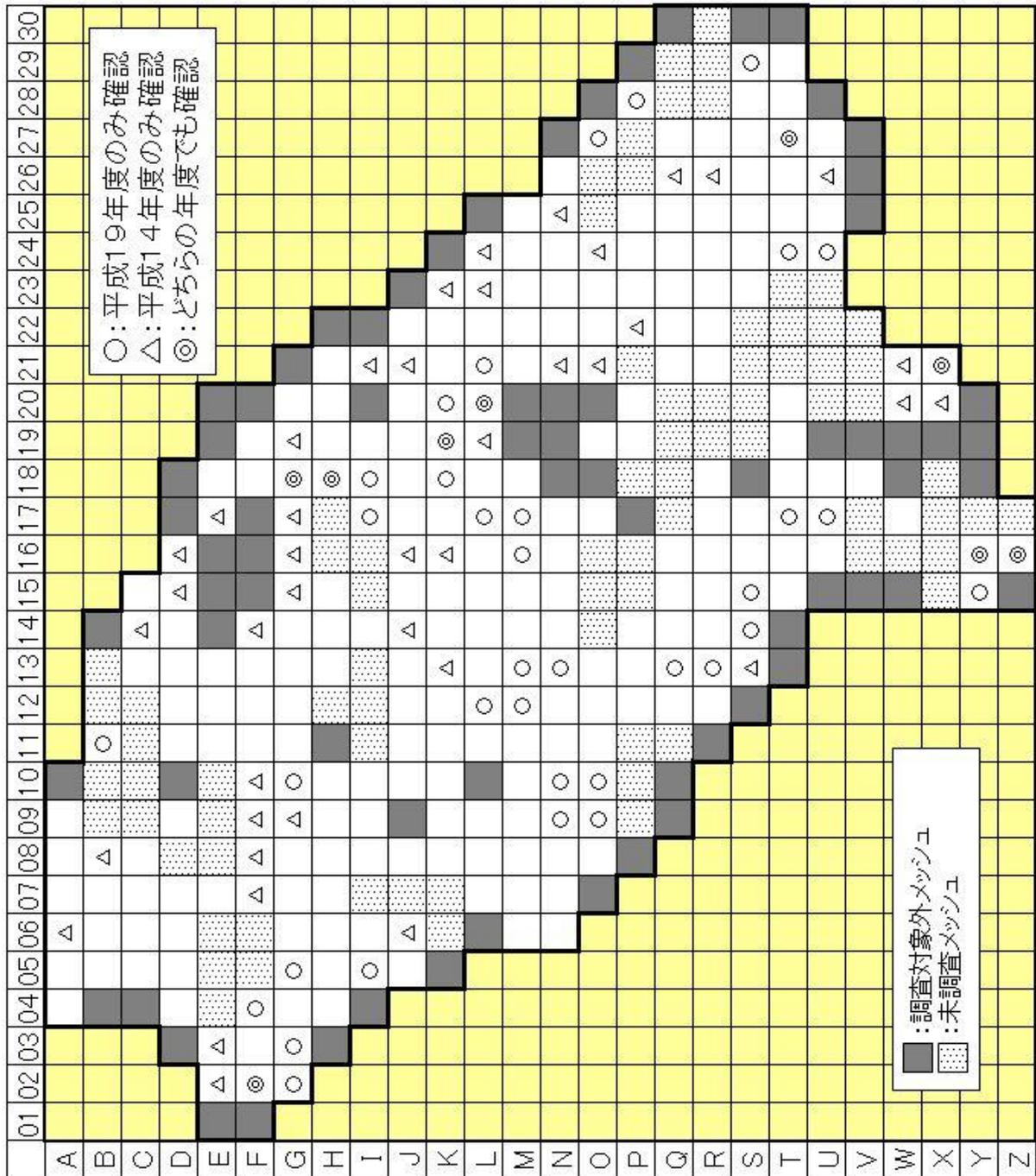


図1-2-13

平成14・19年度分布状況(コオニタピラコ)

## (5) まとめ

### ●概要

調査の対象とした5種のうち、コオニタビラコを除く、セリ、ナズナ、ハハコグサ、ハコベは、確認できたメッシュの割合が平成14年度を上回りました(表1-2-2)。

特にナズナとハハコグサについては確認メッシュ数が大幅に増加しています。セリ、ハコベ、コオニタビラコについては、あまり大きな変化は見られませんでした。

ナズナ、ハハコグサ、ハコベについては、14年度と同様、旧相模原市域に広範囲に分布していることが確認できました(図1-2-5~7)。

### ●周辺環境について

ナズナ、ハハコグサ、ハコベは道路脇、空き地、駐車場、畑などで比較的多く見られ、セリは水田や河川など湿った場所を好む傾向が見られました。特に目立つ点として、湿地を好むとされるコオニタビラコが道路脇でも多く見られています(表1-2-5)。

### ●経年変化について

14年度と比較して、コオニタビラコを除く4種において、確認されたメッシュの割合が増加していますが、種によってその状況が異なります(表1-2-2)。

セリは5.0ポイント増加していますが、確認できたメッシュは10%程度と、分布が限られています。ナズナは15.5ポイント、ハハコグサは19.2ポイントと大幅に増加している上、約70~80%という広い地域で確認されています。ハコベは1.0ポイント増加、確認メッシュは約70%、コオニタビラコは0.2ポイント減少、確認メッシュは約17%と、いずれも前回と似た結果となりました。

また、種ごとに14年度に確認できたメッシュと19年度に確認できたメッシュを比較すると、コオニタビラコ以外の4種は19年度のみ確認されたメッシュが多くなっています(表1-2-3)。

ハハコグサとハコベは、14年度と19年度に同一メッシュで確認された例が多いのに対し、セリとコオニタビラコは同一メッシュでの確認が少なくなっています。ナズナはその中間程度の結果です(表1-2-4)。

### ●結論

ナズナ、ハハコグサ、ハコベが広く分布し、セリ、コオニタビラコの分布が限られているという状況は、14年度と変化がありませんでした。ただし、分布しているメッシュが同じとは限らず、セリとコオニタビラコは、異なったメッシュで見つかる傾向がありました。特にコオニタビラコはその傾向が顕著です。また、ナズナ、ハハコグサは、確認メッシュが大幅に増えていることから、なんらかの環境の変化と関係している可能性があります。今後さらに掘り下げた調査を行うことにより、面白い結果が得られるかも知れません。なお、コオニタビラコについては、一般的な生育環境と異なる環境で多く見られているため、さらに詳しい状況を調査してみる必要があります。

### 1. 3 セミの鳴き声調査

平成14年度の調査と同様に、「セミの分布マップ調査」と「セミの鳴き声カレンダー調査」の2種類を行いました。

#### (1) 調査期間

- ◆セミの分布マップ調査 平成19年7月20日～9月15日  
(設定期間 7月20日～10月15日)
- ◆セミの鳴き声カレンダー調査 平成19年7月20日～10月15日

#### (2) 調査方法

- ◆セミの分布マップ調査  
担当メッシュの中心から半径 50mの円内を目安に歩き、セミの鳴き声のほか姿や抜け殻、確認場所、周辺環境を記録しました。  
調査対象種は、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、クマゼミの6種です。
- ◆セミの鳴き声カレンダー調査  
自宅や職場周辺などでセミの鳴き声を確認した場合に、確認した日付、セミの種類を記録しました。

#### (3) 調査対象メッシュ

市内の総メッシュ数は417ですが、平成14年度、19年度調査で調査したメッシュは次のとおりです。

表1-3-1 調査メッシュ数

	調査メッシュ	未調査メッシュ	調査対象外メッシュ	総メッシュ
H14	256	100	61	417
H19	274	85	58	417

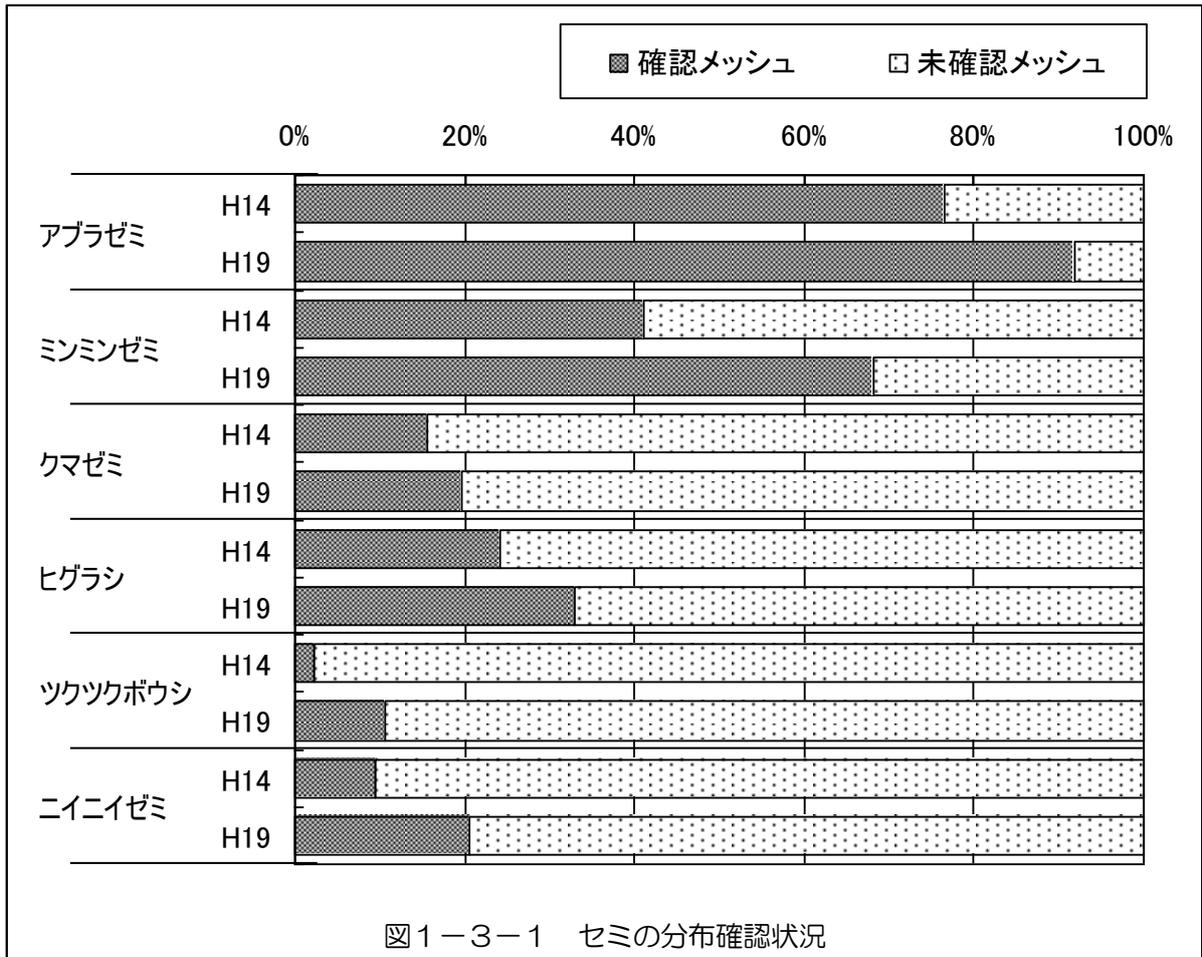
(4) 調査結果

◆セミの分布マップ調査

①セミの分布確認状況

表1-3-2 セミの分布確認状況

		確認メッシュ		未確認メッシュ		合計	
		メッシュ数	割合	メッシュ数	割合	メッシュ数	割合
アブラ ゼミ	H14	196	76.6%	60	23.4%	256	100%
	H19	252	92.0%	22	8.0%	274	100%
	増減	56	15.4	-38	-15.4	18	—
ミンミン ゼミ	H14	105	41.0%	151	59.0%	256	100%
	H19	187	68.2%	87	31.8%	274	100%
	増減	82	27.2	-64	-27.2	18	—
ヒグラシ	H14	40	15.6%	216	84.4%	256	100%
	H19	54	19.7%	220	80.3%	274	100%
	増減	14	4.1	4	-4.1	18	—
ツクツク ボウシ	H14	62	24.2%	194	75.8%	256	100%
	H19	90	32.8%	184	67.2%	274	100%
	増減	28	8.6	-10	-8.6	18	—
クマゼミ	H14	6	2.3%	250	97.7%	256	100%
	H19	29	10.6%	245	89.4%	274	100%
	増減	23	8.2	-5	-8.2	18	—
ニイニイ ゼミ	H14	24	9.4%	232	90.6%	256	100%
	H19	56	20.4%	218	79.6%	274	100%
	増減	32	11.1	-14	-11.1	18	—



ヒグラシ

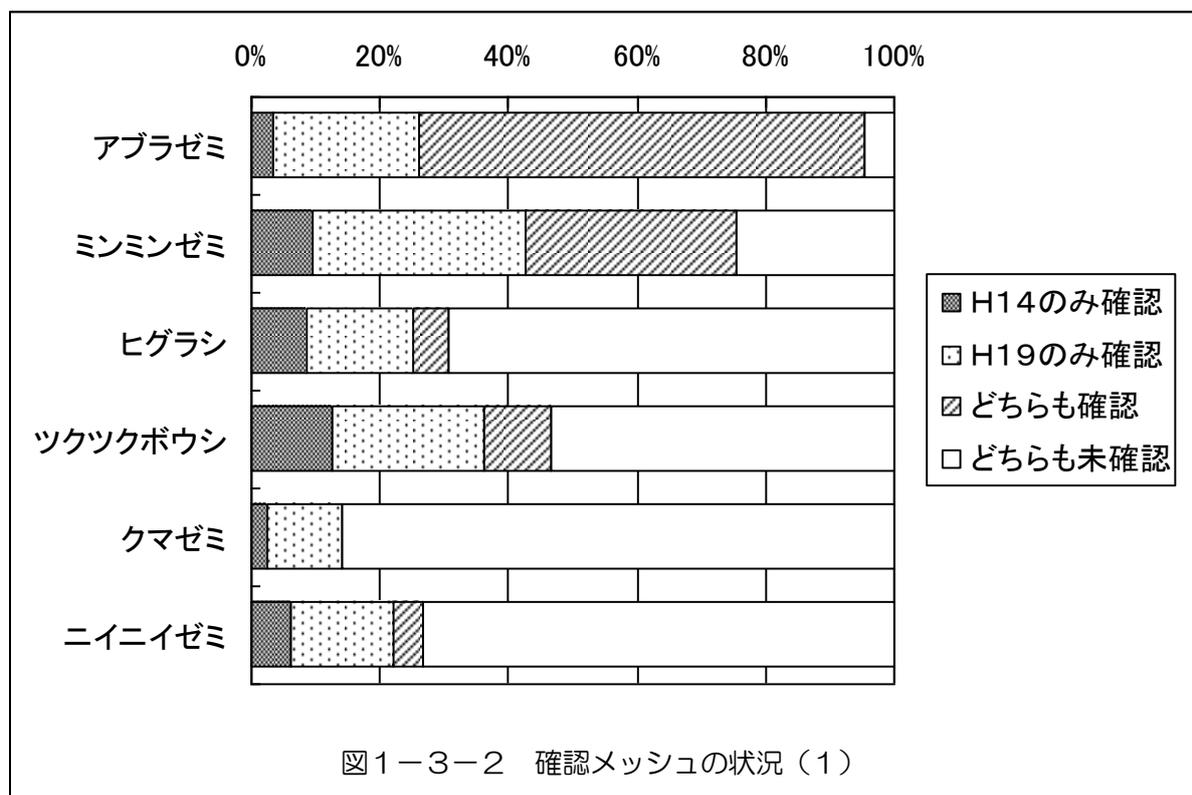
②確認メッシュの状況（１）

平成14年度と19年度の両年度で調査が実施された199メッシュにおける確認メッシュの状況は表1-3-3のとおりです。

※総メッシュ417のうち、次のものを除きました。H14未調査メッシュ100・調査対象外メッシュ61、H19未調査メッシュ85・調査対象外メッシュ58。

表1-3-3 確認メッシュの状況（1）

	H14のみ 確認	H19のみ 確認	どちらも 確認	どちらも 未確認	計
アブラゼミ	7	45	138	9	199
	3.5%	22.6%	69.3%	4.5%	100%
ミンミンゼミ	19	66	65	49	199
	9.5%	33.2%	32.7%	24.6%	100%
ヒグラシ	17	33	11	138	199
	8.5%	16.6%	5.5%	69.3%	100%
ツクツクボウシ	25	47	21	106	199
	12.6%	23.6%	10.6%	53.3%	100%
クマゼミ	5	23	0	171	199
	2.5%	11.6%	0.0%	85.9%	100%
ニイニイゼミ	12	32	9	146	199
	6.0%	16.1%	4.5%	73.4%	100%

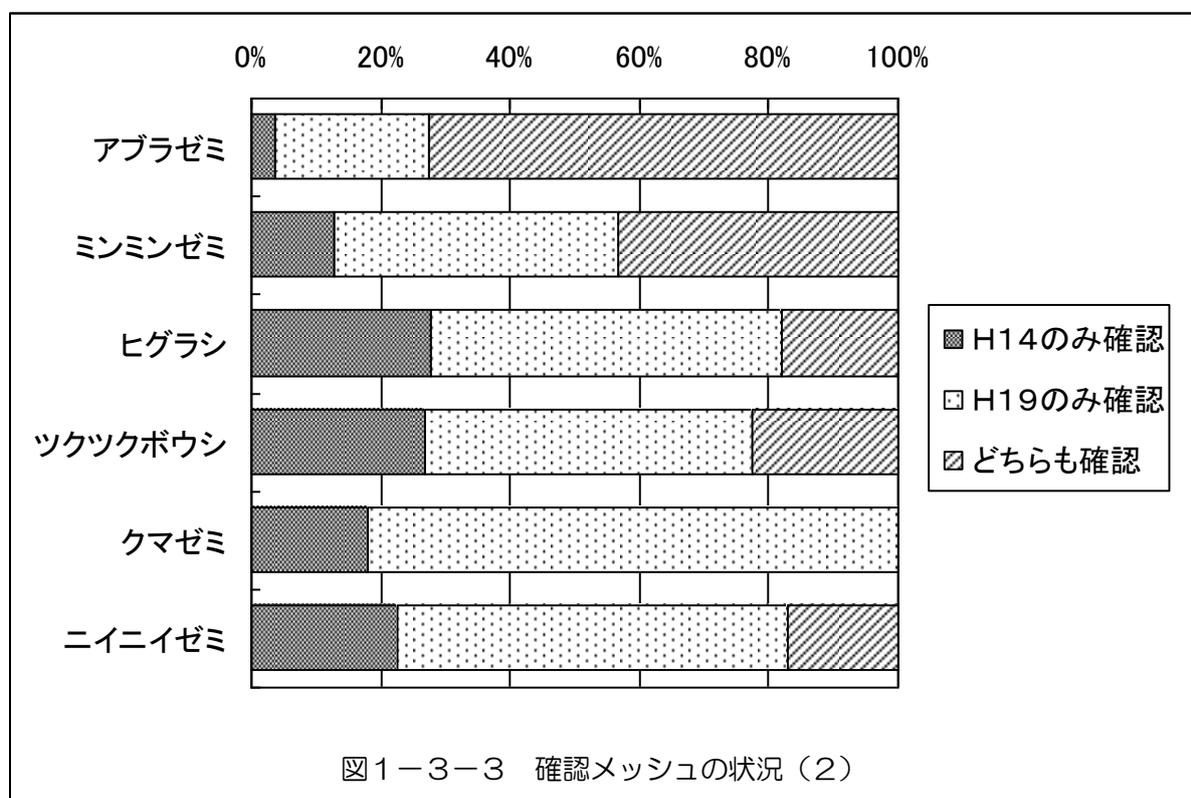


③確認メッシュの状況（2）

②確認メッシュの状況（1）のうち、調査対象種を確認できたメッシュのみで比較した状況は表1-3-4のとおりです。

表1-3-4 確認メッシュの状況（2）

	H14のみ確認	H19のみ確認	どちらも確認	計
アブラゼミ	7	45	138	190
	3.7%	23.7%	72.6%	100%
ミンミンゼミ	19	66	65	150
	12.7%	44.0%	43.3%	100%
ヒグラシ	17	33	11	61
	27.9%	54.1%	18.0%	100%
ツクツクボウシ	25	47	21	93
	26.9%	50.5%	22.6%	100%
クマゼミ	5	23	0	28
	17.9%	82.1%	0.0%	100%
ニイニイゼミ	12	32	9	53
	22.6%	60.4%	17.0%	100%



④セミの確認状況（状態）

平成14年度と19年度の確認状態は表1-3-5のとおりです。調査年度ごとに上段の数字は確認数、下段の数字はその割合です。

表1-3-5 セミの確認状況（状態）

		声	姿				抜殻	未記入	合計
			生体	死体	その他	小計			
アブラゼミ	H14	238	81	15	28	124	43	-	405
		58.8%	20.0%	3.7%	6.9%	30.6%	10.6%	-	100%
	H19	283	115	47	31	193	75	0	551
		51.4%	20.9%	8.5%	5.6%	35.0%	13.6%	0.0%	100%
ミンミンゼミ	H14	122	17	2	10	29	1	-	152
		80.3%	11.2%	1.3%	6.6%	19.1%	0.7%	-	100%
	H19	210	36	5	10	51	21	1	283
		74.2%	12.7%	1.8%	3.5%	18.0%	7.4%	0.4%	100%
ヒグラシ	H14	46	3	0	3	6	2	-	54
		85.2%	5.6%	0.0%	5.6%	11.1%	3.7%	-	100%
	H19	60	4	1	4	9	6	0	75
		80.0%	5.3%	1.3%	5.3%	12.0%	8.0%	0.0%	100%
ツクツクボウシ	H14	78	6	1	3	10	4	-	92
		84.8%	6.5%	1.1%	3.3%	10.9%	4.3%	-	100%
	H19	94	6	1	2	9	6	2	111
		84.7%	5.4%	0.9%	1.8%	8.1%	5.4%	1.8%	100%
クマゼミ	H14	6	0	0	1	1	1	-	8
		75.0%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	12.5%	-	100%
	H19	30	3	0	1	4	0	0	34
		88.2%	8.8%	0.0%	2.9%	11.8%	0.0%	0.0%	100%
ニイニイゼミ	H14	27	4	1	1	6	0	-	33
		81.8%	12.1%	3.0%	3.0%	18.2%	0.0%	-	100%
	H19	65	4	0	1	5	3	0	73
		89.0%	5.5%	0.0%	1.4%	6.8%	4.1%	0.0%	100%

⑤セミの確認状況（場所）

平成14年度と19年度の確認場所は表1-3-6のとおりです。調査年度ごとに上段の数字は確認数、下段の数字はその割合です。

表1-3-6 セミの確認状況（場所）

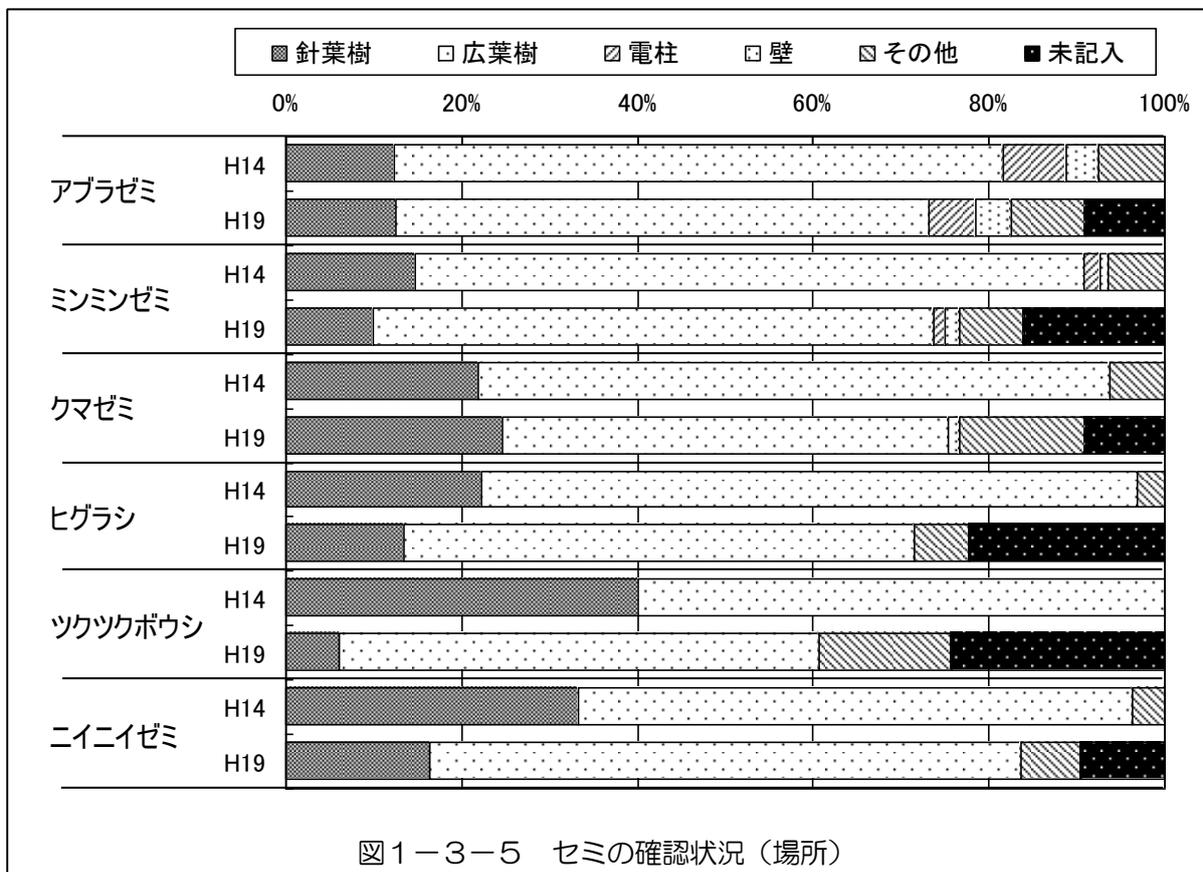
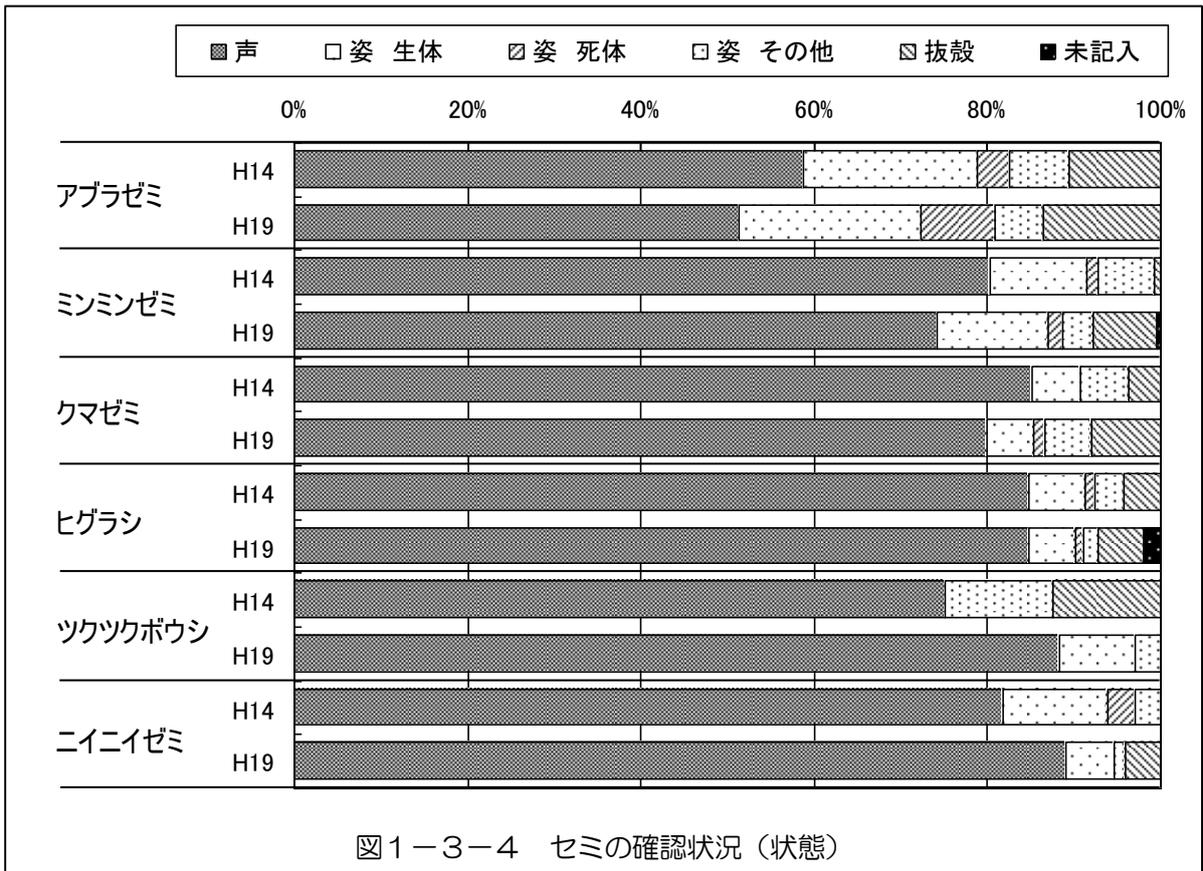
		針葉樹	広葉樹	電柱	壁	その他	未記入	合計
アブラ ゼミ	H14	33	185	19	10	20	-	267
		12.4%	69.3%	7.1%	3.7%	7.5%	-	100%
	H19	46	222	19	15	31	33	366
		12.6%	60.7%	5.2%	4.1%	8.5%	9.0%	100%
ミンミン ゼミ	H14	16	83	2	1	7	-	109
		14.7%	76.1%	1.8%	0.9%	6.4%	-	100%
	H19	23	148	3	4	17	37	232
		9.9%	63.8%	1.3%	1.7%	7.3%	15.9%	100%
ヒグラシ	H14	7	23	0	0	2	-	32
		21.9%	71.9%	0.0%	0.0%	6.3%	-	100%
	H19	19	39	0	1	11	7	77
		24.7%	50.6%	0.0%	1.3%	14.3%	9.1%	100%
ツクツク ボウシ	H14	14	47	0	0	2	-	63
		22.2%	74.6%	0.0%	0.0%	3.2%	-	100%
	H19	15	65	0	0	7	25	112
		13.4%	58.0%	0.0%	0.0%	6.3%	22.3%	100%
クマゼミ	H14	2	3	0	0	0	-	5
		40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-	100%
	H19	2	18	0	0	5	8	33
		6.1%	54.5%	0.0%	0.0%	15.2%	24.2%	100%
ニイニイ ゼミ	H14	9	17	0	0	1	-	27
		33.3%	63.0%	0.0%	0.0%	3.7%	-	100%
	H19	12	49	0	0	5	7	73
		16.4%	67.1%	0.0%	0.0%	6.8%	9.6%	100%

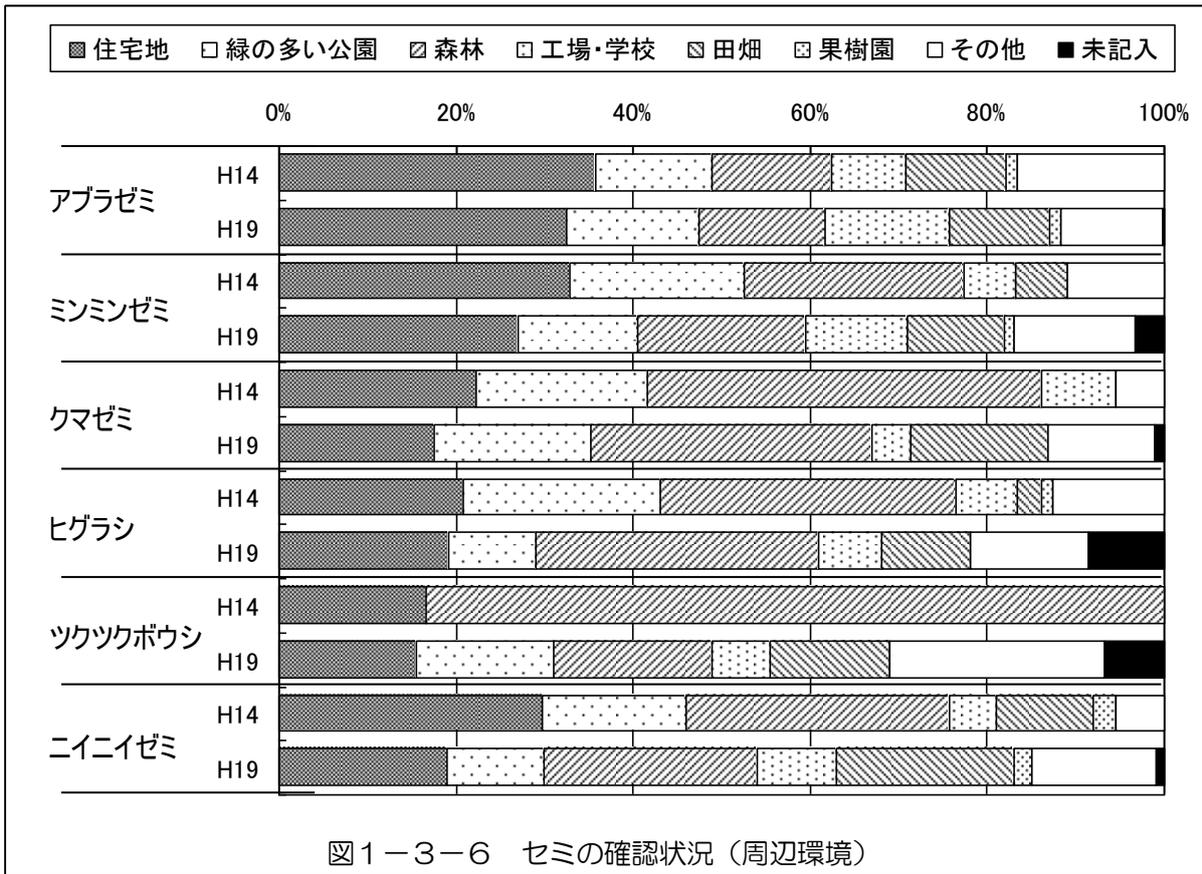
⑥セミの確認状況（周辺環境）

平成14年度と19年度の周辺環境は表1-3-7のとおりです。調査年度ごとに上段の数字は確認数、下段の数字はその割合です。

表1-3-7 セミの確認状況（周辺環境）

		住宅地	森林	田畑	その他	緑の多い公園	工場・学校	果樹園	未記入	合計
アブラゼミ	H14	114	43	36	53	42	27	4	-	319
		35.7%	13.5%	11.3%	16.6%	13.2%	8.5%	1.3%	-	100%
	H19	149	66	52	53	69	64	6	1	460
		32.4%	14.3%	11.3%	11.5%	15.0%	13.9%	1.3%	0.2%	100%
ミンミンゼミ	H14	45	34	8	15	27	8	0	-	137
		32.8%	24.8%	5.8%	10.9%	19.7%	5.8%	0.0%	-	100%
	H19	84	59	34	43	42	36	3	10	311
		27.0%	19.0%	10.9%	13.8%	13.5%	11.6%	1.0%	3.2%	100%
ヒグラシ	H14	8	16	0	2	7	3	0	-	36
		22.2%	44.4%	0.0%	5.6%	19.4%	8.3%	0.0%	-	100%
	H19	16	29	14	11	16	4	0	1	91
		17.6%	31.9%	15.4%	12.1%	17.6%	4.4%	0.0%	1.1%	100%
ツクツクボウシ	H14	15	24	2	9	16	5	1	-	72
		20.8%	33.3%	2.8%	12.5%	22.2%	6.9%	1.4%	-	100%
	H19	27	45	14	19	14	10	0	12	141
		19.1%	31.9%	9.9%	13.5%	9.9%	7.1%	0.0%	8.5%	100%
クマゼミ	H14	1	5	0	0	0	0	0	-	6
		16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-	100%
	H19	7	8	6	11	7	3	0	3	45
		15.6%	17.8%	13.3%	24.4%	15.6%	6.7%	0.0%	6.7%	100%
ニイニイゼミ	H14	11	11	4	2	6	2	1	-	37
		29.7%	29.7%	10.8%	5.4%	16.2%	5.4%	2.7%	-	100%
	H19	19	24	20	14	11	9	2	1	100
		19.0%	24.0%	20.0%	14.0%	11.0%	9.0%	2.0%	1.0%	100%





⑦調査日比較

縦軸は調査を行ったメッシュ数を表しています。

14年度は7月20日～10月22日、19年度は7月20日～9月15日に調査が行われました。

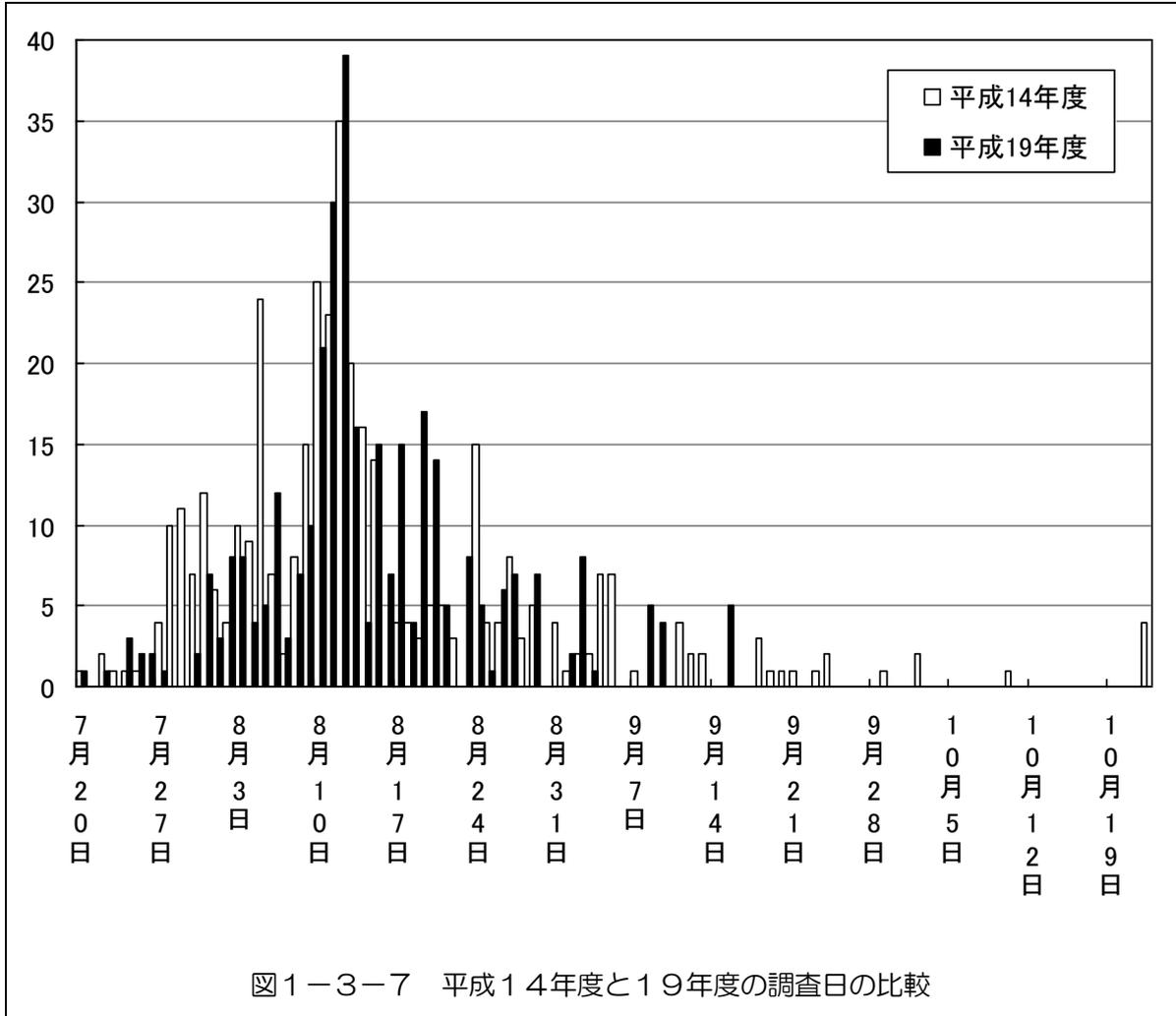


図1-3-7 平成14年度と19年度の調査日の比較

⑧セミの分布状況

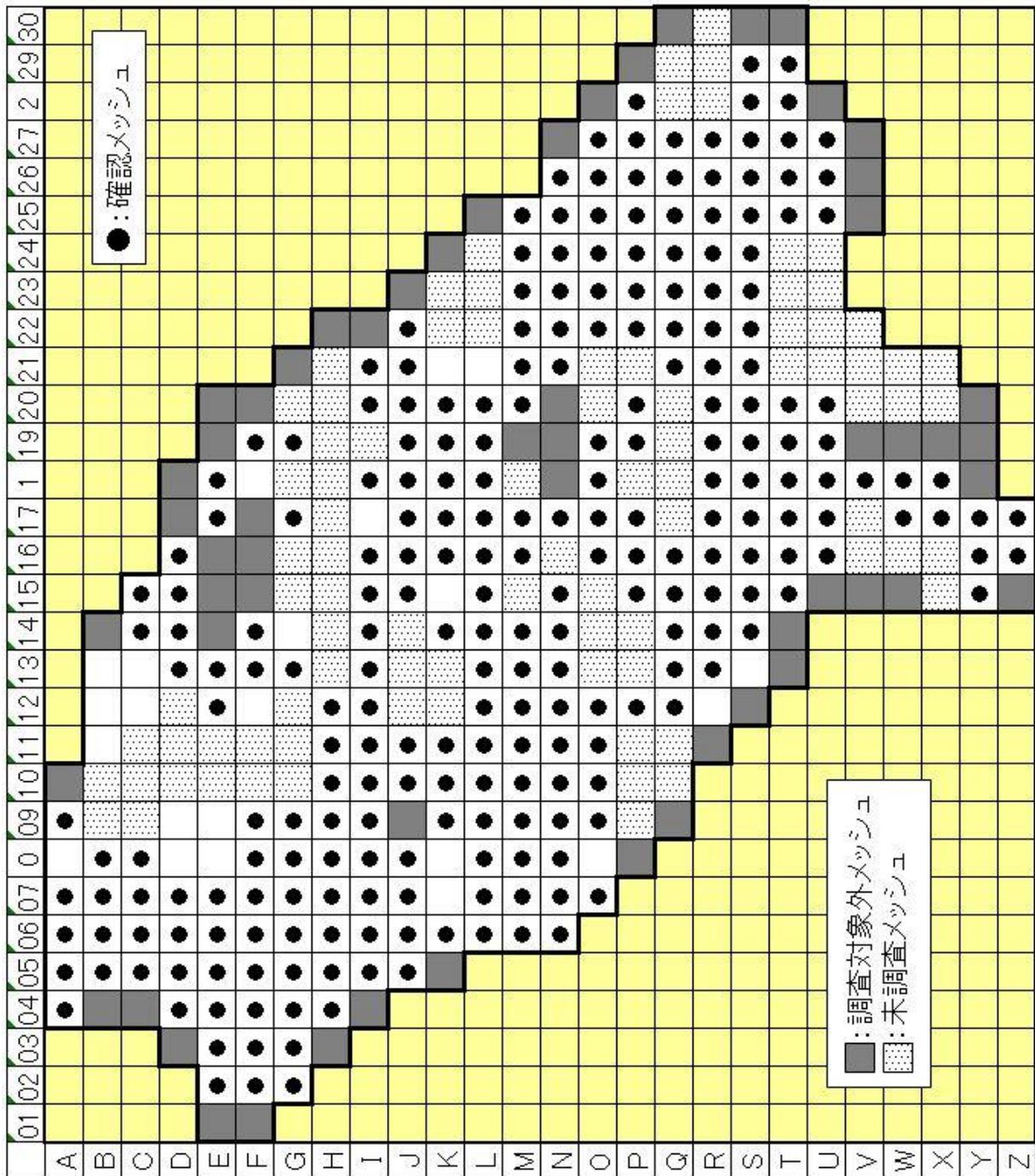


図1-3-8  
平成19年度分布状況(アラゼミ)

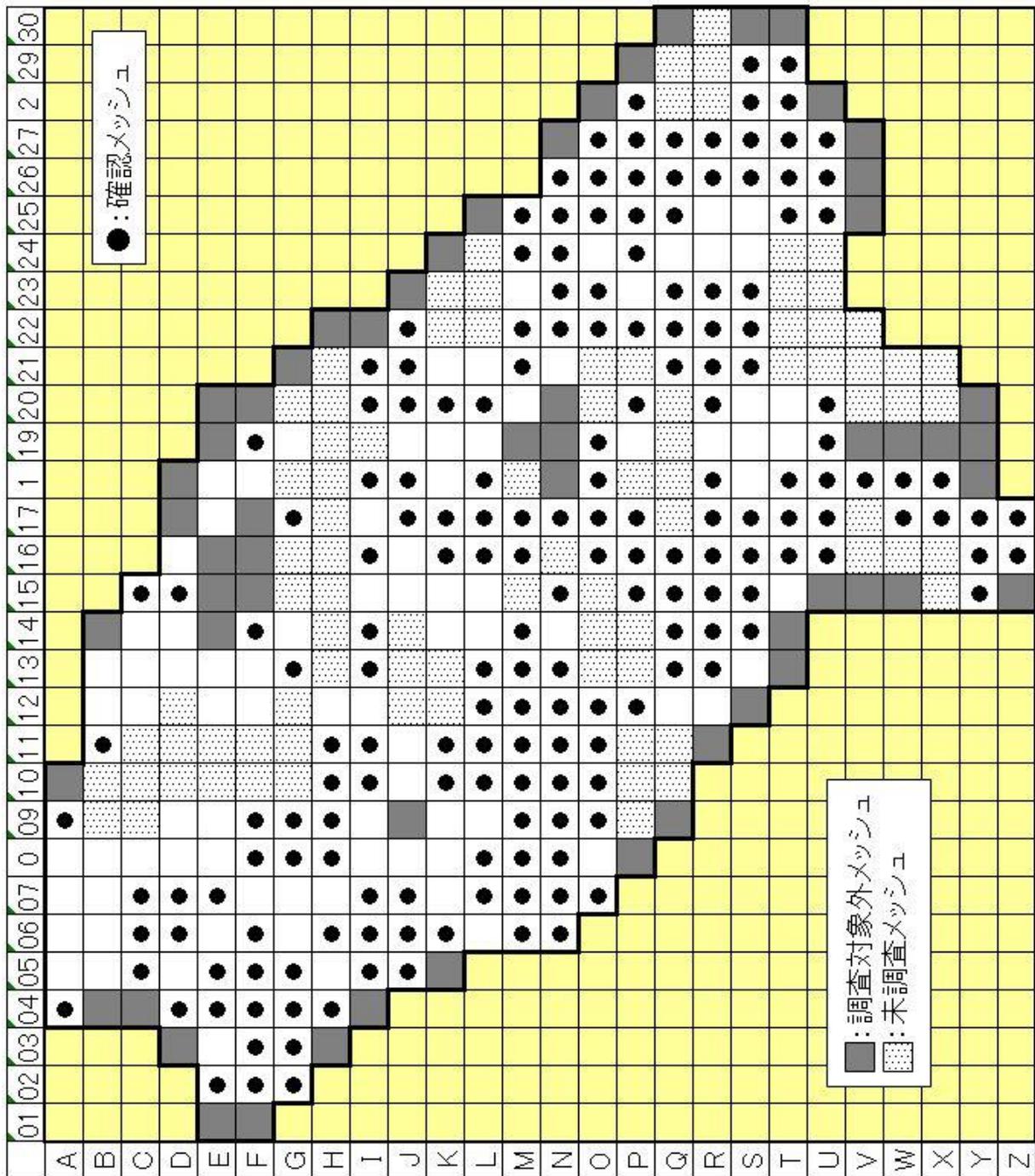


図1-3-9

平成19年度分布状況(ミンミンゼミ)

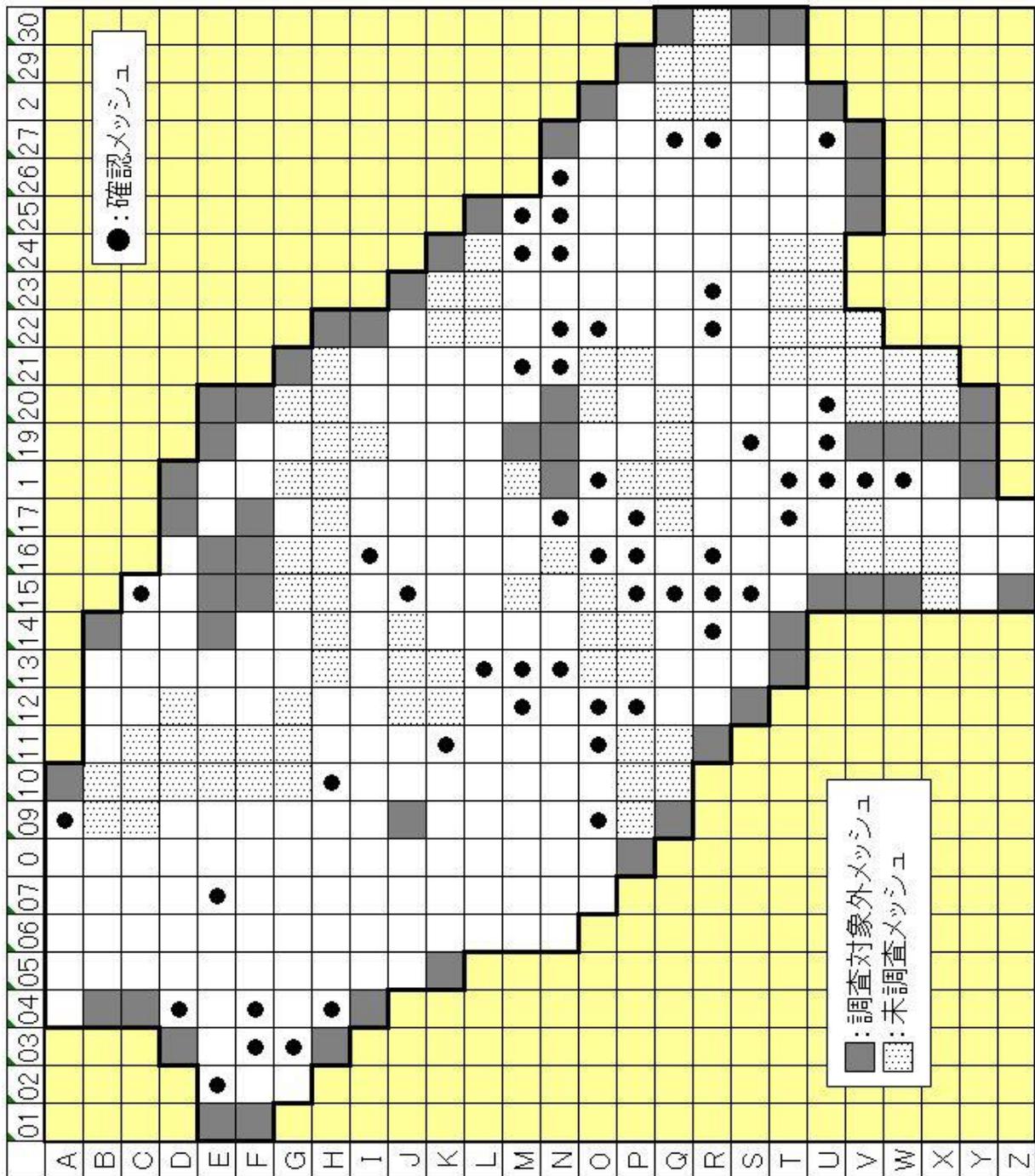


図1-3-10  
 平成19年度分布状況(ヒグラシ)

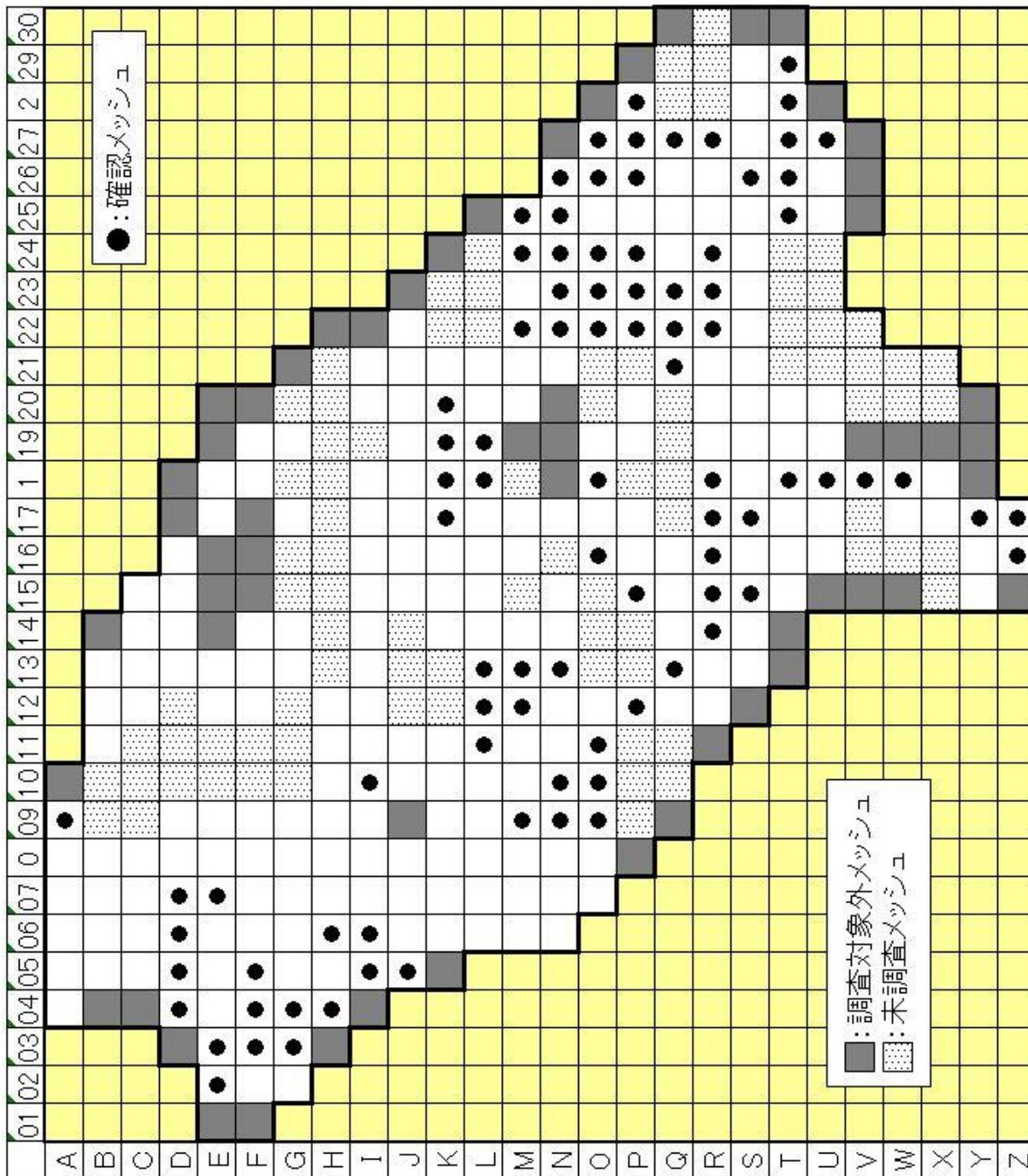


図1-3-11

平成19年度分布状況(ツクツクボウシ)

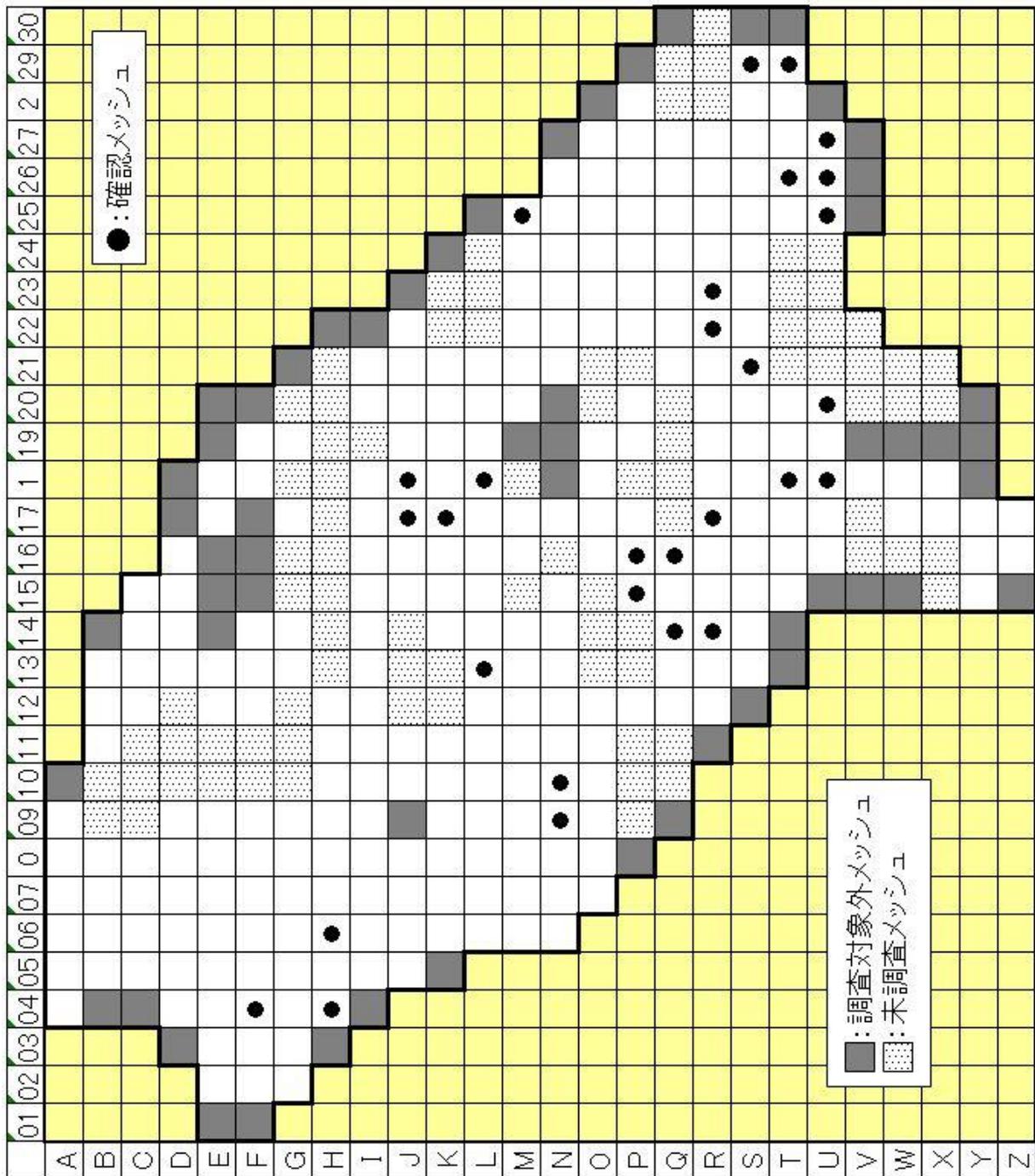


図1-3-12  
平成19年度分布状況(クマゼミ)

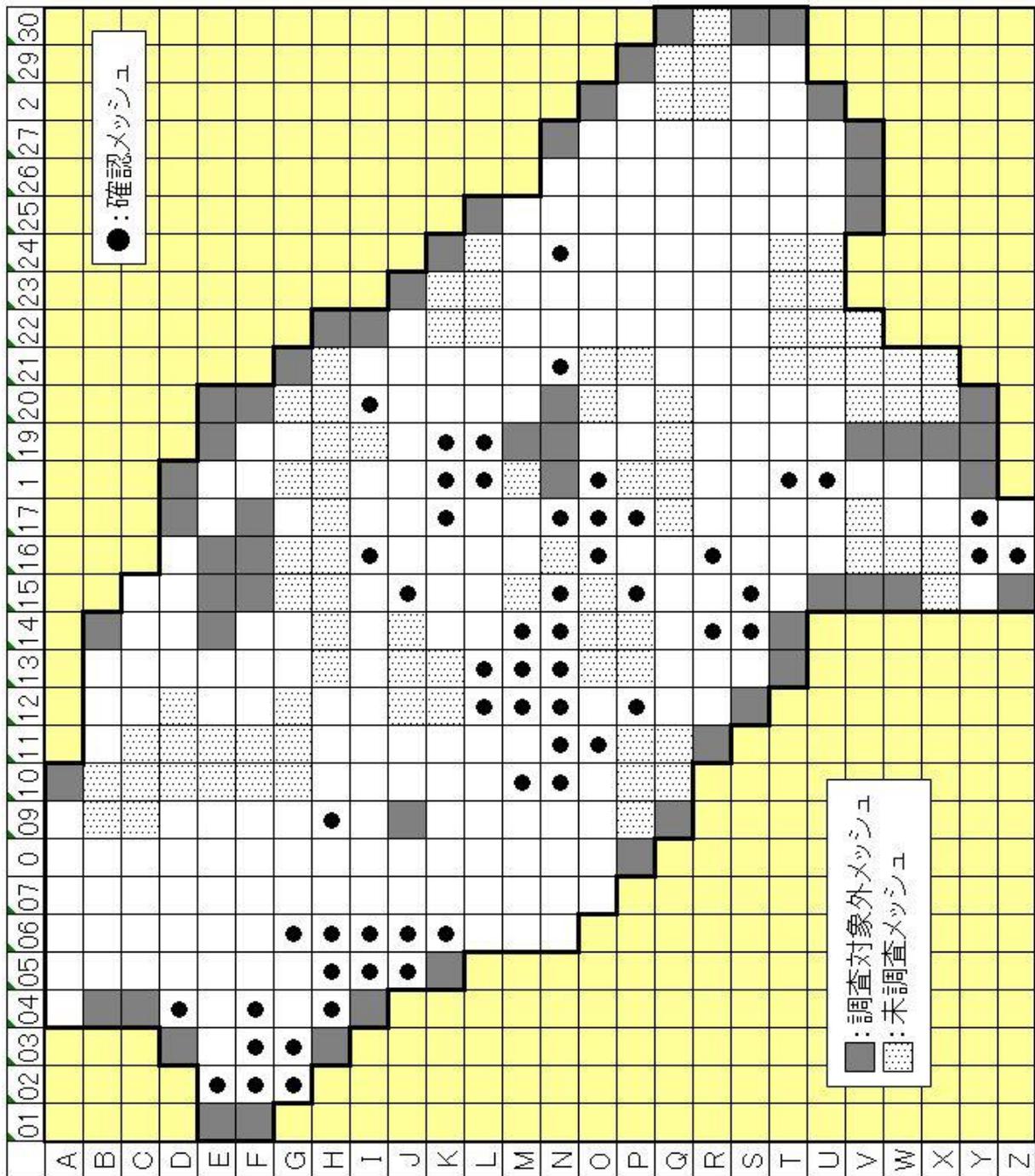


図1-3-13  
平成19年度分布状況(ニイニイゼミ)

◎セミの平成14年度と19年度の分布状況

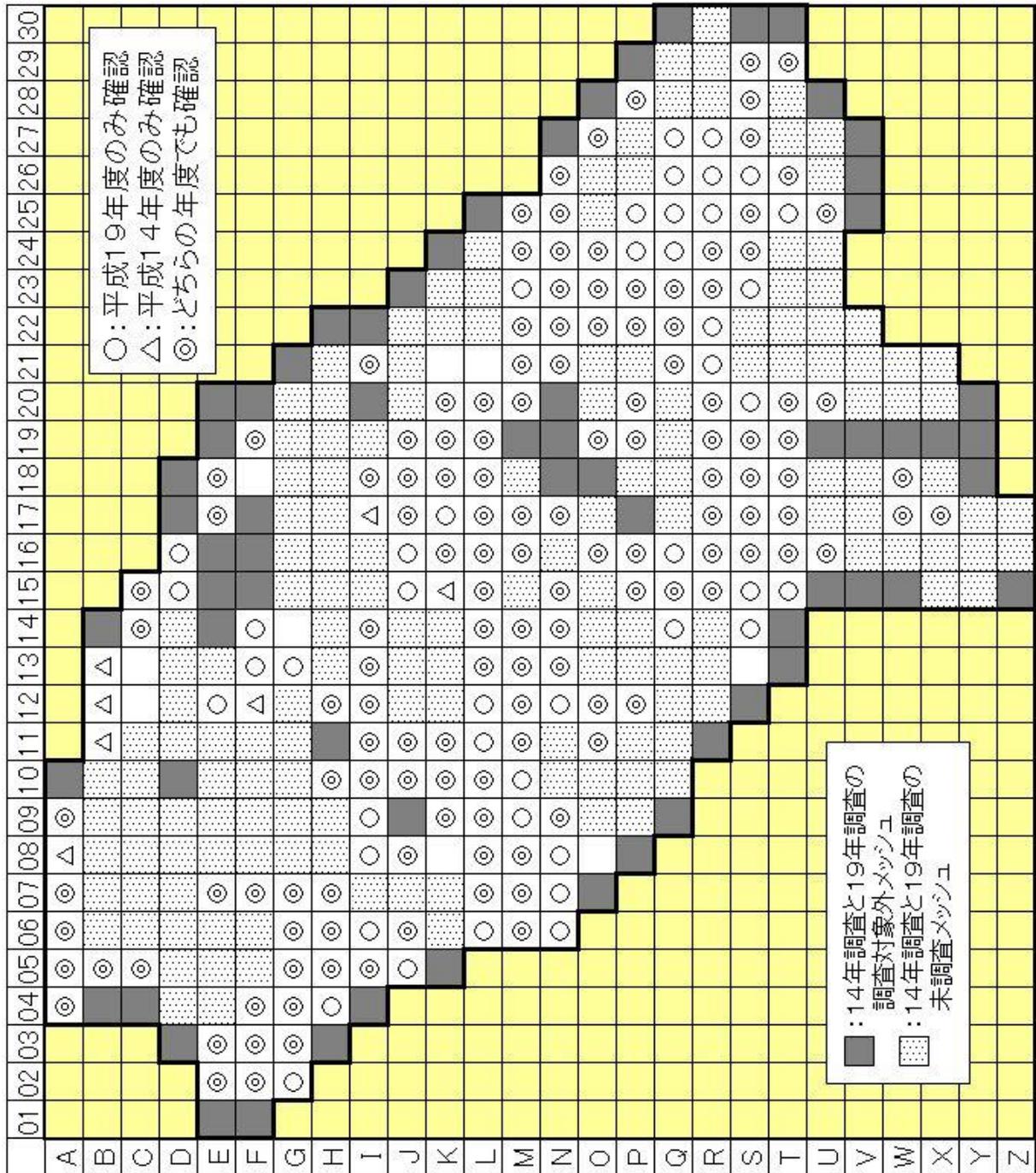


図1-3-14  
 平成14・19年度分布状況(アブラゼミ)

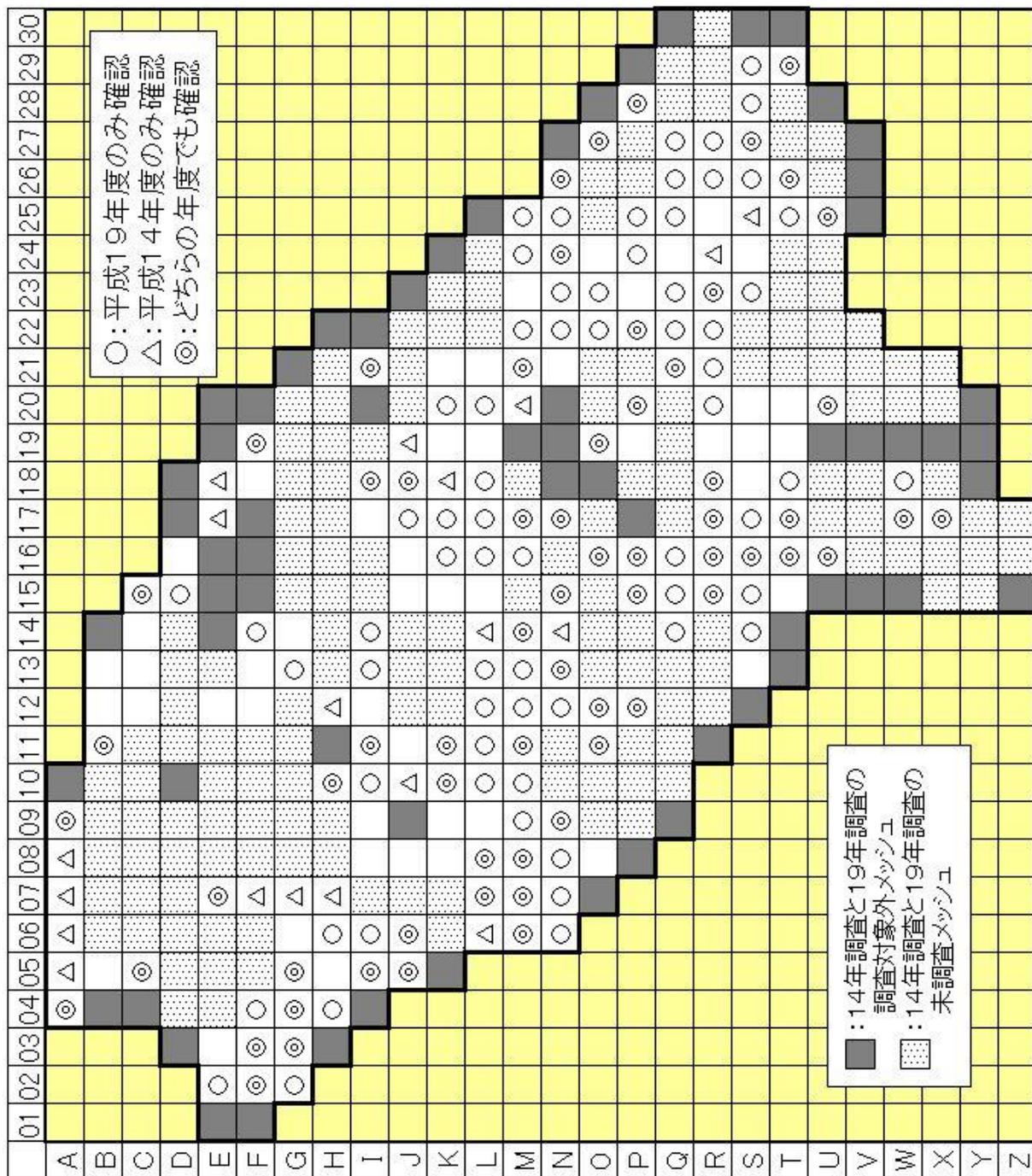


図1-3-15  
 平成14・19年度分布状況(ミンミンゼミ)

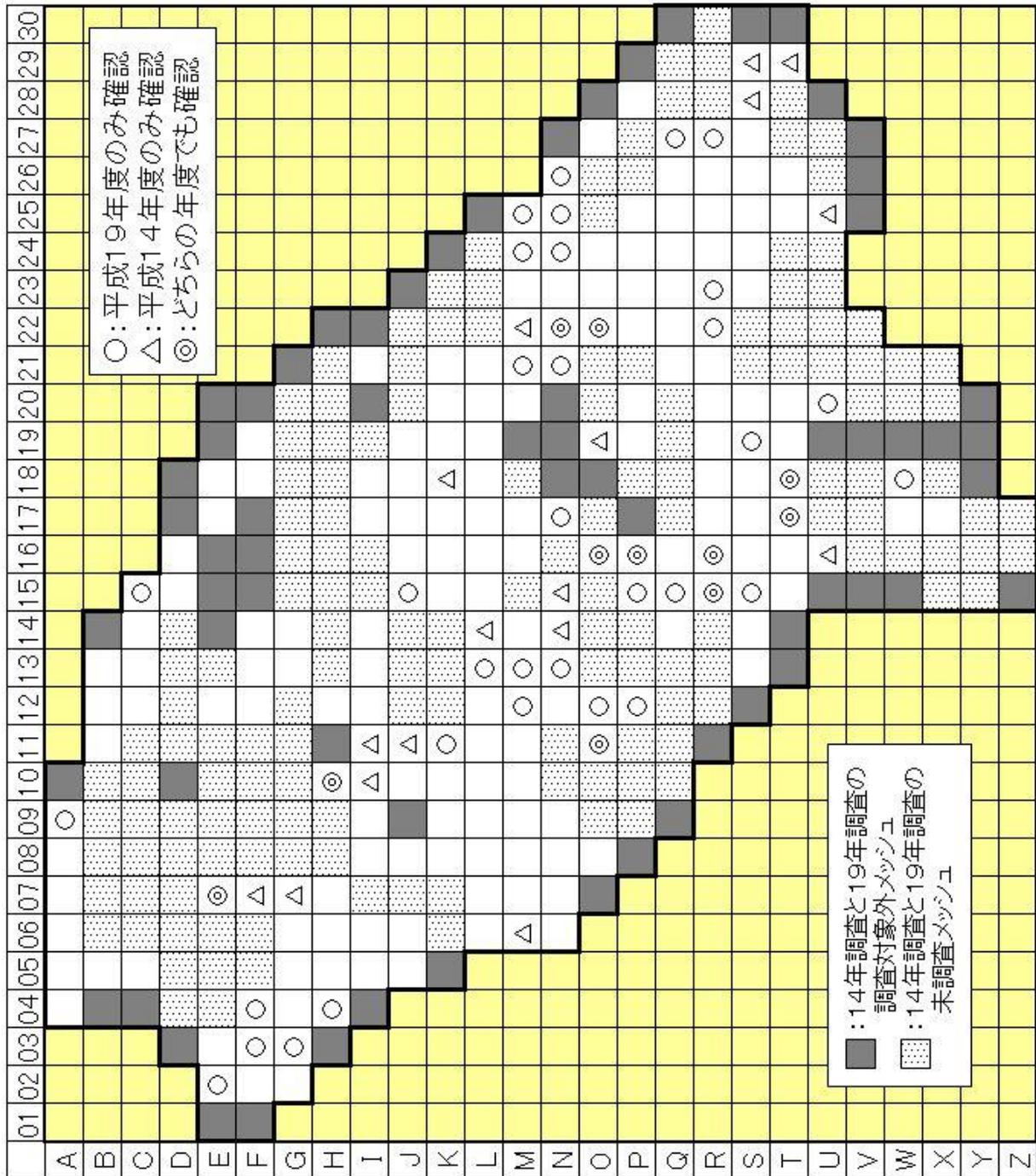


図1-3-16  
平成14・19年度分布状況(ヒグラシ)

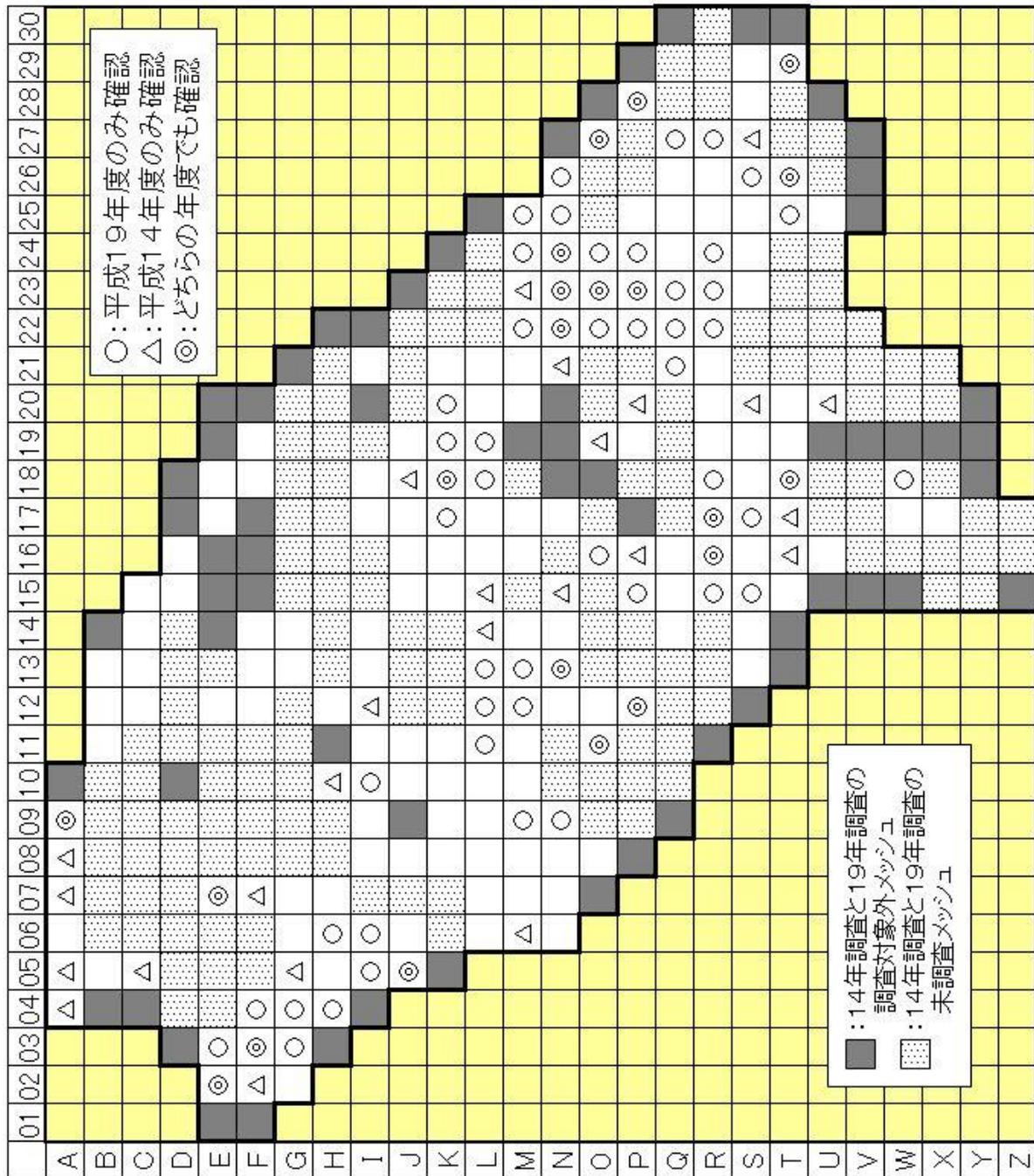


図1-3-17

平成14・19年度分布状況(ツッククボウシ)

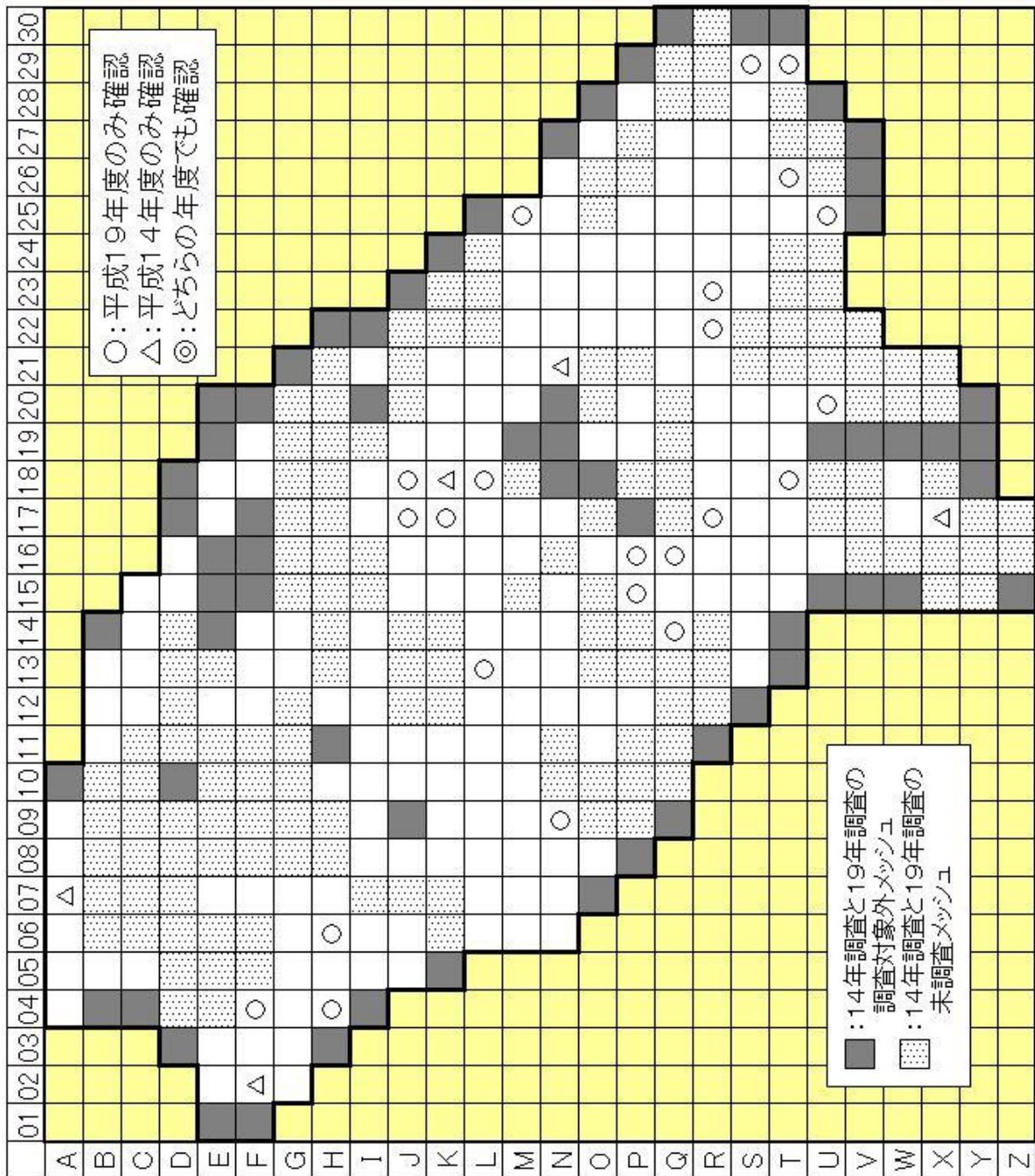


図1-3-18  
平成14・19年度分布状況(クマゼミ)

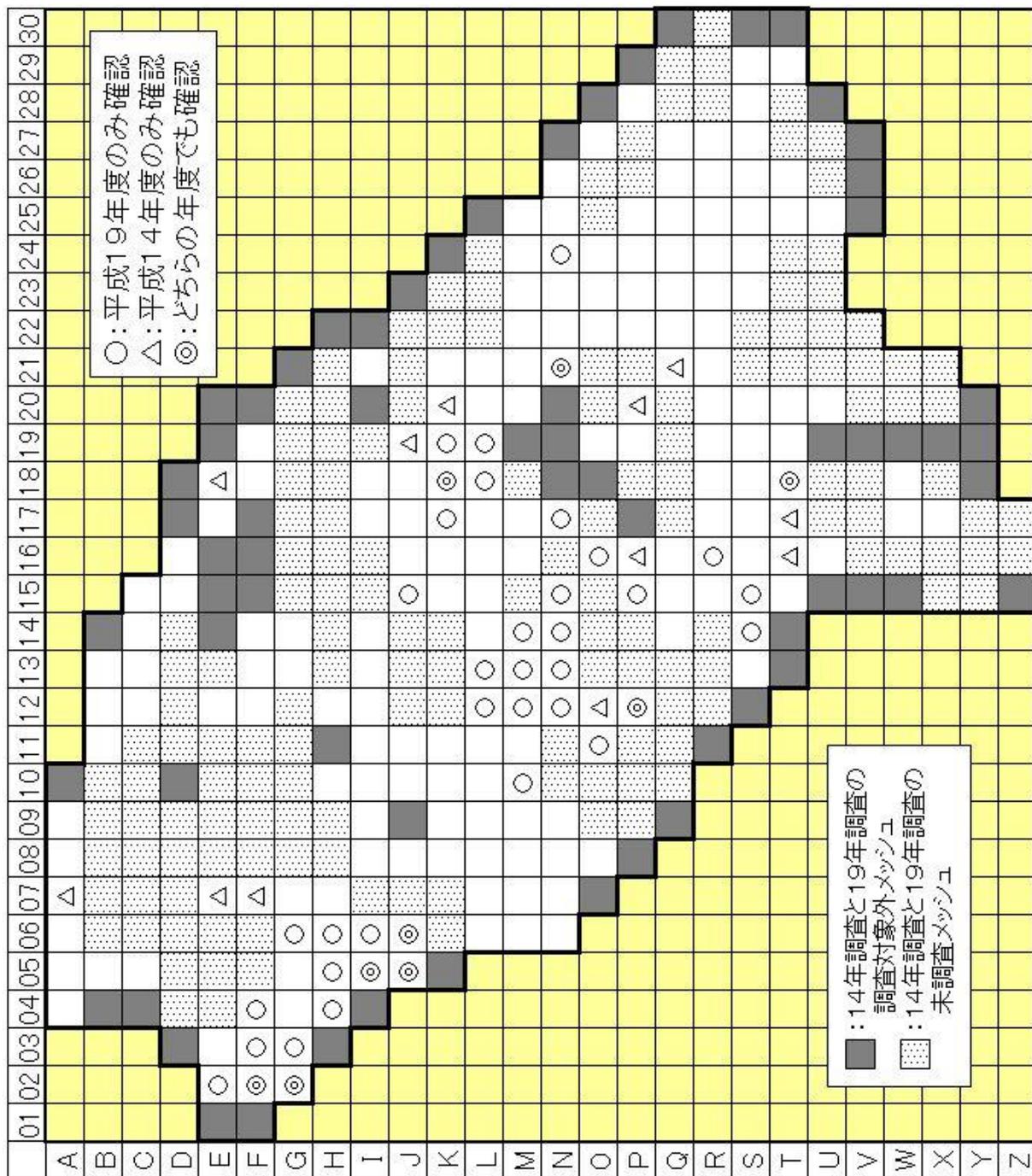


図1-3-19

平成14・19年度分布状況(ニイニイゼミ)

◆セミの鳴き声カレンダー調査結果

セミの鳴き声の確認状況は表1-3-8のとおりです。数字は確認回数を表しています。

表1-3-8 セミの鳴き声確認状況

種名	7月	8月			9月			10月		合計
	20~ 31日	1~ 10日	11~ 20日	21~ 31日	1~ 10日	11~ 20日	21~ 30日	1~ 10日	11~ 15日	
アブラゼミ	186	400	418	443	317	196	89	36	7	2,092
ミンミンゼミ	46	244	333	401	308	190	80	10	0	1,612
ヒグラシ	123	149	141	110	66	46	13	3	0	651
ツクツクボウシ	1	22	146	263	205	183	103	51	11	985
クマゼミ	1	15	56	41	13	6	0	0	0	132
ニイニイゼミ	83	74	58	16	12	7	6	2	1	259



アブラゼミ

確認回数

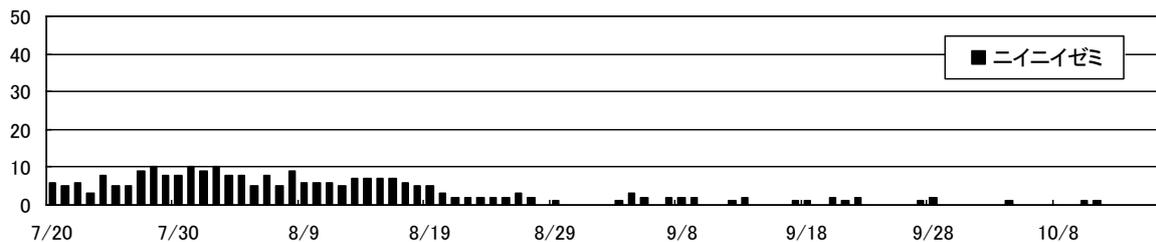
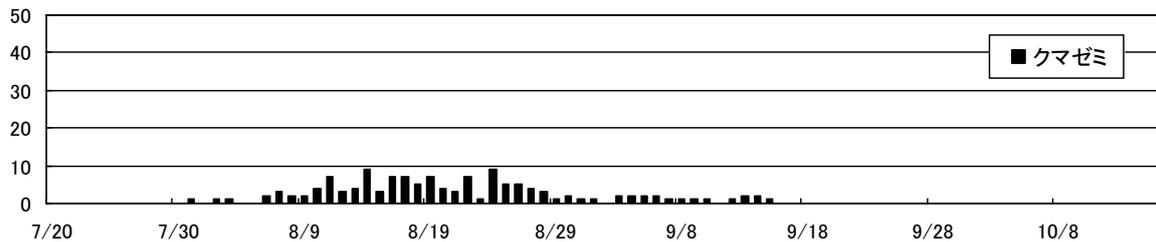
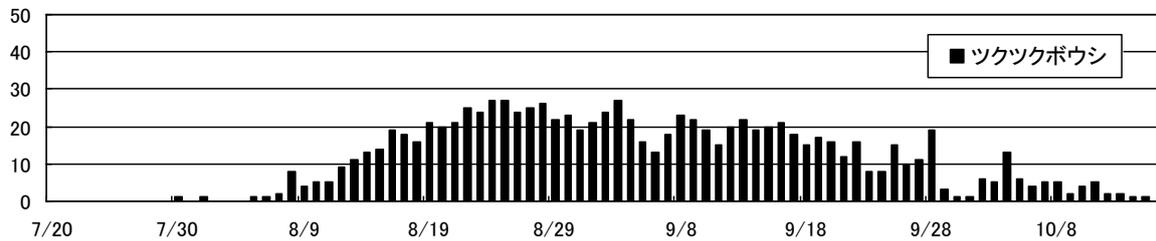
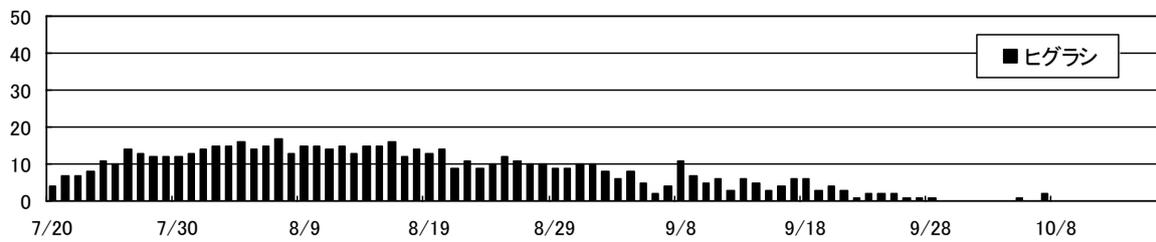
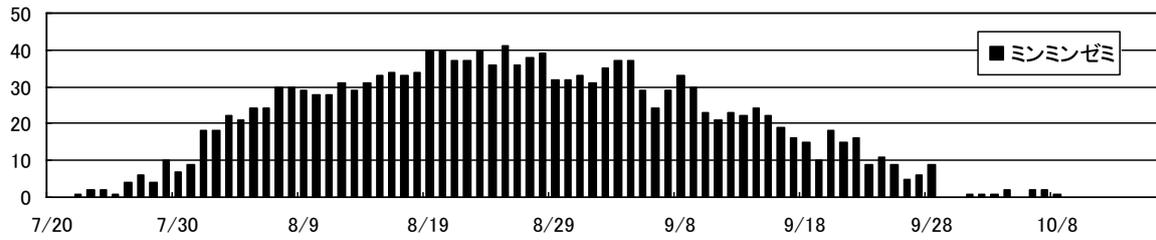
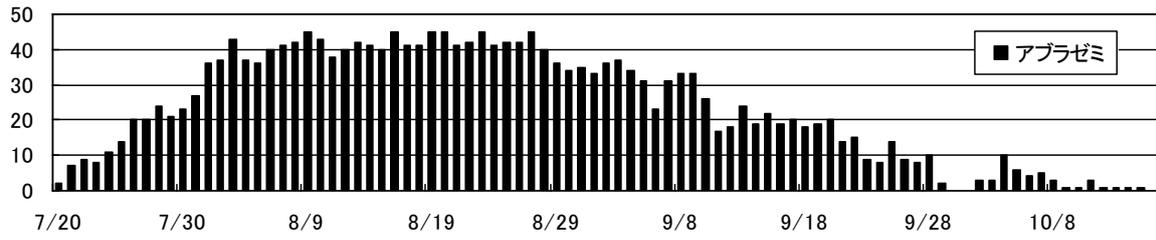


図1-3-20 セミの鳴き声カレンダー

## (5) まとめ

### ●概要

旧相模原市域のほぼ全域で、調査対象種のいずれかを確認できました。特にアブラゼミは、ほとんどのメッシュで確認されました。

平成14年度と比較して、確認できたメッシュの割合は、いずれの種についても増加していました(表1-3-2)。どのメッシュで確認されたかについては、平成19年度分布状況(図1-3-8~13)を参照してください。

### ●経年変化について

対象種が確認できたメッシュの割合を14年度と比較すると、次の特徴が見られました。

ミンミンゼミが確認されたメッシュの割合が、27.2ポイント増(68.2%のメッシュで確認)と非常に大きく、次いでアブラゼミが15.4ポイント増(92.0%で確認)、ツクツクボウシ、クマゼミ、ニイニゼミは8.2~11.1ポイント増(それぞれ32.8%、10.6%、20.4%で確認)、ヒグラシが4.1ポイント増(19.7%)となっています(表1-3-2)。

このうち、ミンミンゼミは確認メッシュの増加割合が大きいため、個体数そのものが増加していることが示唆されます。

また、ヒグラシは増加の割合が他の種に比べて小さく、何らかの環境変化を反映している可能性があります。もしそうだとすれば、今後の環境変化によっては、減少に転じる可能性もあります。

クマゼミは、確認メッシュ数こそ少ないものの、他種並みに増加していました。

なお、調査時期の違いによる影響がないか比較したところ、日付による調査回数に目立った差は見られませんでした(図1-3-7)。

ただし、14年度は、8月17日以降に調査数が一時的に少なくなっています。この時期はちょうどミンミンゼミの活動が活発になる頃と重なっており、ミンミンゼミの確認数が実際の個体数に比べて少なくなっている可能性があります。

それぞれの種の活動状況についてはセミの鳴き声カレンダー(図1-3-20)を参照してください。



ミンミンゼミ



ツクツクボウシ

### ●確認場所・周辺環境について

セミを確認した場所を見ると、対象種すべてについて広葉樹を好む傾向がありました。これは平成14年度と同じでした(表1-3-6)。

周辺環境については、アブラゼミ、ミンミンゼミは住宅地に、ヒグラシ、ツクツクボウシは森林に多く見られる傾向がありました(表1-3-7)。クマゼミは、14年度には6例中5例が森林であったのに対し、19年度にはさまざまな環境で見られました。ニイニゼミは住宅地と森林の両方で見られる傾向がありました。また、ヒグラシの田畑における確認数が増加しています。

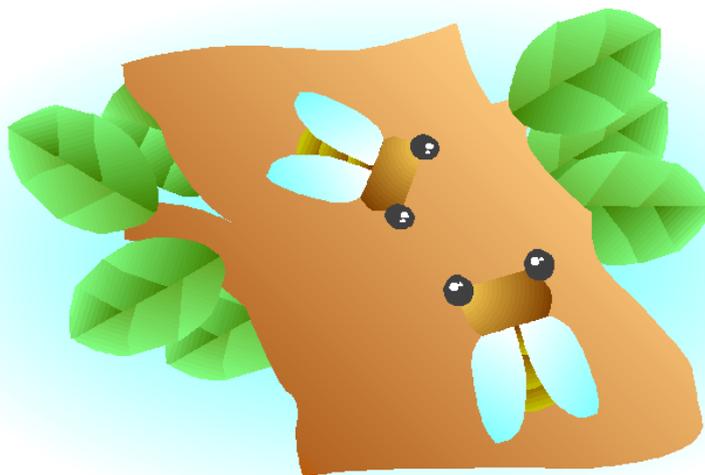
### ●結論

全般に確認メッシュ数が増え、アブラゼミは旧相模原市域のほぼ全体に存在することが確認できました。また、ミンミンゼミの個体数が増加している可能性があります。いくつかの都市ではミンミンゼミがアブラゼミに取って代わったという報告もあるようですが、

本市においても今後の動向が注目されます。ただし、アブラゼミの確認メッシュは増加しており、分布範囲も広いことから考えると、今のところ同様の現象は起きていないようです。

ヒグラシ、ツクツクボウシ、クマゼミ、ニイニイゼミは14年度より多くのメッシュで確認されましたが、ヒグラシ、ツクツクボウシは森林への依存度が高いことから、今後、森林環境の状況により何らかの変化を示すかも知れません。クマゼミは、地球温暖化の指標とされていますが、現在のところ顕著な増加は見られず、より多彩な環境で確認されました。

14年度と同様、旧相模原市域にはセミが広範囲に分布していることが確認できたと同時に、種ごとに異なる状況がある事がわかりました。今後、より深いテーマ設定を行ったり、継続した調査を行ったりする必要があるでしょう。



## 2 自主テーマ調査

自然環境には地域差があり、局地的に生息・生育する種などは市内全域を対象とした調査に適さないものも多く、また、観察員の興味・関心や経験などにも個人差が見られます。

さらに、「全体テーマ調査」だけでは、市内の自然環境を評価するには不十分であるため、自主テーマによる調査を導入することにより、より多くのデータを集積することを目的としています。

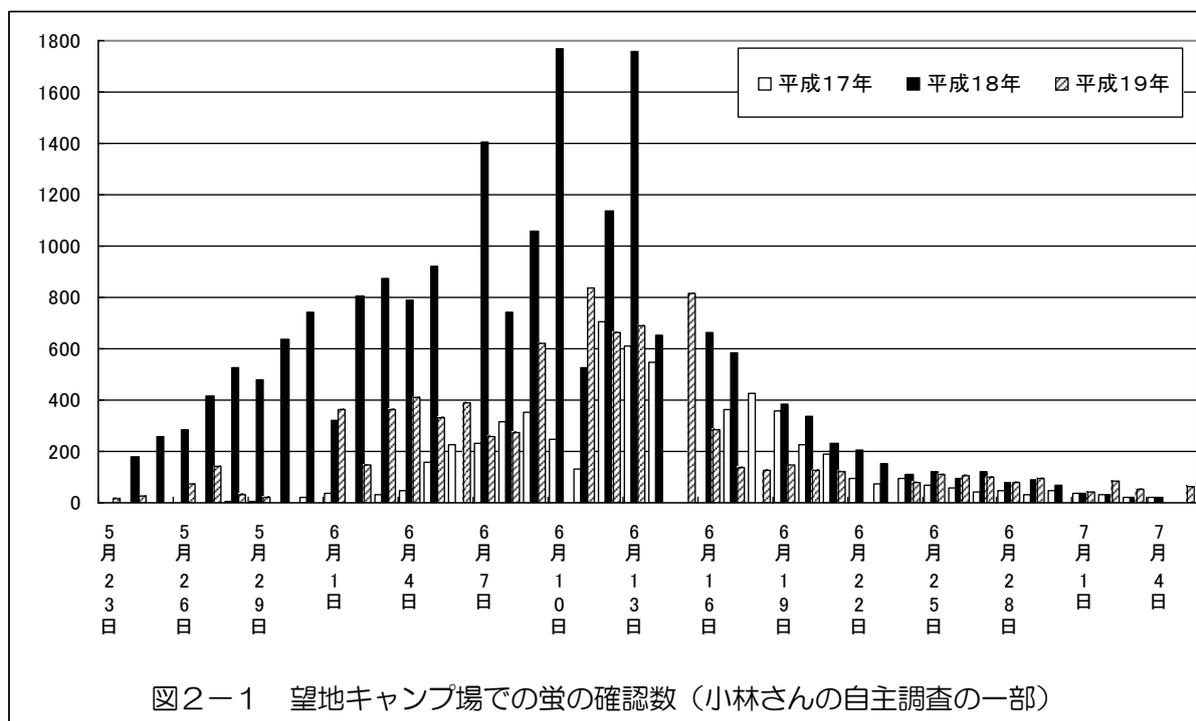
テーマの選択・実施方法・調査時期は、観察員自身が設定して調査をしました。

### (1) 自主テーマ調査の紹介

1件の自主テーマ調査の調査結果の提出がありました。

表2-1 自主テーマ一覧

No	報告者	調査テーマ(題名)	調査内容	分類
1	小林 義博	自然環境の変化	5月末～7月始の望地キャンプ場での 蛍調査	昆虫



### 3 任意参加調査

動植物の分布状況には地域差があります。全体テーマ調査はそういう動植物の分布状況の差異で市内全域の自然環境の状況を明らかにするものですが、局地的に生息・生育する動植物は市内全域を対象とした調査に適していません。

そこで、生息・生育範囲が狭く、市内のどの場所に生息・生育しているかを明らかにしたい動植物を対象に、目撃情報等の収集を行うことにより市内での分布状況のデータを集積することを目的として、平成15年度から任意参加調査を実施しています。

今年度は、上記の目的のほかに、津久井地域における情報を収集することや14年度に調査が出来なかったハルゼミの生息状況等を調べることを目的として、「春の七草分布調査（津久井地域）」と「ハルゼミの分布調査」を実施しました。

#### (1) 春の七草分布調査（津久井地域）

調査期間：平成19年4月22日～5月22日（設定期間4月15日～5月31日）

調査方法：津久井地域の任意の場所で、全体テーマ調査と同様に調査

調査参加者：川崎香代、田畑房枝

調査結果：表3-1のとおり

表3-1 春の七草分布調査（津久井地域）調査結果

調査場所	確認した種	生育環境
城山町町屋2丁目	ナズナ	畑
	ハコベ	畑
城山自然の家 (城山町川尻)	セリ	水田
	ナズナ	水田
	ハハコグサ	その他
	ハコベ	水田
	コオニタビラコ	水田
津久井湖城山公園水の苑地	ナズナ	公園
	ハハコグサ	公園
	ハコベ	公園

#### (2) ハルゼミの分布調査

調査期間：平成19年4月15日～5月29日（設定期間4月15日～6月24日）

調査方法：ハルゼミの姿（生体・死体）や抜け殻を確認した場合や鳴き声を確認した場合に、調査票へ確認した場所の所在地、見つけた場所、周辺環境、時刻などを記録

調査参加者：木村光治、小泉綾子、小泉邦正、後藤裕子、小林通伸、齋藤健夫、島田奈々、田口常利、富岡英明、中島朋来、中村有理子、野口靖夫、早戸正広、益子弘、柳下信男

調査結果：表3-2のとおり。旧相模原市域での確認・未確認メッシュは図3-1のとおり

表 3-2 ハルゼミが確認された状況

確認箇所	確認状況	場所	周辺環境
C12	抜け殻	未記入	住宅地
N27	声	未記入	工場、学校
S26	声	未記入	住宅地
S28	声	未記入	住宅地
T28	声	未記入	未記入
仙洞寺山（津久井町）	声	針葉樹	森林

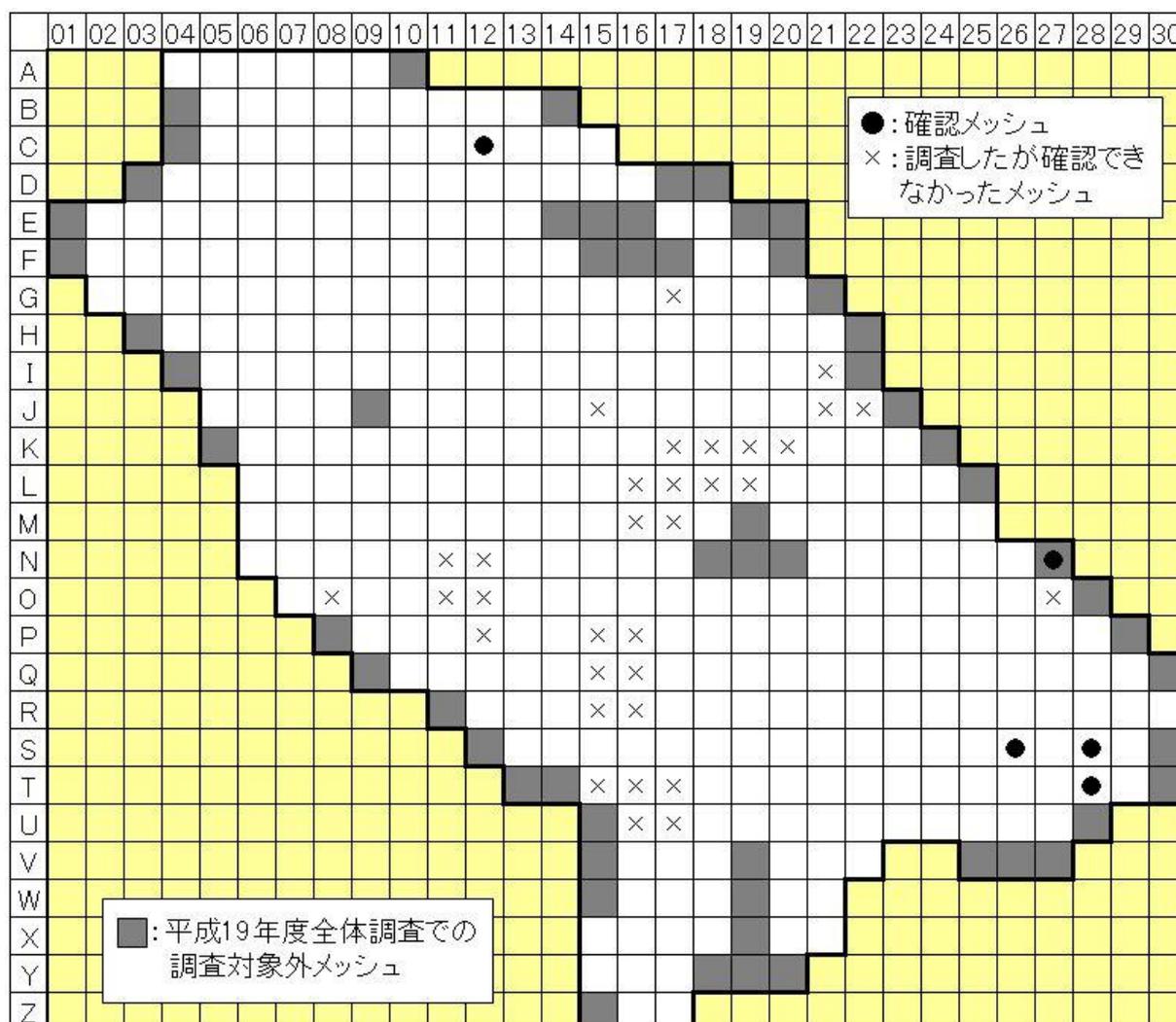


図3-1 旧相模原市域での任意調査（ハルゼミ）の調査結果

#### 4 専門部会調査

自然環境調査には、専門的な知識が必要なものや、グループで行ったほうが効率的なものがあります。

また、全体テーマ調査は稀少種などの特定の地域のみには生息・生育するものの調査には不向きですので、興味・関心が共通していたり、同じような問題意識を持っている人がまとまって様々な活動をしたりする中で、より専門的な活動が図れるよう専門部会を設置しています。

現在の専門部会の設置状況は以下のとおりです。

表4-1 専門部会の設置年度と登録者数

部会名	設置年度	今年度の登録者数
植物調査部会	平成14年度	38名
湧水調査部会	平成14年度	28名
河川生物相調査部会	平成18年度	19名
野鳥調査部会	平成18年度	31名

##### 4. 1 植物調査部会

###### (1) 設置目的

植物には限られた地域に生育しているものや同定が難しいものなどがあるため、全体テーマ調査だけで必要なデータを得ることは困難です。また、自然環境基礎調査で得られた稀少種のデータを活かし現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、植物に関心を持つ観察員が協力し合い、相模原市の貴重な植物の調査を行うことを目的に植物調査部会を設置しました。

###### (2) 活動報告

###### ア 第1回植物調査部会

(ア) 形式 活動・観察会（カワラノギクの保護活動）

(イ) 日時 7月20日（火）午前10時～正午

(ウ) 場所 相模川河川敷カワラノギク保護区域（神沢地区）

(エ) 参加者 合計14名

観察員 12名（浅木、小川、小原、鹿島、木村（光）、後藤、小林（通）、小林（義）、金銅、塩沢、早戸、藤井）

市立博物館1名（秋山学芸員）

事務局 1名（中島）

(オ) 内容 市立博物館と連携したカワラノギクの保護活動（3年目）。有志による活動とし、カワラノギクの保護地でコセンダングサ等の雑草の草抜きを実施しました。除草後、秋山学芸員の指導により、周辺の植物観察を行いました。



###### イ 第2回植物調査部会

(ア) 形式 勉強会・観察会（カワラノギクの観察会と河川敷の状況についての勉強会）

(イ) 日時 10月30日（火）午前10時～11時30分

(ウ) 場所 相模川河川敷（神沢地区）

- (工) 参加者 合計15名  
観察員 12名(浅原(靖)、浅原(米)、鹿島、川崎、川村、木村(光)、  
後藤、小林(通)、小林(義)、金銅、塩沢、藤井)  
市立博物館1名(秋山学芸員)  
事務局 1名(中島)  
その他 1名

- (オ) 内容 保護活動を続けてきた区域内のカワラ  
ノギクが9月の台風の影響ですべて流  
されてしまいました。これを河川敷の  
状況について学ぶよい機会ととらえ、  
勉強会とかろうじて周辺に数株残った  
カワラノギクやカワラハハコなどの植  
物観察を行いました。



#### 4. 2 湧水調査部会

##### (1) 設置目的

相模川をはじめとする河川と段丘崖に点在する湧水は、相模原市の代表的な自然環境といえます。河川や湧水の水質・水量を維持し、生態系の保全を図りながら、将来世代に豊かな水辺を引き継ぐことは我々の責務です。

そのため、相模原市環境基本計画においては、湧水保全対策として、重点施策に「自然環境観察員と連携して、湧水の監視を行います。」という取り組みを掲げました。この取り組みを推し進め、湧水の継続的な調査を実施することを目的に湧水調査部会を設置しました。

##### (2) 調査概要

平成14年度から17年度まで行ってきた一次調査の結果を踏まえ、今年度から23年度までの5年間で二次調査期間として、これまで調査した30箇所のうち、湧水が全く確認できない1箇所を除外した29箇所について経年変化を調査し、記録します。今年度は、横山丘陵緑地公園、横山丘陵緑地下、道保川公園内、道保川公園下、十二天神社下、相模原浄水場下の6箇所の調査を行いました。

##### (3) 調査方法

調査方法については、調査結果の比較が容易にできるよう自然環境基礎調査の調査方法にできる限り近づけています。主な変更点としては、自然環境基礎調査で行ったBODの調査は市民参加での調査には適さないことから、CODによる調査に変えています。

表4-2 湧水調査方法の概要

項目	概要	
	湧水調査部会調査 (平成14年度～)	自然環境基礎調査 (平成10年度)
1 調査時期	豊水期(9月下旬)と湧水期(1月下旬)の年2回	
2 調査箇所	29箇所を5年で実施(第2次調査)	30箇所を1年で実施
3 水質調査	(1) 水質調査項目 ①水温 ②溶存酸素量(DO) ③水素イオン濃度(pH) ④電気伝導率(EC) ⑤化学的酸素要求量(COD) ⑥湧水量	(1) 水質調査項目 ①水温 ②溶存酸素量(DO) ③水素イオン濃度(pH) ④電気伝導率(EC) ⑤生物化学的酸素要求量(BOD) ⑥湧水量
4 植物調査	(1) 時期 豊水期調査及び湧水期調査と同期日 (2) 方法 湧水周辺の植物について、成育種の確認、群落の大きさ、生育状況などを記録	(1) 時期 夏期植生調査時に実施 (2) 方法 湧水周辺の植物について、成育種の確認、群落の大きさ、生育状況などを記録
5 水生生物調査	(1) 時期 豊水期調査及び湧水期調査と同期日 (2) 方法 湧水地及びこれに続く水路、湿性地を対象として、水生動物の確認(定量時間20分程度の任意採集)	(1) 時期 豊水期調査と同期日 (2) 方法 湧水地及びこれに続く水路、湿性地を対象として、水生動物の確認(サーバーネット及びタモ網を用い定量時間30分の任意採集)

(2) 活動報告

ア 第1回湧水調査部会

(ア) 形式 調査(豊水期)

(イ) 日時 10月7日(日) 午前9時～午後2時30分

(ウ) 場所 横山丘陵緑地公園～相模原浄水場下(姥川・道保川沿いの湧水5地点)

(エ) 参加者 合計14名

観察員12名(青野、浅野、池川、岩田、岡野、川崎、木村(光)、小林(義)、塩沢、杉山、西田、横木)

事務局 2名(星野、柴崎)

(オ) 内容 水質調査班、植物調査班、水生生物調査班の3班に分かれて調査を行いました。道保川公園下は雑草などのため、湧水地点が確認できませんでした。



イ 第2回湧水調査部会

(ア) 形式 調査(湧水期)

(イ) 日時 1月27日(日) 午前9時～午後3時30分

(ウ) 場 所 横山丘陵緑地公園～相模原浄水場下  
(姥川・道保川沿いの湧水6地点)

(エ) 参加者 合計13名

観察員10名(青野、浅野、岩田、  
岡野、川崎、木村(光)、  
小林(義)、斉藤、  
仙田、田畑)

事務局 3名(星野、柴崎、植村)

(オ) 内 容 水質調査班、植物調査班、水生生物調

査班の3班に分かれて調査を行いました。豊水期に確認できなかった道保川公園下の湧水についても調査を行いました。



#### ウ 調査結果—地点評価—

表4-3 湧水調査部会調査結果

No	名 称	湧水量	水質	植生環境	水生動物相	管理	総評	変化
1	横山丘陵緑地公園	D	A	B	C	A	△	→
2	横山丘陵緑地下	B	B	B	C	B	△	→
3	道保川公園内	A	A	A	A	A	◎	↗
4	道保川公園下	B	A	A	B	C	△	↘
5	十二天神社下	A	A	A	A	A	◎	→
6	相模原浄水場下	B	A	A	A	A	◎	→

(評価基準)

湧水量	A：湧水量が豊富 B：湧水量がやや豊富 C：染み出す程度 D：水涸れする時期がある
水質	A：各項目とも良好 B：普通 C：生活排水が混入している
植生環境	A：良好な樹林環境がある B：樹林がある C：樹林がない
水生動物相	A：水生動物相が豊富 B：普通 C：水生動物相が貧相
管理	A：湧水が管理されている B：とくに管理はされていない C：管理されておらず、ゴミが散在している
総評	◎：湧水量及び水質並びに周辺環境が良好 ○：湧水量及び水質並びに周辺環境がやや良好 △：湧水量及び水質並びに周辺環境が貧弱 ×：湧水が水涸れし、湧水地機能がなし

### 4. 3 河川生物相調査部会

#### (1) 設置目的

相模川をはじめとする河川には様々な生き物が生息しています。とくに河川に見られる底生生物を指標とする河川生物相は、種類、個体数などから、水の汚れ具合を見分けることができます。また、継続的にデータを収集し現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、河川の生き物に関心を持つ観察員が協力し合い、市内を流れる河川の生物相調査を行うことを目的に河川生物相調査部会を設置しました。

#### (2) 活動報告

ア 第1回河川生物相調査部会

(ア) 形 式 活動・観察会(境川の水生生物の調査)

- (イ) 日 時 9月29日(金) 午前9時30分～11時  
(ウ) 場 所 境川(宮上小学校横)  
(エ) 参加者 合計5名  
          観察員4名(木村(光)、小林(義)、中川、眞山)  
          事務局1名(星野)  
(オ) 内 容 境川上流部の川の生きもの調査を実施しました。アメリカザリガニ、メダカ、  
          ドジョウなど、多数の生きものを確認しました。

イ 第2回河川生物相調査部会

- (ア) 形 式 活動・観察会(相模川の水生生物の調査)  
(イ) 日 時 11月10日(土) 午前9時30分～11時  
(ウ) 場 所 相模川(大島キャンプ場横)  
\* 雨天のため、中止しました。

ウ 第3回河川生物相調査部会

- (ア) 形 式 活動・観察会(相模川の水生生物の調査)  
(イ) 日 時 3月16日(日) 午前10時～  
(ウ) 場 所 相模川  
(エ) 参加者 合計19名  
          観察員18名  
          事務局 1名

#### 4. 4 野鳥調査部会

(1) 設置目的

鳥類の生息状況を把握するには、季節的な変動を考慮して年間を通じた調査を行うことが必要であるため、全体テーマ調査だけで必要なデータを得ることは困難です。また、相模原市自然環境基礎調査で得られたデータを活かし現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、野鳥に関心を持つ観察員が協力し合い、現地調査による記録種をもとに、相模原市の鳥類相の把握や鳥類相から見た緑地・水辺の現況の把握を目的に野鳥の調査を行うため、野鳥調査部会を設置しました。

(2) 調査概要

自然環境基礎調査の野鳥調査において設定した市内14ルート、13地点を対象に、今年度から2班体制で追跡調査を行い記録します。また、野鳥調査部会員が個人または個人が属する団体等で行う活動で得た情報を活用し補完します。

今年度は、こもれびの森、東海大学相模高校付の2ルートと、古淵鵜野森公園、相模大野中央公園の2地点を調査しました。

(3) 調査方法

調査方法については、調査結果の比較が容易にできるように自然環境基礎調査の調査方法にできる限り近づけることとしました。主な変更点として、姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録するようにしました。

表4-4 野鳥調査方法の概要

項目	概要	
	野鳥調査部会 (平成18年度～)	自然環境基礎調査 (平成11年度)
1 調査時期	春季調査(渡り期)-5月中旬- 夏季調査(繁殖期)-6月後半- 秋季調査(渡り期)-10月後半- 冬季調査(越冬期)-2月上旬-	春季調査(渡り期)-5月中旬- 夏季調査(繁殖期)-6月後半- 補足調査(繁殖期)-8月- 秋季調査(渡り期)-10月後半- 冬季調査(越冬期)-2月上旬-
2 調査箇所	14+N ルート・13+N 地点を複数 年かけて調査	14 ルート・13 地点を1年で調査
3 調査方法	[線センサス調査法]	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ設定したルート上を時速1.5～2kmで歩行し、調査ルートの片側50m(両側100m)幅の範囲内に出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。</li> <li>姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ設定したルート上を時速1.5～2kmで歩行し、調査ルートの片側50m(両側100m)幅の範囲内に出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。</li> </ul>
	[定点観察法]	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ設定した調査地点において、範囲は定めずに1地点30分間の観察を行い、出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。</li> <li>姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ設定した調査地点において、範囲は定めずに1地点30分間の観察を行い、出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。</li> </ul>
[任意観察]		
<ul style="list-style-type: none"> <li>野鳥調査部会員が個人又は個人が属する団体において活動して得た情報を活用し補完する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の手法以外に、調査地域内を任意に調査し、鳥類相の把握を行う。</li> </ul>	

(2) 活動報告

ア 第1回野鳥調査部会

(ア) 形式 企画会議

(イ) 日時 5月7日(月)午後6時30分～7時15分

(ウ) 場所 環境情報センター 活動室

(エ) 参加者 合計20名

観察員18名(浅野、安達、荒谷、池川、内田、小川、荻原、小原、川崎、木村(光)、小泉(邦)、小林(義)、佐藤、塩沢、原田、堀野、眞山、柳下)

事務局 2名(菅井、中島)

(オ) 内容 今年度から始める自然環境基礎調査の追跡調査の調査方法を学び、今年度の調査地についての行程の打ち合わせを行いました。

イ 第2回野鳥調査部会

- (ア) 形式 調査(春季)  
(イ) 日時 5月19日(土)(天候:雨)  
A班 午前8時30分~11時30分  
B班 午前9時~11時30分  
(ウ) 場所 A班 古淵鵜野森公園~こもれびの森  
B班 相模大野中央公園~東海大学相模高校付近

- (エ) 参加者 合計14名  
観察員12名(安達、池川、内田、小川、荻原、川崎、木村(光)、  
小林(義)、原田、堀野、眞山、柳下)  
事務局 2名(菅井、中島)  
(オ) 内容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。



ウ 第3回野鳥調査部会

- (ア) 形式 調査(夏季)  
(イ) 日時 6月16日(土)(天候:晴)  
A班 午前8時30分~11時30分  
B班 午前9時~11時30分  
(ウ) 場所 A班 古淵鵜野森公園~こもれびの森  
B班 相模大野中央公園~東海大学相模高校付近

- (エ) 参加者 合計13名  
観察員11名(浅野、池川、内田、小原、川崎、後藤、佐藤、塩沢、原田、  
眞山、柳下)  
事務局 2名(菅井、中島)  
(オ) 内容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。



エ 第4回野鳥調査部会

- (ア) 形式 調査(秋季)  
(イ) 日時 10月20日(土)(天候:晴)  
A班 午前8時30分~11時30分  
B班 午前9時~11時30分



- (ウ) 場所 A班 古淵鵜野森公園~こもれびの森  
B班 相模大野中央公園~東海大学相模高校付近  
(エ) 参加者 合計9名  
観察員7名(浅野、浅原(米)、内田、  
川崎、後藤、眞山、柳下)  
事務局2名(菅井、中島)  
(オ) 内容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

オ 第5回野鳥調査部会

- (ア) 内容 調査(冬季)・会議  
(イ) 日時 平成20年2月2日(土)(天候:くもり)  
(調査) A班 午前8時30分~11時30分  
B班 午前9時~11時30分

- (会議) 午後0時30分～午後2時
- (ウ) 場所 (調査) A班 古淵鵜野森公園～こもれびの森  
B班 相模大野中央公園～東海大学相模高校付近
- (会議) 市南合同庁舎 第4会議室
- (エ) 参加者 合計13名  
観察員11名 (浅野、安達、内田、小川、荻原、川崎、木村(光)、後藤、小林(義)、塩沢、柳下)  
事務局 2名 (星野、中島)
- (オ) 内容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。調査終了後、参加者全員が集まり1年間の調査結果をまとめました。全体的にハシボソガラスやメジロが増えているようですが、確認できた種数・個体数は自然環境基礎調査の結果とあまり変わっていないことなどを確認しました。



## カ 調査結果

表4-5 野鳥調査部会調査結果 古淵鵜野森公園 (定点観察)

分類			確認数				
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計
ペリカン	ウ	カワウ	1				1
ハト	ハト	キジバト	1		2	2	5
キツツキ	キツツキ	アオゲラ	2				2
		コゲラ				1	1
スズメ	ツバメ	ツバメ		3			3
	セキレイ	ハクセキレイ		2		1	3
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	4	9	9	2	24
	ヒタキ	ツグミ				3	3
		オオルリ			1		1
	エナガ	エナガ		10		6	16
	シジュウカラ	ヒガラ				1	1
		シジュウカラ	4	1	5	1	11
	メジロ	メジロ		2		3	5
	ホオジロ	アオジ				1	1
	アトリ	カワラヒワ				3	3
	ハタオリドリ	スズメ		4		10	14
	ムクドリ	ムクドリ	10	7			17
	カラス	ハシボソガラス			3		1
ハシブトガラス		1		1			2
野生化した鳥類		ドバト				4	4
合計 4目 15科 20種	種数		7	9	5	14	20
	個体数		23	41	18	39	121

表4-6 野鳥調査部会調査結果 こもれびの森内（ルート調査）

分類			確認数					
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計	
タカ	タカ	オオタカ				1	1	
キジ	キジ	コジュケイ	1		2		3	
ハト	ハト	キジバト	2	1	1	13	17	
キツツキ	キツツキ	コゲラ	2	2	5	6	15	
スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	1	2	1	1	5	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	11	2	12	13	38	
	モズ	モズ			1		1	
	ヒタキ	ルリビタキ					1	1
		シロハラ					2	2
		ツグミ					16	16
		ウグイス					1	1
	エナガ	エナガ			5	2	7	
	シジュウカラ	シジュウカラ	7	11	10	24	52	
	メジロ	メジロ		3	1	16	20	
	ホオジロ	カシラダカ				5	5	
	アトリ	カワラヒワ					9	9
		シメ					1	1
	ハタオリドリ	スズメ			1	10	11	
	ムクドリ	ムクドリ	11				3	14
	カラス	ハシボソガラス	7	23			11	41
ハシブトガラス		4	9	1		7	21	
合計 5目16科21種	種数		9	8	11	19	21	
	個体数		46	53	40	142	281	

表4-7 野鳥調査部会調査結果 相模大野中央公園（定点観察）

分類			P13				
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計
ハト	ハト	キジバト	1			2	3
スズメ	ツバメ	ツバメ		4			4
		イワツバメ	10	1			11
	セキレイ	ハクセキレイ			1	1	2
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	6	13	15	36
	ヒタキ	ツグミ				3	3
	エナガ	エナガ		10			10
	シジュウカラ	シジュウカラ	1	2	1	1	5
	メジロ	メジロ	2	3	1	12	18
	ハタオリドリ	スズメ	4	5	2	1	12
	ムクドリ	ムクドリ	1	6	14		21
	カラス	オナガ	4	2			6
		ハシボソガラス	2				2
ハシブトガラス		1	6	4		11	
野生化した鳥類	ドバト	8	1	14	4	27	
合計 2目11科15種	種数		11	11	8	8	15
	個体数		36	46	50	39	171

表4-8 野鳥調査部会調査結果 東海大学相模高校付近（ルート調査）

分類			確認数					
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計	
タカ	タカ	ツミ			1		1	
キジ	キジ	キジ	1				1	
ハト	ハト	キジバト	4	2	1	6	13	
キツツキ	キツツキ	アオゲラ		1			1	
		コゲラ	1	2		3	6	
スズメ	ツバメ	ツバメ	8	9			17	
	セキレイ	ハクセキレイ			1	1	2	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	4	9	18	3	34	
	モズ	モズ			1		1	
	ヒタキ	ツグミ					4	4
		ウグイス			1		1	2
	エナガ	エナガ				5	5	
	シジュウカラ	シジュウカラ	3	9	5	14	31	
	メジロ	メジロ	7	2	4	3	16	
	ホオジロ	アオジ				3	3	
	アトリ	カワラヒワ	2	3			5	
	ハタオリドリ	スズメ	4	19	23	7	53	
	ムクドリ	ムクドリ	10	3	2	16	31	
	カラス	オナガ		1		7	5	13
		ハシボソガラス		5	4	5	6	20
ハシブトガラス			1	2	9	4	16	
合計 5目 17科 21種	種数		13	13	12	15	21	
	個体数		51	66	77	81	275	

工 部会報の発行

3月に部会報を発行しました。

### 第3章 かんきょう学習セミナー

#### 1 第1回かんきょう学習セミナー

日時 4月15日(日)  
午前9時30分～11時15分  
場所 環境情報センター 学習室  
参加者 60人



- (1) 自然環境観察員制度について  
本制度の目的や意義などについて、事務局から説明しました。
- (2) 講義
  - ア 「春の七草と環境について」  
講師：染矢 貴さん(アジア航測株式会社)
  - イ 「ハルゼミと環境について」  
講師：藤本真宗さん(アジア航測株式会社)
- (3) 全体テーマ調査「春の七草分布調査」について  
事業パートナー春の七草分布調査担当チーフの西田和子さんが調査の手引きにそって春の七草分布調査の調査方法を説明し、質疑応答を行いました。  
調査の詳細は、資料編の「1 調査の手引き」をご参照ください。
- (4) 自主テーマ調査について  
自主テーマ調査の目的について、事務局から説明しました。
- (5) 専門部会調査について  
部会の目的や設置・運営について事務局から説明しました。
- (6) 任意参加調査について  
調査の概要を事務局から説明しました。
- (7) その他  
環境情報センター事業協力者登録制度「エコネットの輪」及びさがみはら環境まつりについて概要を説明し、参加を呼びかけました。

#### 2 第2回かんきょう学習セミナー

日時 6月24日(日) 午前9時30分～11時25分  
場所 環境情報センター 学習室  
参加者 43人



- (1) 講義「セミの生態と環境について」  
講師 守屋博文さん(市立博物館)  
過去に市立博物館で行ったセミの抜殻調査の結果や抜殻の特徴説明、セミの鳴き声などの講義を行いました。
- (2) 全体テーマ調査「セミの鳴き声調査」について  
調査の手引きにそって、セミの鳴き声調査の調査方法の説明をし、質疑応答を行いました。  
調査の詳細は、資料編の「1 調査の手引き」をご参照ください。

### 3 第3回かんきょう学習セミナー

日 時 3月2日(日) 午前10時～正午

場 所 環境情報センター 学習室

参加者 43人

(1) 講義「津久井地域の自然環境調査(動物調査)の結果について」

講師 藤本真宗さん(アジア航測株式会社)

(2) 平成19年度調査結果について

アドバイザー: 藤本真宗さん(アジア航測株式会社)

春の七草分布調査及びセミの鳴き声調査の結果について報告しました。説明資料は、本編第2章に掲載されています。

(3) 平成20年度活動に向けて

全体テーマ調査について18年度から過去の調査の継続調査を行っていることから、20年度は15年度に行った「野鳥」と「帰化植物」の調査を行うことについて了承を得ました。

## 第4章 その他の活動

- 本制度の調査結果を発表するため、「さがみはら環境まつり」へ出展し、運営にご協力いただきました。
- 環境情報センター事業協力者登録制度「エコネットの輪」の登録を延長しました。「相模原市の環境学習・環境活動プログラム集」へ昨年と同じ「小・中学校の校庭にある樹木・園芸種の観察会」「身近な植物観察会」「草あそびー草笛や草虫・笹舟づくりー」「インタープリテーション（IP）を体験する」の4プログラムのほか「野生動物の生き方体験」を登録し、小・中学生を対象とした各種観察会や総合学習への支援などでの講師活動にご協力をいただきました。
- 環境情報センター主催事業「夏休み環境学校」の講師及び運営サポートにご参加いただきました。

観察員の活動は身近な生きもの調査以外においても、これからますます大切な役割を担っていくことが期待されます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 〈さがみはら環境まつり〉



展示物作成



当日の展示



当日の展示

### 〈夏休み環境学校〉



「夜の鳴く虫観察会！」



「河川環境教室」



「道志川で自然と遊ぶ川探検！」

## 資料編

- 1 調査の手引き
- 2 自然観察かわらばん
- 3 ご意見一覧



## はじめに

暖かくなり、生きものたちも活気づき、1年の中で生きものの観察が最も楽しい「春」の到来です。

空では鳥がさえずり、木々には若葉が芽吹き、草花には虫がセッセと歩き回ります。気をつけてみると、道ばたのちょっとした雑草にも小さなかわいらしい花が咲いていることでしょう。

今回は、平成14年度に実施した「春の七草」の追跡調査を行います。市街地でも比較的良好に見かけ、昔から我々の生活に馴染みがある野草の「春の七草」について、5年前と比べて、どのように分布が変化しているのかを調べてみましょう。

### 1 「春の七草」とは？

むかしから、正月の7日に七種の若菜を入れたお粥を食べると、その一年間、健康でいられると言われてきました。平安時代に「四辻の左大臣」が「せりなづな 御形（ごぎょう、おぎょう）はこべら 仏の座 すずなすずしろ これぞ七草」と詠んだことから、現在の7種（セリ、ナズナ、御形＝ハハコグサ、はこべら＝ハコベ、仏の座＝コオニタビラコ、すずな＝カブ、すずしろ＝ダイコン）が「春の七草」として定着しました。なお、現在のホトケノザ【シソ科】は、春の七草のホトケノザ（仏の座＝コオニタビラコ）と異なる植物です。

「春の七草」の中のナズナ、ハコベは、相模原市自然環境基礎調査（平成10～12年）の中で、指標動植物種としてあげられており、市街地を代表する身近な植物とされています。

4月では「食べて」楽しむことは無理かもしれませんが、よくみるとかわいい花を付ける「春の七草」について「観て」楽しんでみましょう。

### 2 調査対象

「春の七草」のうち、「スズナ（カブ）」、「スズシロ（ダイコン）」を除く、次の5種について、調べます。

- セリ
- ナズナ
- ハハコグサ（オギョウ・ゴギョウ）
- ハコベ
- コオニタビラコ（ホトケノザ）

※詳細は「調査対象種一覧」参照

### 3 「春の七草はどんなところに生えているのでしょうか？」

ナズナ、ハコベ、ハハコグサは、田園から市街地まで広くみられる種です。セリ、コオニタビラコは湿った環境に多く、主に田園でみられる種です。

※詳細は「調査対象種一覧」参照

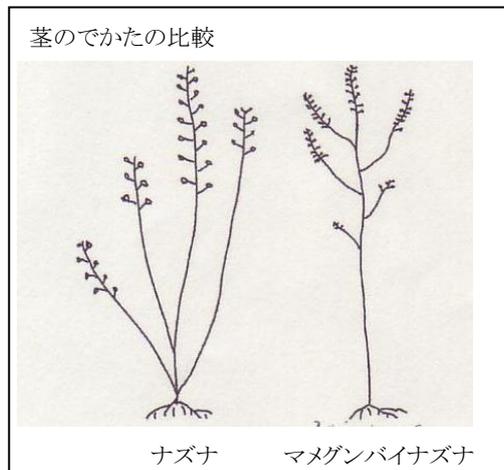
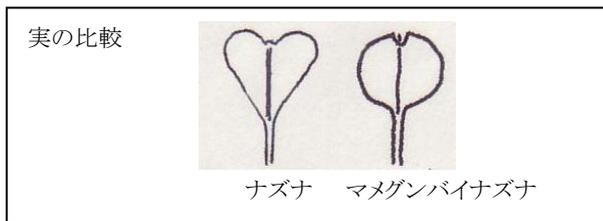
#### 4 「春の七草」と間違えやすい植物

対象とする植物には似たような種類がたくさんあります。ここでは相模原市で比較的多く生育していて、間違えそうな主な種をあげてみました。

##### ○マメグンバイナズナ（ナズナと間違えやすい種）

ナズナと間違えやすい種として帰化種の「マメグンバイナズナ」があります。

この2種の違いは、ナズナの果実は逆三角形をしています。マメグンバイナズナは丸くて平たんです。また、マメグンバイナズナは茎の上の方で分枝します。



##### ○ウシハコベなど（ハコベと間違えやすい種）

ハコベと間違えやすい種として「ウシハコベ」「ノミノフスマ」「オランダミミナグサ」などがあります。これらの種はいずれも小さくて白い花を咲かせ、葉は対生しています（「参考資料」参照）。

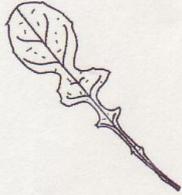
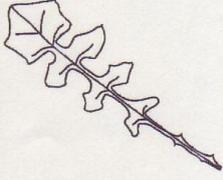
ハコベとこれらの種との違いを下の表に書いたので参考にしてみましょう。花の形、毛の多さ、葉っぱの形などをよく観察すると違いが分かります。

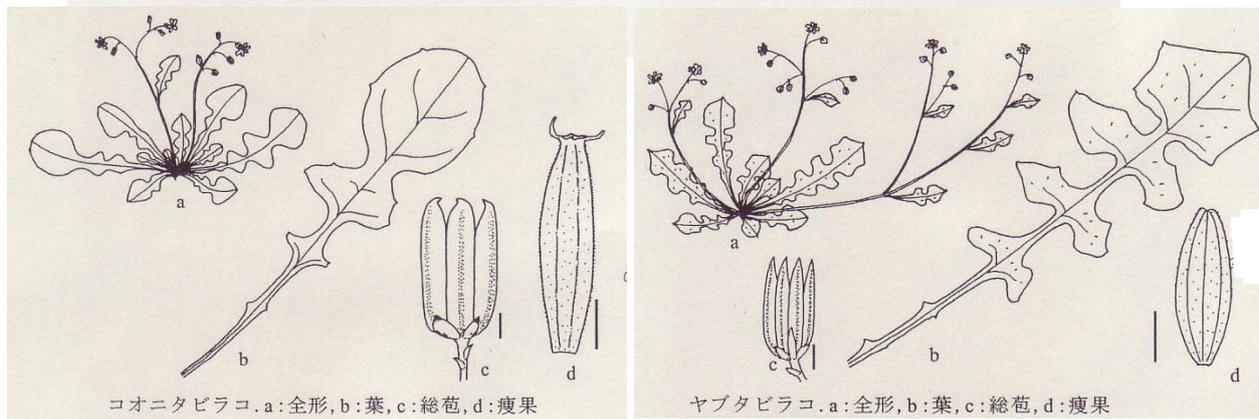
種名	ハコベ	ウシハコベ	ノミノフスマ	オランダミミナグサ
葉	上部の葉は葉柄なし 下部の葉は葉柄あり 	ハコベより葉が大きい 上部の葉は葉柄なし 下部の葉は葉柄あり 	上~下部まで葉は葉柄なし 	毛が多い 
花	雌しべ 3つ 深く切込む 萼は花びらと同じ長さか、花びらより長い 	雌しべ 5つ 	萼は花びらより短い 	浅く切込む 萼は花びらと同じ長さか、花びらより短い 
花びらの切込み	深い	深い	深い	浅い
雌しべの数	3つ	5つ	3つ	5つ

### ○ヤブタバコ (コオニタバコと間違えやすい種)

コオニタバコと間違えやすい種として「ヤブタバコ」と「オニタバコ」があります。コオニタバコ、ヤブタバコ、オニタバコの違いを下の表に書いたので参考にしてみましょう。葉っぱの形、毛の有無、高さなどをよく観察すると違いが分かります。

表 コオニタバコの見分け方

種名	コオニタバコ	ヤブタバコ	オニタバコ
生育環境	田んぼ・畦・道ばた	林の縁・田んぼ やや日陰を好む	道ばた・公園・庭
高さ	10~20cm	20~30cm	20~100cm
頭花	まばら	まばら	多数
葉や茎の毛の有	ない	やや多い	細かい毛がある
根元の葉の形			

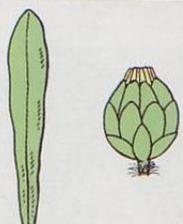
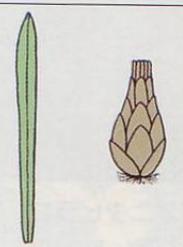
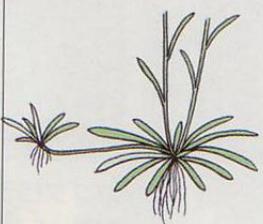


### ○チチコグサなど (ハハコグサと間違えやすい種)

ハハコグサと間違えやすい種として「チチコグサ」「チチコグサモドキ」「ウラジロチチコグサ」「タチチコグサ」などがあります。市内では、チチコグサモドキ、ウラジロチチコグサが多いようです。

ハハコグサは、黄色い花が咲き、チチコグサなどの仲間は茶褐色の花が咲くので、区別できます。

◆見分けのポイント

	葉・花	茎
ハハコグサ	 <ul style="list-style-type: none"> <li>●両面に白い綿毛をかぶる。質はやわらかい。幅は4~12mm。</li> <li>●花は黄色。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>●根もとから何本も分かれて立つ。</li> </ul>
チチコグサ	 <ul style="list-style-type: none"> <li>●葉の表は汚れた緑色で、裏面は純白色の綿毛をかぶる。幅は3~5mmと狭い。</li> <li>●花は褐色。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>●根もとから短いほふく茎を出してふえる。</li> </ul>

## 5 調査のしかた

### (1) 調査期間

4月15日(日)から5月31日(木)まで

### (2) 調査の方法

#### ① 調査場所

調査票の地図を基に、道ばた、水田、畑など、「春の七草」が生えていそうな場所を探してみましょう。

注1：調査区は500m×500mのメッシュになっています。基本的には中央部付近(調査票の地図に書かれた半径50mの円内)の範囲で行ってください。

#### ② 調査道具

手引き書、調査票、地図、筆記用具、身分証(名札)、(図鑑・ルーペ)ほか

#### ③ 調べること

生えていた種類、生えていた場所(環境)、その他気がついたことなど。

#### ④ 調査票の記入方法

- ・ 調査票の地図に確認地点位置を記入する必要はありません。
- ・ 調査対象種が「無い」という結果も大切です。備考欄に「無し」と記入してください。
- ・ 確認した対象種名、見られた生育環境を丸く囲み、気がついたことがあったら備考欄に記入してください。

※詳しくは調査票の記入例を参照してください。

#### ⑤ 回収期限

調査票の提出は、6月11日(月)までに環境情報センターに送付ください。

\*\*\*\*\*

### 調査にあたって注意して頂きたいこと

\*\*\*\*\*

#### 【 安全面 】

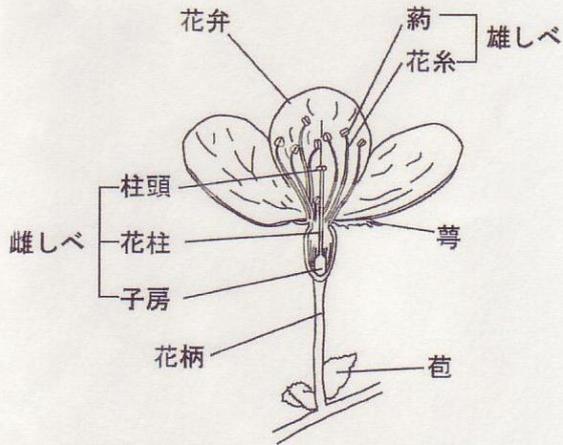
- ・ 調査は、日中に行ってください。
- ・ 高校生以下の方は、なるべく一人では行かないでください。(行くときは家族に行き先を知らせてください。)
- ・ 工場や河川敷、がけ地など、危険な場所は、無理に調査をしないでください。

#### 【 その他 】

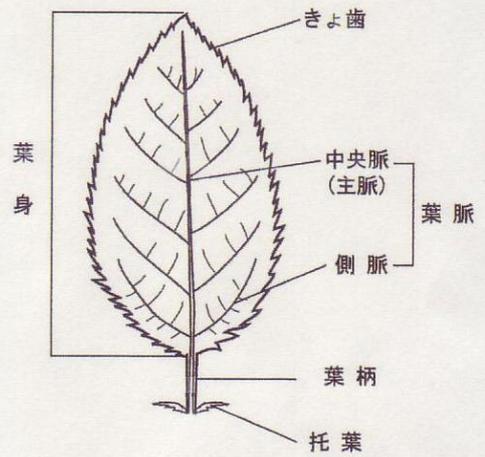
- ・ 工場や農地など、民有地に無断で立ち入らないでください。
- ・ 学校などの敷地内で調査する際は、学校の方に一声かけてから敷地にはいるようにしてください。
- ・ 調査に出かけるときは、必ず身分証を携帯してください。

## 6 参考資料

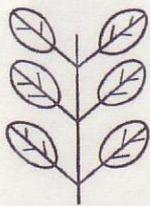
### [花のつくり]



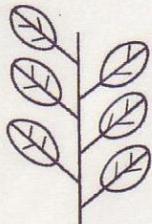
### [葉のつくり]



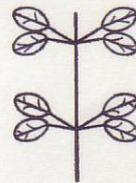
### [葉の付き方]



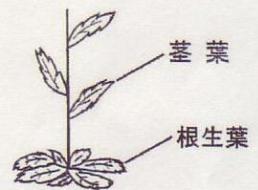
対生



互生



輪生



根生

### [葉の裂け方]



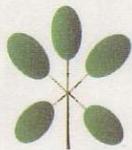
羽状分裂葉



羽状複葉



二回羽状複葉



掌状複葉



掌状分裂葉



三出葉

○平成14年度「春の七草」分布調査

(1) 調査期間

平成14年4月15日～5月29日

(2) 調査結果

項目	確認メッシュ数	未確認メッシュ数	未調査メッシュ数	合計メッシュ数
セリ	16	285	47	348
ナズナ	162	139		
ハハコグサ	193	108		
ハコベ	212	89		
コオニタビラコ	51	250		

(3) 周辺環境

項目	道路脇・舗装道路	道路脇・未舗装道路	空き地	駐車場	公園・グラウンド	林・森	水田	畑	小さな水路	大きな河川	人家	その他	合計
セリ	3	3	1	0	1	1	5	1	5	0	1	1	22
ナズナ	55	37	54	45	10	0	0	30	1	2	3	9	246
ハハコグサ	54	36	66	59	10	2	2	38	1	3	11	16	298
ハコベ	81	51	60	44	11	6	4	40	2	6	10	16	331
コオニタビラコ	19	12	8	12	2	4	3	3	1	1	3	2	70

(参考文献)

平成14年度相模原市自然環境観察員制度年次報告書

生きもの地図が語る街の自然 (浜口哲一, 1998)

指標生物自然をみるものさし ((財) 日本自然保護協会, 1994)

神奈川県植物誌 2001 神奈川県植物調査会編 (神奈川県立生命の星・地球博物館)

野草見分けのポイント図鑑 (畔上能力・菱山忠三郎・西田尚道 監修, 2003)

山溪カラー名鑑 日本の野草 (林 弥栄 編者, 2000)

山溪ハンディ図鑑 野に咲く花 (林 弥栄 監修, 1998)

山溪ポケット図鑑 1 春の花 (山と溪谷社, 2004)

ヤマケイポケットガイド 野の花 (木原 浩, 2005)

記入例

春の七草分布調査（2007 年度） 記録票

調査日：平成 19 年 5 月 1 日（火）

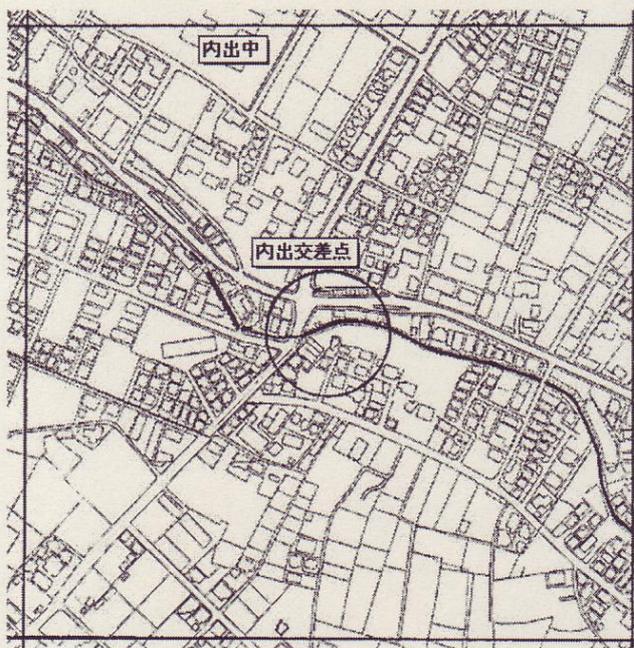
調査者：相 模 太 郎

メッシュ番号	E05	調査地名	※目印など 下九沢内出交差点
--------	-----	------	----------------

種 名	生 育 環 境			備 考
セリ	・道路脇（舗装道路） ・道路脇（未舗装道路） ・空き地 ・駐車場	・公園、グラウンド ・林、森 ・水田 ・畑	・小さな水路（幅約 2M 未満） ・大きな河川（相模川・境川等） ・その他（ ）	
ナズナ	・道路脇（舗装道路） ・道路脇（未舗装道路） ・空き地 ・駐車場	・公園、グラウンド ・林、森 ・水田 ・畑	・小さな水路（幅約 2M 未満） ・大きな河川（相模川・境川等） ・その他（ ）	いたる所に生えていた
ハハコグサ	・道路脇（舗装道路） ・道路脇（未舗装道路） ・空き地 ・駐車場	・公園、グラウンド ・林、森 ・水田 ・畑	・小さな水路（幅約 2M 未満） ・大きな河川（相模川・境川等） ・その他（ ）	
ハコベ	・道路脇（舗装道路） ・道路脇（未舗装道路） ・空き地 ・駐車場	・公園、グラウンド ・林、森 ・水田 ・畑	・小さな水路（幅約 2M 未満） ・大きな河川（相模川・境川等） ・その他（ ）	
コオニタビラコ	・道路脇（舗装道路） ・道路脇（未舗装道路） ・空き地 ・駐車場	・公園、グラウンド ・林、森 ・水田 ・畑	・小さな水路（幅約 2M 未満） ・大きな河川（相模川・境川等） ・その他（ ）	

特記事項

- ・水辺がなかったので、セリやコオニタビラコは確認できなかった。
- ・去年と同じ場所でツバメが子育てしていた
- ・ナズナとハコベはいたるところに生えていた
- ・公園など管理されている所では少なかった。



平成19年度（2007年度）

相模原市自然環境観察員制度  
身近な生きもの調査

セミの鳴き声調査

— 手 引 き —



アブラゼミ

相模原市立環境情報センター

## はじめに

自然環境観察員制度では、これまでにさまざまな指標動植物種の分布調査を行ってきました。

今回は、平成14年度に調査を行ったセミの鳴き声調査の追跡調査を実施します。

うっとうしい梅雨が終わると、夏の季節の到来です！

夏といえば、セミを思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。

幼い頃を振り返ってみると、校庭でセミが鳴き始める頃には、もうすぐ始まる長い夏休みに胸を躍らせ、ツクツクボウシが鳴き出す頃には、夏休みの終わりが近づいてきたこととやり残していた宿題の片付けに苦労したことを思い出します。

幼少の夏休みの思い出と常にいっしょにいたセミ達。

時代は変わり、街の様子も随分と変わりました。相模原市も日々、変化しています。畑や駐車場であった場所がいつしか住宅地へと変化しています。

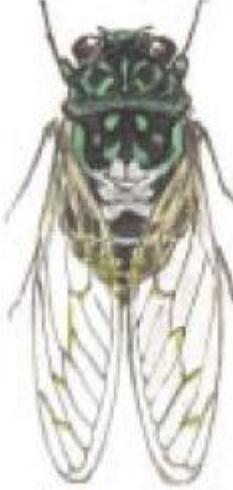
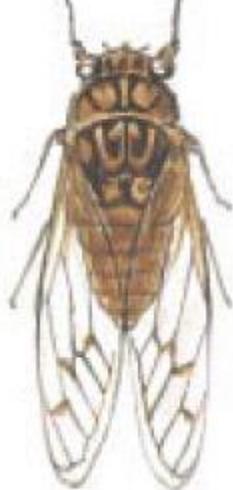
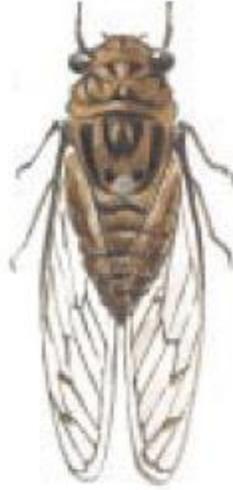
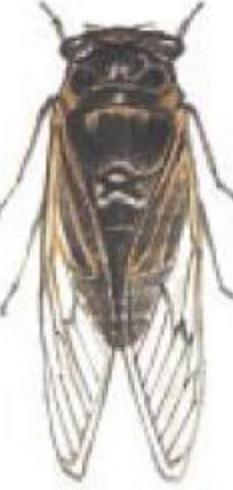
日本全国に分布するセミ類は約32種といわれていますが、市街地では、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、クマゼミが多く見られます。

セミは代表的な森林性昆虫です。都市化が進むことにより、森林が少なくなったり、森林の規模が少なくなると、セミの種類構成が変わったり数が少なくなったりすることから、自然度が図れると考えられています。

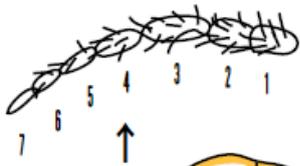
特に、都市化が進む地域では、アブラゼミが多くなるという傾向にあるようです。

さあ、今回の調査は、5年前と比べてどのような結果となるのか？ 興味深いところですよ。

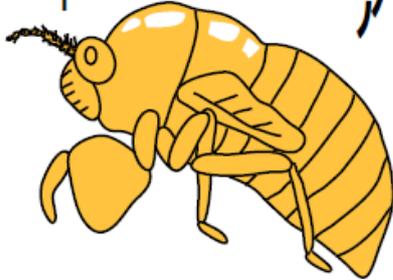
# 1. 今回、調査対象とする種

種名						
	アブラゼミ	ミンミンゼミ	ニイニイゼミ	ヒグラシ	ツクツクボウシ	クマゼミ
体長	56～60mm	56～63mm	32～40mm	40～48mm	43～46mm	60～65mm
鳴き声	ジリジリジリ	ミンミンミンミー	チー	カナカナ	ツクツクホーシ ツクツクホーシ	シャンシャンシャン
生息地	平地～山麓、人家の庭先や雑木林	平地から丘陵地 サクラ類やケヤキ	平地から丘陵地 サクラ類やケヤキ、マツ類	平地から丘陵地 スギやヒノキ	平地から低山地 サクラ類やカキ樹林	平地や市街地
鳴く時間等	タイプ：午後型 特に午後6時～7時頃 出現時期：8月	午前型 特に午前6時～8時頃 出現時期：8月	終日方 特に午後6時～7時頃 出現時期：7月	朝夕方 特に午前4時～5時頃 午後6時～7時頃 出現時期：7月～8月	午後型 特に午後5時～6時頃 出現時期：8月～9月	午前型 特に午前8時～10時頃 出現時期：8月

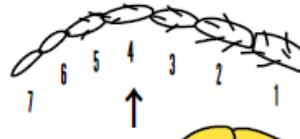
## 2. セミの抜け殻検索表



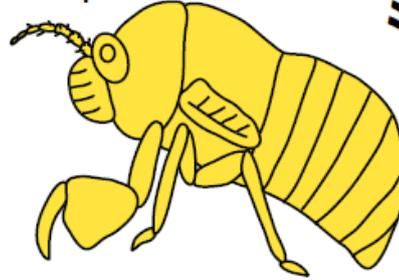
アブラゼミ



- ・触角の付け根から3番目の節は2番目より長い。
- ・触角には毛が多い。
- ・触角の付け根から2番目の節の先はやや太い。

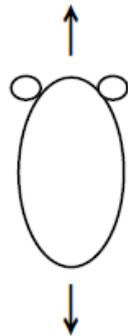


ミンミンゼミ



- ・触角の付け根から3番目の節は2番目と同じくらいの長さ。
- ・触角には毛が少ない。
- ・触角の付け根から2番目の節の先は太くならない。

ぬけがらのほうが大きい

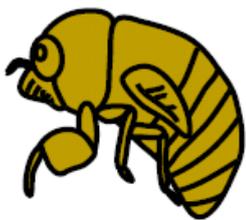


ここにぬけがらをおいてください

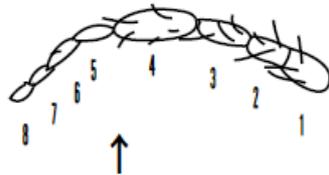
けんさくひょう  
この検索表は、相模原でよく見られるセミのぬけがらを見分けるためのものです。夏になったらぬけがらを探して調べてみてください。

ぬけがらのほうが小さいか同じくらい

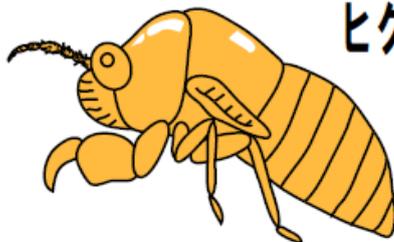
ニイニゼミ



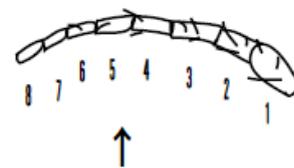
- ・体が丸っこい。
- ・体全体に泥がついている。



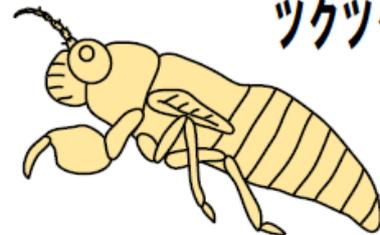
ヒグラシ



- ・触角の付け根から4番目の節は3番目より長い。
- ・体全体に光沢がある。
- ・背中が猫背。



ツクツクボウシ



- ・触角の付け根から4番目の節は3番目より短い。
- ・薄茶色で光沢がない。
- ・猫背にならず背筋が伸びる。

### 3. 調査のしかた

今年度の調査では、平成14年度の調査と同様に、①セミの分布マップ調査と②セミの鳴き声カレンダー調査の2種類を行います。

調査方法は、以下のとおりです。

#### ①セミの分布マップ調査

##### (1) 目的

旧相模原市区域で調査対象種のセミがどのように分布しているか、また、どのような環境を利用しているかを把握することを目的とします。

##### (2) 調査期間

7月20日～10月15日（ただし、多くのセミが出現する8月10日前後をピーク時期とします。）

##### (3) 調査方法

担当メッシュの中心から半径50mの円内を目安とし調査を行い、結果を「セミの鳴き声調査 調査票 分布マップ用」に記入してください。

ア. 調査区域で確認したセミの種類を記録してください。

※ 担当メッシュ全域をくまなく歩く必要はありません。

※ 調査票のマップに確認地点位置を記入する必要はありません。

※ 「セミが見つからない」、「セミの鳴き声を聞かない」という結果も大切です。調査対象種が見つかるまで調査をする必要はありません。

イ. 姿（生体・死体）や抜け殻を確認した場合は、確認場所、周辺環境などを記録してください。

ウ. 姿が確認できず、声だけの確認の場合も対象とします。

※ セミが鳴いている場所は調査区域の円の外でもかまいません。

##### (4) 調査道具 手引き書、調査票、筆記用具、観察員証ほか

##### (5) 提出期限 10月31日（水）までに環境情報センターに提出してください。

## ②セミの鳴き声カレンダー調査

### (1) 目的

旧相模原市区域でセミの鳴きはじめと鳴き終わりの時期をチェックし、「セミの鳴き声カレンダー」を作成することにより、セミの活動時期を把握することを目的とします。

自宅や職場周辺などでのセミの鳴き声をこまめに記録し、「セミの活動時期」の相模原市版を作成しましょう。

### (2) 調査期間

7月20日～10月15日（可能な限り、多くの日に行ってください。

特に、セミが鳴き始める時期や鳴き終わる時期には気をつけてください。）

### (3) 調査方法

担当メッシュはありません。自宅や職場周辺などでセミの鳴き声を確認した場合に「セミの鳴き声調査調査票 鳴き声カレンダー用」に記録してください。

### (4) 調査道具 手引き書、調査票、筆記用具ほか

### (5) 提出期限 10月31日（水）までに環境情報センターに提出してください。

#### 4. 野外調査にあたって注意していただきたいこと

- 熱中症を避けるため、帽子、飲み物は必ず携帯してください。(熱中症の対処方法は次ページ参照)。
- 高校生以下の方は、なるべく一人では行かないでください。(行くときは家族に行き先を知らせてください。)
- 工場や農地などの私有地には、無断で立ち入らないで下さい。
- 工場や河川敷、崖地など、危険な場所は無理に調査をしないで下さい。
- 双眼鏡で、太陽を見ないように注意して下さい。
- 双眼鏡を使う場合は、周囲の人から誤解を招くような使い方をしないよう、注意しましょう。
- 調査時に出かける時は、必ず観察員証を携帯してください。

## 熱中症とは…

高熱の環境下で体温調整の障害によって体温が上がって起こる障害。

熱中症は、その発生の経緯により日射病、熱射病に分けられ、また症状により熱疲労、熱痙攣に分けられます。

- 日射病 炎天下に長時間さらされたり、直射日光直下で重労働や運動をした時などに起こる。
- 熱射病 直射日光以外の高熱の環境下（機関室・ガラス工場などでの長時間労働など）で起こる。
- 熱疲労 高熱の環境下（特に蒸し暑いところ）で、働いていたり、多人数が風通しの悪いところに集まっているときに起こりやすい。  
うつ熱と循環器系の不全が中心で、軽いショック状態となる。  
頭痛・めまい・はき気などがみられ意識がなくなることもある。
- 熱痙攣 体温上昇、水分、塩分の消失によって、一部の筋肉または全身の痙攣を起こす。  
全身痙攣はさらに過高熱を招き、重傷の場合は死亡することもある。

## 対策方法…

高温、多湿という環境条件の悪さだけでなく、不適当な衣類の着用、疲労、睡眠不足、肥満、貧血、便秘、病弱などが誘因となり、暑さに弱い体質の人がかかりやすいと言われていきますので、下記の点に留意してください。

- (1) 吸湿性、通気性のよい衣類を着用する。
- (2) 水分の補給を十分に行うと同時に塩分も少量、補給しておく。
- (3) 直射日光下では、必ず帽子をかぶる。
- (4) 休養をとり、疲れた状態での外出をしない。

## 気分が悪くなったら…

- 風通しが良く、暑くない所に運び、衣類を暖め、水平位または上半身をやや高めに寝かせる。顔面が蒼白で脈が弱いときには、脚を高くした体位にする。
- 意識がないときには、気道確保の体位をとらせる。
- 意識があり、嘔吐、痙攣などがなければ、冷たい水、できれば食塩水を飲ませる。
- 熱がなく皮膚が冷たい場合は、冷やさない。
- 体温が高いときには、冷たい水で全身の皮膚を拭いたり、水枕で頭を冷やす。
- 事故後は、安静にして病院に運ぶ。

## 参考とした資料等

- 平成14年度 相模原市自然環境観察員制度年次報告書
- 科学のアルバム「セミの一生」 あかね書房
- 生きもの地図が語る街の自然 岩波書店
- 指標生物自然をみるものさし (財)日本自然保護協会
- 都会の生物 小学館
- 科学技術館のホームページ みんなで調べよう生き物調査

# セミの鳴き声調査 調査票 分布マップ用 (2007 年度)

記入例

調査日：平成19年      月      日 (      )

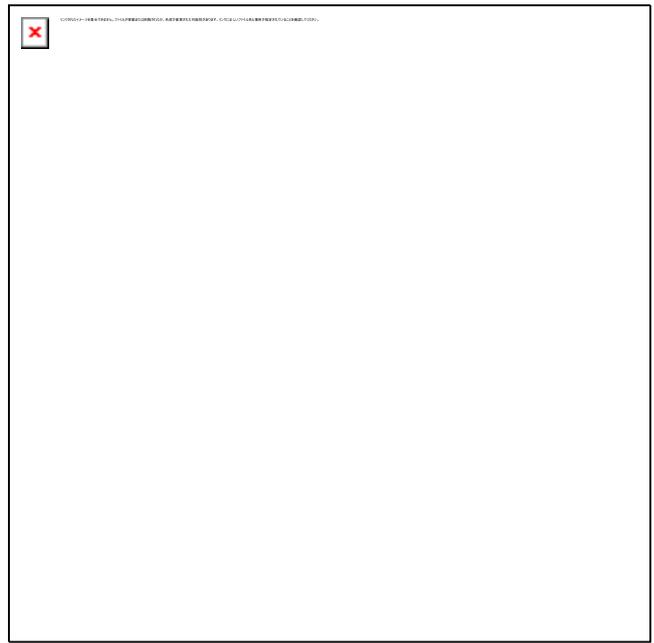
調査者： \_\_\_\_\_

メッシュ番号	A06	調査地名	※目印など 当麻田小学校西側、新町幼稚園
--------	-----	------	----------------------

種 名	確認状態	確認場所	周辺環境
アブラゼミ	<input checked="" type="checkbox"/> 声 <input type="checkbox"/> 姿 (生体・死体) <input type="checkbox"/> 抜殻	<input type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/> 電柱 <input type="checkbox"/> 広葉樹 <input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> その他 (                      )	<input checked="" type="checkbox"/> 住宅地 <input type="checkbox"/> 緑の多い公園 <input type="checkbox"/> 森林 <input type="checkbox"/> 工場、学校 <input type="checkbox"/> 田畑 <input type="checkbox"/> 果樹園 <input type="checkbox"/> その他 (                      )
ミンミンゼミ	<input checked="" type="checkbox"/> 声 <input type="checkbox"/> 姿 (生体・死体) <input type="checkbox"/> 抜殻	<input type="checkbox"/> 針葉樹 <input checked="" type="checkbox"/> 電柱 <input type="checkbox"/> 広葉樹 <input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> その他 (                      )	<input checked="" type="checkbox"/> 住宅地 <input type="checkbox"/> 緑の多い公園 <input type="checkbox"/> 森林 <input type="checkbox"/> 工場、学校 <input type="checkbox"/> 田畑 <input type="checkbox"/> 果樹園 <input type="checkbox"/> その他 (                      )
ヒグラシ	<input type="checkbox"/> 声 <input type="checkbox"/> 姿 (生体・死体) <input type="checkbox"/> 抜殻	<input type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/> 電柱 <input type="checkbox"/> 広葉樹 <input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> その他 (                      )	<input type="checkbox"/> 住宅地 <input type="checkbox"/> 緑の多い公園 <input type="checkbox"/> 森林 <input type="checkbox"/> 工場、学校 <input type="checkbox"/> 田畑 <input type="checkbox"/> 果樹園 <input type="checkbox"/> その他 (                      )
ツクツクボウシ	<input type="checkbox"/> 声 <input type="checkbox"/> 姿 (生体・死体) <input type="checkbox"/> 抜殻	<input type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/> 電柱 <input type="checkbox"/> 広葉樹 <input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> その他 (                      )	<input type="checkbox"/> 住宅地 <input type="checkbox"/> 緑の多い公園 <input type="checkbox"/> 森林 <input type="checkbox"/> 工場、学校 <input type="checkbox"/> 田畑 <input type="checkbox"/> 果樹園 <input type="checkbox"/> その他 (                      )
クマゼミ	<input type="checkbox"/> 声 <input checked="" type="checkbox"/> 姿 (生体・死体) <input type="checkbox"/> 抜殻	<input type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/> 電柱 <input type="checkbox"/> 広葉樹 <input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> その他 (                      )	<input checked="" type="checkbox"/> 住宅地 <input type="checkbox"/> 緑の多い公園 <input type="checkbox"/> 森林 <input type="checkbox"/> 工場、学校 <input type="checkbox"/> 田畑 <input type="checkbox"/> 果樹園 <input type="checkbox"/> その他 (                      )
ニイニイゼミ	<input type="checkbox"/> 声 <input type="checkbox"/> 姿 (生体・死体) <input type="checkbox"/> 抜殻	<input type="checkbox"/> 針葉樹 <input type="checkbox"/> 電柱 <input type="checkbox"/> 広葉樹 <input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> その他 (                      )	<input type="checkbox"/> 住宅地 <input type="checkbox"/> 緑の多い公園 <input type="checkbox"/> 森林 <input type="checkbox"/> 工場、学校 <input type="checkbox"/> 田畑 <input type="checkbox"/> 果樹園 <input type="checkbox"/> その他 (                      )

**特記事項**

- ・偶然にもセミの羽化を見ることができ、神秘的だった。
- ・アブラゼミが多く見られた。



# 自然観察かわらばん

野鳥調査部会版 Vol.2  
平成20年3月発行

「かわらばん」は、観察員の皆さんから寄せられた貴重なご意見や情報を交流させ、今後の調査をより良いものにしていくために発行しています。

\*\*\*\*\*

## 平成19年度から追跡調査を開始

平成18度に発足した野鳥部会は、19年度から相模原市自然環境基礎調査（10～12年度）で設定した27調査地を、2班体制で追跡調査を始めました。19年5月8日に実施した企画会議では、19年度の調査地2地点2ルートについて集合場所・時間、行程等を話し合いました。その検討結果に基づき、5月（渡り期）、6月（繁殖期）、10月（渡り期）、20年2月（越冬期）に現地調査を行いました。2月の現地調査終了後、19年度の調査結果のまとめを行いました。

### 19年度の調査地

調査場所		
A班	定点調査	古淵鶉野森公園
	ルート調査	木もれびの森内
B班	定点調査	相模大野中央公園
	ルート調査	東林ふれあいの森～東海大相模高校

### 19年度の調査日

春季調査（渡り期）	5月19日
夏季調査（繁殖期）	6月16日
秋季調査（渡り期）	10月20日
冬季調査（越冬期）	2月2日

5月（渡り期）の現地調査は、朝方は雷をともなった激しい雨が降るあいにくの天候でしたが、調査時間ごろになると降ったりやんだりの状態になり、A・B班とも傘を持ちながら現地調査を実施しました。6月（繁殖期）の調査は、1週間前までは『また雨かも・・・』と不安をもたせるような天気予報でしたが、近づくにつれ雨の心配はなくなり、当日は暑いぐらいの天候で実施できました。10月（渡り期）の調査もまた秋晴れて汗をかきながらの調査でした。2月（越冬期）はくもっていたので、葉っぱのない木々にとまる鳥の姿をよく見ることができました。

A班の定点調査地である古淵鶉野森公園は、鶉野森の境川斜面緑地の上部樹林地で、周囲には斜面樹林と清掃工場、住宅地があります。またルート調査地の木もれびの森のなかには、ミズキ、スギ林などの樹林が広く生育しており、周辺は住宅地となっています。どちらの調査地も樹林環境に依存した種の大きな生息地です。



B班の定点調査地の相模大野中央公園は、相模大野駅前であり、また東林ふれあいの森から始まるルート調査地は、ゴルフ場と住宅地の間を通ります。どちらも都市鳥が優先するポイントです。



現地調査の結果は、別紙のとおりです。確認した鳥は、A班の定点調査が20種、ルート調査が21種、B班は定点調査が15種、ルート調査が21種でした。

19年度の調査での確認種

調査地	確認種
古淵鵜野森公園	カワウ、キジバト、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、オオルリ、エナガ、ヒガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト
こもれびの森内	オオタカ、コジュケイ、キジバト、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタギ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、カシラダカ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
相模大野中央公園	キジバト、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト
東林ふれあいの森～東海大相模高校	ツミ、キジ、キジバト、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

11年度の基礎調査結果と平成19年度調査の確認種数の比較

調査場所	平成19年度	平成11年度
古淵鵜野森公園	4目 15科 20種	5目 15科 26種
木もれびの森内	5目 16科 21種	3目 14科 22種
相模大野中央公園	2目 11科 15種	2目 9科 12種
東林ふれあいの森～東海大相模高校	5目 17科 21種	3目 13科 19種

19年度の調査について、2月の調査後に行ったまとめの時に、次のような感想・意見がありました。

- 思ったより変動が少ない。
- 11年度の基礎調査結果と比較するのなら、条件を同じにして調査しないといけない。(→11年と条件を同じにするのは難しいので、調査状況を明記することとしました。)
- 調査日を1日しか設定していないので、渡りの時にちょうどあえばたくさん見られる鳥も、まったく見られない可能性もある。
- 11年度の調査結果では、ゴイサギ等が確認されているが、偶然かもしれない。任意調査の結果は比較対象にしないほうがよい。(→任意調査の結果は表の中から削除しました。)
- 全体的にメジロが増えている。餌付けしているのか、人を恐れなくなっているのか。
- 11年の基礎調査から8年も経っているので調査地の状況は変わっているのかも。カワラヒワが少なくなっているのは、調査地の樹木が変わったり草地がなくなったりしたからか。

\* \* \* \* \*

20年度野鳥調査部会は、調査場所を下溝・麻溝付近に変えて、1定点3ルートを2班に分かれて調査します。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

相模原市環境保全部 環境情報センター

〒229-0036 神奈川県相模原市富士見1丁目3番41号

電話：042-769-9248 FAX：042-751-2036

アドレス：[kankyou-center@city.sagamihara.kanagawa.jp](mailto:kankyou-center@city.sagamihara.kanagawa.jp) 担当：中島

ホームページアドレス <http://www.eic-sagamihara.jp/>

## ご意見・ご感想〈春の七草分布調査〉

分類	項目	内容
感想	新たな発見	調査全地域で、ハハコグサの黄色い花がよく目についた。時期を逃すとナズナがまったく姿なしということがわかった。
		日ごろ見ていない草も、気にとめて観察すると生態がわかって興味深かった。
		普段、雑草として見過ごしている草花だったのが、他の草との区別、見分け方など注意して見ると、草花の一つ一つにある自然の素晴らしさに感動することが多くあった。 また、河原など平地と異なった自然環境の中で同じ植物でも色、形など、また、種類も違っており、その適応の見事さに感動させられました。
	意識の変化	今まで、見向きもしなかった雑草を注意深く見るようになりました。 今回初めての初心者としての感想です。 これを機会にこれまで無関心に近かった目立たない花や草に興味をいざようになり、また勉強したくなり、友人とも草や花の名前や由来を話し合うようになり、日々の生活にハリが出てきました(例:ハルジオンは貧乏グサ、庭に生えて嫌われていた貧乏カズラ(ヤブカラシ)、そしてイヌノフグリという珍名、最後のとどめはヤブレガサ等を話し合っって大笑いするなど、健康増進にもなって楽しんでおります)。何でも“知る”ということは、何歳になっても生活に潤いを与え元気の源でもあります。ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひいたします。64歳の定年シルバー一人です。
		うれしかったです
	植物の名前を少しだけけれど覚えることができました。特定の植物を探すというのは意外と難しかったです。生えているかもしれない場所を予想しながら探しました。見つけることができたときは嬉しかったです。	
	驚きました	
		花壇を乗っ取ってしまったナズナには、野草の強さを感じました(大沢小[G06])。また、畑[H05]のハハコグサの群生にも驚きました。畑の持ち主がわざわざ植えたとは考えられません。また、なぜという疑問を感じざるを得ません。攪乱地に一種のみが群生するものでしょうか?
		ハコベはどこにでもあると思ったが思いのほか見つからず、反対にハハコグサがちょっとした植栽の中にも生えているのが意外だった。また、ナズナも意外に少ないと感じた。
		七草の調査で感じたことは想像以上に植物種が多様であったことです(名前はわかりませんが・・・)。また、住宅街では、空き地や駐車場には自生していなかったハハコグサ、ナズナが、側道にあった。また、「植生が比較的豊か」と考えていた公園は私が見た公園では、どれも植生に乏しく、逆に住宅街の路地裏、横浜水道路のほうが豊かだった。 2年前のタンポポ調査時と比べて、土地(畑)の急激な宅地化が植物の生態に大きく影響している地域がありました。特に相模大野駅に近い[P26]です。ここでは当該地はもとより、周辺地域にまで植物生態系が変化しているのが明確に確認できました。

感想	驚きました	<p>年に2回、自分の担当地区を観察にまわりますが、空き地がそのたびに少なくなっています。住宅が建ったり、また、畑も後継者がいなくて(畑の近所の人が出ていました)雑草だらけになっている所もありました。</p> <p>ハコベはいたる所にあったが、ナズナは思ったより少なかったのが意外であった。</p> <p>JR橋本駅と南橋本駅(相模線)の間にあった日金工がなくなり、今広大なグリーン芝生になっています。外から見ると杭が多く打たれ、工事車が入っていました。前年度はクモの調査、昨年度はツバメの調査で回りました。大きな木も多く、クモの巣や多くのツバメを見かけましたが(空を飛ぶ)残念です。本当に自然をなくす開発に心が痛みます。</p> <p>前回「春の七草」調査をした時、磯部の方へ行っただけですが、田は多いのに草はほとんどないという状態でした。「あぜ道」はきれいに舗装されていて、「近代的な田んぼ」でした。相模原にはまだ昔ながらの里山的な地域が残っているのでしょうか。ぜひまだ残っているのなら残していただきたいと思っています。先日、多摩丘陵の方へ行き、池や小川にオタマジャクシやメダカが泳いでいるのを見て子どもと大はしゃぎしました。そのような場所が自分の住む相模原にもあるといいなあ・・・と思いました。</p> <p>調査日は天気快晴でしたので気分良くハイキング気分で行いました。今まで少しずつ疑問に感じていましたが、少しずつ今まで見たこともあまりなかった花の名前はわかりませんがどこへ歩いても見かけることが多くなってきた花？ポピーの野草型なののでしょうか？これも外よりの花だと思いますが、昔々の花がなくなって新種が増えてなんとも今まで思っていなかったことが不思議です。</p> <p>ハハコグサは手入れの行き届いた場所ではほとんど見られず、空き地(草地)の中に見ることができた。前回の調査よりハハコグサは減っている感じがした。</p> <p>幼少時代をすごした地域として30年前くらいの記憶と比較してみるときれいな色の花を多く見るようになったと感じる。在来とは別の様々な花がけっこうある。おそらく、これらの進出によって、花の蜜を吸う蝶や昆虫がネットワークをのぼしているのだろう。「良くも悪くもない」時代なのかも。</p>	
		疑問	<p>ナズナ、コオニタビラコに出会えませんでした。時期が遅かったのでしょうか。</p> <p>セリですが、実は我が家の庭にあります。根つきセリの根を植えたものです。これって分布してるといえるのでしょうか？変ですよ。でもひよっとしたらそういうものの進出はあるかもしれません。</p>
			苦勞しました

感想	苦労しました	<p>ホトケノザの見分けがむずかしかった。疑問符がつくものがあったので、川崎さんと会った時に聞きました。シソ科だから違うと言われました。ホトケノザは見つかりませんでした。</p>
		<p>「セリ」については、私の今住んでいる所は「田通し」という名前が残っていますが、以前、造成する前は「当麻山」の寺領地で田んぼの中に3本の道がありました。その頃は毎年、春になると「セリ」がたくさん生えていました。今回の調査で懐かしくセリを探して歩きましたが湿地が少なく、ほとんど見つけることができませんでした。[A04]のところの川沿いによく少く見つけることができました。「ナズナ」「ゴギョウ」については、全地域に生えていました。「ハコベ」については、もっとたくさん生えていると思っていましたが、意外に少なく、見つけるのに苦労しました。(草の丈が低いところにはほとんど生えていませんでした。)</p> <p>「ホトケノザ」については、実物を見たことがなく、資料を見てもよくわからないため、インターネットで探し、コピーを取り、水辺を歩いて探しましたが発見できず、城山地区や町田地区を何回か探して歩き、ようやく「城山の山の中の田んぼ」と「町田の山の中の畑(もしかすると「ヤブタビラコ」ですか？(不明))」で群生を見つけました。その後、調査地域を改めて探してみましたが、どうしても発見することができませんでした。(残念！)</p>
		<p>ハコベに似ている草で、花が水色からブルーの小さな花をつける、似た植物が結構多く、立ち止まるたびにハコベと間違えた。</p>
	こんなことがありました	<p>今回も初めて実施するものであったが、数年同じ所をやっているため地元の人たちと声をかけ、このようなことをやっているので協力をお願いしたところ、気持ちよく教えていただいた。また、畑の中に入ってもよいとの言葉をいただき普段入ることができなかった所も調査することができました。</p> <p>現在もフルタイムで働いているため日曜日のみの調査であったが、天候のよい日のため季節外ではないかと言われましたが、皆様の協力により調査できました。まだまだ勉強不足で身近な動植物を理解していないためなかなか見つけ出すことができなかったが、これを機に少しずつ植物に関心をもち何とか続けていきたいと思います。</p>
	残念でした	<p>3年近く同じエリアを担当していますので、調査も土地勘が働きやすくなっています。今回は、連休(ゴールデンウィーク)前後に転居などありほとんど観察ができませんでしたので、5月中旬～下旬に集中してしまいました。3～4月ころですと、七草の特徴的なところがあらわれ、見つけやすかったかと反省しています。</p>
		<p>植物にはまったくの素人で、作業を始める前に農家の人や知人に対象の草の判別を教えてくださいました。名前はハコベ、ナズナ、セリなどは知っていましたが、スズナ、ハハコグサは初めて知りました。案外身近な植物であることを知りました。セリは馴染みでしたが、私の調査区には存在しません。姥川の崖線からの湧水地帯も参考に見てみましたが見つかりません。コオニタビラコはまったく見つけることができませんでした。見落としではないと思いますが不安です。</p> <p>調査区域が市の中心部だけど、道路脇や空き地には生えているだろうと思っていたが、期待はずれだった。また雑草が生えているところにも七草はなかった。</p> <p>結果としてほとんど何も確認できなかった。</p> <p>生えていないのか、知識がない(知らない)ため確認できないのか、恥ずかしいが残念である。5月20日・26日、さらに6月2日も挑戦したが確認できなかった。空き地が駐車場になっているが除草剤が散布されており、雑草は枯れていた。公園などは除草がされていた。「緑道」「つるまの森」「水道路」など野草観察には恵まれていると思ったが残念である。水辺がないので「セリ」「コオニタビラコ」はもともと生えていなかった可能性もあり。</p> <p>コオニタビラコが見られず残念でした。[J10][K09]の舗装道脇の植え込みの中によく似たものがあったのですが、セリは鳩川と姥川べりにありそうでしたが、川の中に降りられず確認できなかった。たぶんセリではなく、他の野草と思われる。知人の話では「その辺にはセリは生えない」との話でした。</p>

感想	残念でした	<p>コオニタビラコが見つからなかった。オニタビラコはあったが、田んぼや畦がなくなったためか。</p> <p>セリ及びコオニタビラコは当方の調査地では発見できなかった。</p>
	楽しかったです	<p>「野に咲く花」を片手に、ふだん気にもとめなかった花たちをはじめ、名前を確認しながら、眺めることができ、幸せでした。</p> <p>セリは自生しているものは見るできませんでした。川は水辺まで行けば生えていたかもしれないけれど、護岸されているので高い所から目を凝らしても見えませんでした。</p> <p>コオニタビラコは出会ったお年寄りや農家の人に聞くと、パンフレットや本の説明とまったく違うことを教えてくれるので迷いました。ハコベ、ナズナ、ハハコグサはどこにでもあり、「あ、こんにちは。またお会いしましたね」と挨拶すると、うなずいてくれました。</p> <p>春の七草は「セリ、ナズナ、ゴギョウ～」とお題目のように小さい時から言っていたのが、懐かしく思い出されました。</p> <p>田舎育ちの私は田でセリをつみ、おひたしにしたり、ハハコグサは草もちとして入れるのに摘んだりしましたが、ナズナ、ハコベ、コオニタビラコは食べたことはありませんでした。うさぎを飼っていたので、ハコベはよく取りましたし、また、小鳥にもよく取って与えていました。</p> <p>今回、そんなことを思い出しながらなつかしく歩きました。思っていた以上に少なく、セリ、コオニタビラコは見つけることができませんでした。</p> <p>子どもの頃ナズナはペンペン草と言って、果実が茶色になったのを振ったりして遊びました。昔は、草や木の葉、竹、笹等、すすきなどで工夫して遊びましたが、そんな自然もだんだん少なくなり、いつも思うのですが、調査の度に、山、林、畑がなくなり、本当にさびしくなります。</p> <p>なぜかハコベがあまりなかった。ゴミの多さにビックリした。でもすごくおもしろかったです。他にも様々な草や花を見れてよかったです。</p> <p>田名(私の担当区分)には相模原の原風景がある。見渡す限り畑でその先には丹沢、大山の山々があるといった所が残されている。春と秋の2回、自然観察でその時々この風景を見るのも楽しみのひとつです。</p> <p>今回の「春の七草分布調査」は、調査対象5種類のうち、最低2、3種は発見できるので、楽しいものでした。調査対象種が何も発見できないときほど非常に疲れが出るものです。</p> <p>以前、ツバメ調査した家の軒など飛来している様子を見ると本当に嬉しく声かけて(家の人と)楽しく話したり、したことなど、調査員を不十分ながら続けてよかったですと思いました。ありがとうございました。</p> <p>地球の温暖化、その他の環境の変化が確実に動植物にも影響してきていますね。</p>
	勉強になった	<p>調査対象種以外でも①ノゲシ②イヌガラシ③ドクダミ④カタバミ⑤ニワゼキショウ等が多く見受けられた。</p> <p>上記種を採取し持ち帰り、図鑑で調べ名前を知ることができた。実際に名前は知っていても、現物種は見たことがないものがありましたので、知識が増えました。</p> <p>調査は4月25日と5月28日にした。調査の対象の植生が大きく変化していた。4月の調査では対象植物がよく目立ったが、5月では他の植物の生育が大きくなって変化していた。草取りがかなりの所でされていた。ハコベは全地域で花1輪、ナズナは見つからず、他で見たが茶色に枯れていた。植物の1ヶ月の変化を見たのは良い学習になった。</p> <p>今回、担当場所には水場がないのでコオニタビラコはないだろうと思っていたのですが、やけに似ている花が…。手引きとずいぶんならめっこしていましたが、同じようにも違うようにも見え、他の種と同じようにも違うようにも見え、結局家に持ち帰りました。図鑑の写真も小さすぎてわからず、いろいろなHPを見てようやくオニタビラコらしいことがわかりました。意外とハコベにも似た種があるのでチラッと見ただけでは分からないものだと思います。素人には勉強になりました。</p>

	その他	<p>春の七草分布調査は5月にもう一度と思って始めたのですが、思っただけで終わってしまいました。不十分かとも思います。申し訳ない。セリを探して探して見つけたときは、してやったり見つけたぞ！の気分。場所はひょっとしたら大和市。境川の中、川底にたまった土砂に草が茂って川原状になった所でした。そこだけでした。その境川沿いでもうひとつおもしろいもの発見。タヌキです。散歩の方々が集まって写真を撮ったりしました。野犬の心配もなく(同じく川底の川原なのです)エサは雑食ならそこそこあるし、もしかしたら上からくれる人もいるかもしれませんね。夏は子どもたちとの活動のとき。きちんとやりぬこうと考えております。</p> <p>今年はすべての花々が一週間くらい昨年と比べて早く咲くように感じる。4月29日にはカタクリの里近くでカワトンボを見つけたり、ホウチャクソウの群生を見たりと、歩くことがとても楽しい時間となっている。仕事の行き帰りの道ですら日々の植生の移り変わりや鳥たちの様子など全てが観察の対象となり、おもしろい。興味のあるものに目は行ってしまいが、きちんと系統だてて勉強し、役に立つ記録となるような観察をしたいと思っている。</p>
考察	新たな発見	<p>相模原市の住宅地と城山町の住宅地とでは、観察をしてみるとまったく植物の量が違うことに気づいた。同じ住宅地でも昔からの土地が残っているからか、手入れが悪くほうであるのか、はるかに城山町のほうが、植物の種類、量とも多い。しかし、相模原市でも昔から駐車場だった土地はカントウタンポポなど昔見たことのある草が多い。宅地造成をした所はやはり外来種が圧倒的に多い。特に子どもの頃は見たことのなかったマメゲンバイナズナ、カラクサナズナ、イヌカキネガラシなど、新しい造成地で見かけたのが印象に残った。昔からの土があるところには、在来の植物が普通に生え、新しく土を入れたり、表面を更地にした所には、真っ先に外来のハルジョオン、オランダミナグサ、オオイヌノフグリ、オノゲシなどが生えている。</p>
	生育環境	<p>平成14年度の分布状況について考える―春の七草分布調査手引きP7参照。コオニタビラコは田んぼと周辺の畦周り、湿地ゾーンに自生傾向が強いと認識しております。平成14年度の分布状況によると、湿地と思われる環境(4件)に対する乾燥環境下(道路脇、舗装駐車場(5件)の確認件数があまりにも異常な件数で集約されています。今年度の春の七草分布調査に携わった体験上から判断すると自生環境の「逆転現象」は考えられる内容である。精査乞う。</p> <p>提案: 乾いた舗装路脇、駐車場等が一般的な生育環境であるのであれば、次回調査時は「乾地環境にもよく生える」旨を手引きに網羅されますよう望みます。</p> <p>自宅のすぐ近くの空き地には、ハハコグサ、ナズナ、ハコベがたくさん生えているのに、私の調査エリアでは、見つけるのが難しかった。生える環境の違いがあるのだらうと推測している。</p>
	観察記録	<p>ナズナ、ハコベ、ハハコグサは大体まんべんなくあった。草刈りや除草剤をまかれていた所もかなりあったが、ハハコグサは花が咲いていたため遠くからでもすぐ見つけられた。ナズナとハコベは種子が飛んでいてかれる寸前が多かったがその種子から芽生えて青々としているものもかなりあった。セリとコオニタビラコは、調査区域内では水田がなく、なかったが、調査地全体の中の水田には田おこしがされていて畦にはちゃんと残っていた。</p> <p>ナズナ、ハコベはかなり広い分布のように思われる。今回の調査対象種はいわゆる雑草であり、きちんと管理されている所(畑、庭、舗装道路)には見当たらなかった。</p> <p>5年前と比べて、庭の中にはあるかも知れないが、全体には除草剤が散布されていたりコンクリートなど固められており、雑草が少ない気がした。特に、ナズナは少ない。もしかして私の調査が遅かったせいかもしれませんが、もっと早く一回やっておくべきだったと反省しています。自宅には4月上旬ナズナが繁茂。その為、ブロック塀やコンクリート道路などの狭い隙間に細く生えている雑草がより印象的だった。生命力を感じた。間違えやすい種として紹介されているオニタビラコ、チチゴグサなどが多かった。</p>

考察	観察記録	調査開始が遅れたために不十分な結果になったと思う。ハコベはもっと発見しても良いはずだが、盛りを過ぎ枯れてしまったのだろう。ハハコグサはけっこうしぶとく長らえるものだと実感した。ナズナを全然発見できなかったのは、畑周囲の手入れが済んでしまったためなのか、もともと無かったのかどうかわからなかった。田んぼまわりの植物は壊滅状態だった。
	調査方法・調査区域について	舗装箇所多く。また、草刈り込み等で調査箇所少なくなっている。 調査地に疑問があります。①町田市指定 ②工場、マンションが中心 これでもいいのでしょうか。
		担当メッシュ地域は、畑、雑木林(丘陵、保存林)、河川(姥川、鳩川、道保川)といった自然環境が豊かで、住宅も多い地域である。全体を細かく調査すれば、カブ、ダイコンも農地で見ることも可能で、七種すべてが見られる恵まれた地域である。
		[G03]の調査地点は空き地(遊休畑地)が宅地化されて草が生える場所がなくなっていました。(タンポポの調査時は空き地だった) [F03]の横浜水道用地は大きな草むらになっていて多くの雑草を観察できた。同調査地ロイヤルケアセンター付近でトウダイグサを多く見ることができた。 [G03]の上大島キャンプ場内のサクラ、マツ並木下の草むらは湿地が多いためか、コオニタビラコがヤブタビラコと混在して生えていた。
その他	環境の変化	1. 調査対象域について (1) 上矢部団地周辺では記録票図では米軍相模原補給廠内が半数を占めているが…… (2) 東淵野辺2丁目付近は、特定するのに苦労した。 (3) 環境情報センターでは、調査対象域を把握しているのですか。 2. 調査時期を早くしたら対象種の見分けがしやすいように思う。 (1) ナズナ等は結実し終わっていて他の草に隠れていたのではないか。 (2) 畑や空き地では雑草が繁茂し、多くの所で除草剤が散布されている
	提案・要望	今後どのように分布を広げるのか気になる植物がある。 ・ブタナは既に広く入り込んでいるが全然無い所もある。・ブライダルパール(園芸品)の逃げ出しが日陰で湿ったところで大繁茂・アメリカオニアザミを調べるのは難しいか？
		・今回の調査時期で感じたのは、ナガミヒガンバナの花期に当たっていたのですが、大沢の道路沿いのあちこちにも多く見かけました。市区でも、特に範囲を広げつつあるのでは。一度帰化植物調査で扱ってみる必要があるのでは？と思いました。8月下旬に咲く新テッポウユリもそうですが、園芸品種(あまり良くはないが)なので、駆除されることなく広がっている感じですね。
		私の担当区域の上大島は畑地が多くセリの生息場所は少なく、諏訪森下の水田地帯でセリを見ることができました。畦がコンクリートになっているので畦では生えていません。田んぼの中で見ることができました。しかし、代かきの準備で田起こしがしてある(60%の田で実施)為、草やセリも掘り起こされ一部分しか見ることができなかったと思われます。調査は4月24日に行いましたが、連休に田植えをする農家は連休前に田起こしを行ったと思われます。次回調査の時はもう少し早く4月半ばに実施したほうがよいと思います。
	なかなか参加できないのですが、観察会などに参加するのが一番わかりやすいのかと思います。観察会は大人向けのものが多いので、子連れでも参加できるようなものがあると嬉しいです。(以前、博物館であったと思いますが、子どもの体調不良で参加できませんでした。)※今回の説明会に参加できなかったので思いついたまま書いています。	
	任意で、タンポポなど観察を付加してみても一緒にできますので(比較的同定が容易で自然度をはかる指標にもなりやすいので)〈継続されている方について〉	
	実際にやってみるとけっこうおもしろい(仕事と別として)が、学習会にもう少し時間をかけてあげると効果が高まると感じる。初心者の方はナズナ以外は苦戦かもしれない。(似たものが多い)	

その他	提案・要望	<p>素人でも前もって予習すれば、もっと多くの範囲を担当できると思います。5地区程度の受け持ちより、より充実した気持ちで作業ができるように思います。</p> <p>5月より市内で転居しました。近接地ですので、現在の担当エリアでも問題はありませんが、もしどなたも担当されていないようであれば、隣接区域に変更いただければと考えます。(R25を中心とした5区画)</p>
	テントウムシ	<p>テントウムシ(ナナホシ、ナミ)がよく見られた。</p> <p>テントウムシの春の繁殖活動は秋の期間に比べると各段に活発なのか昨秋10月にはチェックできなかったナナホシテントウムシが担当域([N11][N12][O12][P12])の草ムラで盛んに動き回っているのを見つけた。この事象だけを捉えれば春のメッシュ環境は野趣満点である。</p> <p>昨秋「テントウムシ分布調査」の時に当地区ではほとんど発見できなかった。今回の「春の七草分布調査」の時に、3種類のテントウムシ(①ナナホシテントウ②トホシテントウ③ベタリアテントウ)が発見できた。同一生態環境にある昆虫・植物の同時調査は効果があるのではないかと思った。</p> <p>前年度、テントウムシの調査を同じメッシュで行ったときはなかなか発見できなかったが、多くの個体を見ることができた。</p> <p>昨年はテントウムシを見つけるのに相当な時間を費やしましたが、今回の調査では、相当数のテントウムシを見つけました。何故？</p>
	ツバメ	<p>毎年ツバメの巣が減っているように感じます。飛んでいる姿は見るのですが、一昨年巣があったところは昨年なく、昨年あったところに今年はなく・・・という感じに減っているのは気のせいではないと思うのですが。住宅地で見られるツバメの数自体も減っているのでしょうか。</p> <p>去年見つけたツバメの巣から、今年も親ツバメが飛び出したのを見かけました。</p>
	その他	<p>いくつも野鳥の子育てを目撃しました。ツバメ、キジバト、ムクドリ、ハクセキレイ。</p> <p>我が家でもウサギ(4月22日 6頭)、モルモット(5月22日 2頭)が生まれました。ヒヨコは5月28日にふ化予定。</p> <p>津久井の畑周辺にはナズナが多数ありました。</p> <p>思いのほか暑い日が続いております。先日は環境まつり初めて参加させていただき、おもしろかったです。ありがとうございました。</p> <p>皆様の良いお仕事を、お手伝いできることありましたら・・・</p> <p>自宅近くのこの空き地には、4月はヒバリがさえずっていたが、最近では鳴き声を聞かなくなった。並木3丁目の市営住宅予定地のあたりで、最近、数回、ヒバリが飛翔しながら、さえずっている姿を目撃している。</p> <p>人間が温暖化させ環境を悪化させている。みんなでマナー、ルール、モラル、相模原は相模原をしっかり守る。自然を破壊しないよう心がける。一人ひとりの努力が必要。</p> <p>ガビチョウ(帰化鳥)がいたる所で鳴いていました。(昨年よりずっと多い気がします。)</p>

## ご意見・ご感想 〈ハルゼミの分布調査〉

分類	項目	内容
その他	新たな発見	ハルゼミについては、今回初めてその存在を知った。上大島付近で娘がセミの死がいを見つけている(5月上旬)。私はまだ観察していないが、是非機会があれば見てみたい。
	観察記録	5月19日までだけけど調査範囲でハルゼミの声は聞かれなかった。6月24日までに聞けるかな？
	その他	ハルゼミ調査は時期尚早の為、後日確認して期限内に結果を送付する予定です。

## ご意見・ご感想 〈セミの分布調査〉

分類	項目	内容
感想	新たな発見	<p>どの調査地域に行っても「ミンミンゼミ」がうるさいほどに鳴いていた。今年は意識していたのか「クマゼミ」の鳴き声を聞くことができた。(もっと前の年から鳴いていたかもしれないが、今年で身近で聞くことができた。)</p>
		<p>今年は意識したせいかセミの鳴き声が例年より多かったように思いました。特にアブラゼミはやかましいくらいに多かったと思います。今までクマゼミの存在に気がつかなかったのですが、調査に参加したお陰でクマゼミの鳴き声を識別することが出来ました。ニイニゼミは昔は多く見かけましたが、少なくなりました。鳴き声の識別が難しいと思いました。セミの鳴く時間帯ですが昼間だけでなく夜遅くや朝早くから鳴くということにも気が付きました。</p>
		<p>鳴き声を改めて聞いてみると、同種類のセミでも高低が感じられました。今まで皆同じに聞こえていたので驚きでした。九沢団地の小さな公園の小さなプラタナスの木の葉の裏に抜け殻が沢山ついていました。周りは桜の木や公園の森があり、羽化するのにはよい場所なのでしょう。来年はこの場所で羽化するのを見てみたいと思いました(抜け殻はアブラゼミが多い、その中にミンミンゼミが3個ありました)。今夏はセミが多いように感じましたし、調査で目を凝らしているせいか抜け殻もよく目に付きました。</p> <p>以前住んでいた(名古屋近くの市)所では、うるさい位朝からよくクマゼミが鳴いていましたが、こちらでは聞いていません(?)が、まだこちらまで北上していないのでしょうか、市内で聞いたという結果をこの調査で楽しみにしております。お友達のお孫さんがセミの調査を聞いて抜け殻をビニール袋に120匹近く集めて来てくれました(アブラゼミ)。</p>
		<p>セミの世界にもこんなことがあるんですね。8月12日に由野台で観察したこと。ミンミンゼミかツクツクボウシかと低木を見るとなんとアブラゼミ! 他の鳴き声や姿が無いのでこのアブラゼミに間違いない。このアブラゼミはおのれはアブラゼミなのに折を見て? ミンミンと鳴きツクツクと鳴く。正確な? 固有種の鳴き声ではなかったけれど、充分に多種と聞きまごう鳴きのうまさだった。モズなど野鳥ではよく起こることだけど、セミの世界でもあったんですね。・・・すると鳴き声調査の何パーセントかは”アブラゼミにしてやられた”ことになるのかなあ。</p>
		<p>今年はセミの鳴き声が聞こえるかと朝に雨戸を開けることがたのしみでした。夏になればセミはいつでも鳴いているものと思っていましたが天候で変えることに気づきました。雨が降れば鳴きませんが雨が上がれば一斉に鳴き始めます。曇天の夕方は鳴き止む時間が早いようです。私のメッシュには諏訪神社の森、相模川の段丘林、上大島キャンプ場等緑が多いのでセミ時雨状態となって夏を感じました。興味を持っていたクマゼミの北上をわが耳で確認できたことも嬉しかった。自宅で3回聞きましたが、田名の三菱重工工場の敷地内の林では、暑いとき毎日の様に鳴いていました。本当に温暖化が身近に来ていることを実感しました。</p>
		<p>この夏はセミと一体の生活を送りました。担当した5地点については、4日間時間帯をずらした聞き取りをしましたが、意外と少ない種類に限られました。クマゼミは5地点に限らず上溝の市街地でも自家の近くの公園においても全く聞いていません。ニイニゼミは、ただ一度だけ田名高校の桜で聞いただけです。インターネットで鳴き声を何度も確認していますので、聞き違いは無いと思うのですが。ただし、ニイニゼミは多くの種類のセミの合唱の中では声が消されて聞き取れないということも考えられます。自家の前には上溝中学校と姥川の間の樹林帯(遊歩道が通っている)があり、早朝には中学校の校庭からの声が聞こえてくる恵まれた調査地点だと思います。早朝4時からの種類別の鳴き始め時刻も正確に把握しています。</p> <p>①ヒグラシ②ミンミンゼミ③アブラゼミ④ツクツクボウシの順ですが鳴き始めの時刻は季節の移りに応じて変化しているのがわかりました。真夏日には朝の1時30分にアブラゼミが鳴いているのを度々耳にしました。</p> <p>春の七草といい、この夏のセミの調査といい、自然に目を向ける極めてよい経験をさせて頂きました。特にセミについては、来年も比較観察をしながら生活にアクセントをつけて見たいと考えています。</p>

感想	<p>“鳴き声カレンダー”の記録は3ヶ月と長期でしたが、3日間のみ記録できなかっただけで、自分ながらよく頑張ったと思う。この記録をして気づいたのですが、ヒグラシ(蝸)という漢字を覚えたこととヒグラシが意外と早く鳴くのがとまったこと。セミの中では1番遅くまで鳴いているものと思っていましたが、“ふれあいの森”での記録では9月3日で最後の鳴き声でした。なお、当然のこととは思いますが、木の多い境川沿いやこもれびの森では鳴く時期も早く遅い時期まで鳴いていた。(アブラゼミ及びミンミンゼミの例)</p> <p>クマゼミの鳴き声は子供の頃から聞いたことがなく判別が難しかった。今まで聞いたことの無い声で話に聞いていたうるさい鳴き声があったので、1回だけだったが記録した。小さい頃からセミの声には慣れ親しんできたが、改めて記録してみると種類によって鳴く時期や場所などの違いがあって面白かった。家の周辺での観察は殆んど庭にある1本のスモモの木のみでの観察になった。他には目立った木がなく、かなりの数のセミ(殆んどアブラゼミ)が、このスモモの木を利用していた。また、近くの八幡神社や里山からは早くからヒグラシの声が聞かれ、ツクツクボウシは9月末ごろまで鳴いていた。セミは夏に鳴くものと思っていたが梅雨の終わりから秋までかなり長い間次々と鳴いていることがわかり面白かった。</p> <p>セミの鳴き声を聞いた夜、秋の虫の声を聞くと、今まで気付かなかった季節の移り変わりに気付き楽しい時間を過ごした。普段の生活の中で、少し周りに気をめぐらすことで新しい発見があることがこの観察の中で気付いた。</p> <p>植物の調査でもそうだったが、旧相模原と城山町と道を隔てただけで環境が変わるのに驚かされる。</p> <p>本日(8・29(水))セミの鳴き声調査を5マップポイントについて実施して感じたことを記します。予想はしていましたが、改めてアブラゼミが非常に多く見られたのには驚きました。しかも、鹿島小周り、相模大野中央公園周辺、鹿島神社裏の山林等樹木の豊富などところに集中して見られました。都市化が進むとアブラゼミが多くなるようですが、正に相模原市の南部地区のこの辺りも例外ではなように思います。それとそろそろ9月になろうというのにヒグラシが殆んど見られないのが不思議に感じます。昔は今ごろの朝夕はうるさい位でしたのに。</p> <p>最後にテレビで見たのですが、関西から南の地域でクマゼミが異常発生しているようですが、地球温暖化の影響もあるようですがその割に相模原では殆んど見られないのも不思議に感じます。</p> <p>8月末、相模公園を夕方ウォーキングしていたところ、偶然に、土中よりセミが這い出てきた。立ち止まって観察していると、数メートル地上を這って、メタセコイヤの木に登っていき、高さ、約5~6M まで、約50分の時間を費やしました。陽が暮れて、姿を見失ってしまい、残念なことに、羽化を見る事はできなかった。</p> <p>メタセコイヤの大木には、高い所にセミの抜け殻が沢山ありましたが、今までは、木を見上げて、観察をすることがなかったので、気が付かなかった。10月11日(木)相模原公園でアブラゼミの鳴き声を確認した(夕方4時頃)。こんな遅い時期までいるんですネ。</p> <p>今年は毎朝自宅14階から非常階段を降りて散歩に出かける途中で見かけたセミを、調査票の鳴き声カレンダーに記録してみました。調査期間中の14階から1階までの間でアブラゼミが23匹、ミンミンゼミが3匹、その他のセミは0匹でした。大体7階付近の階に毎朝1匹位、ひっくり返ったり、這っていたりしていたのが、特に8月20日は7匹もいたのには驚きました。</p> <p>ここから200Mはなれた所に在る神明大神宮の木々では、陽が上り始めるとミンミンゼミとアブラゼミが争うように鳴き、それが暗騒音としてこの階段に届く位置にあり、一晩中その神宮に向かって灯っている蛍光灯に惑わされてきたのでしょうか。夜のうちにこの鳴かないセミが沢山集まってきても、昼間のこのマンションの周りの木々には数える位しか鳴いていません。まだ木々も小さく新しい造成地にはセミの幼虫は住み着いているのでしょうか？見守ってゆきたいと思います。</p>
	意識の変化

感想	うれしかった	<p>関東地方に少ないと言われるクマゼミの声を8月21日の早朝(AM7:34頃)、国道16号沿いの街路樹で聞き、少年時代(福岡県北九州市)多く聞いたワシワシ~を思い出して感動した。ツクツクボウシの鳴く時間帯は午後型とされていたが中学校の植木で朝7:30分頃もう鳴いていた(この時間帯型は目安程度のものなのでしょうか…)</p> <p>夏の早朝の小さな森の中で聞く、セミの声は遠い田舎の少年時代に帰る新たな感動にひたることができ、本調査に参加でき感謝致しております。有難うございました。</p>
		<p>出かける前は6種類も聞き分けられるか不安だったが、よく聞いているとはっきりわかった。猛暑日だったが、風の音を聞き、セミの声に耳を澄ますと涼しさを感じた。自然界は音に満ちている。マーラーのシンフォニーのようだ。</p>
	楽しかった	<p>10月6日にミンミンゼミの鳴き声を聞いたときには大変驚きました。セミの鳴き声が聞こえる時期を注意していたことが無かったので、9月の中旬頃までというイメージを持っていました。ただ、特殊な例かもしれないので、他の観察員の調査結果とも突合したいなあと思います。</p> <p>今年の夏は、小学校2年の二男とセミ探しを楽しむことができました。調査手引きのおかげで、近所の公園(深堀中央公園)でみつけたぬけがらの種類を同定することができました。彼は、ぬけがらの標本と公園での鳴き声調査を、夏休みの自由課題として提出しました。</p>
		<p>大変暑い日が続いている夕方5時過ぎに調査に歩いた、大変だった(8/13、14)</p>
		<p>長い観察期間でしたが、何とか終わりました。例年に無いほど沢山の鳴き声を10月の始めごろまで聞きました。ただ姿の見えたのは、アブラゼミだけでミンミンもヒグラシもツクツクボウシも姿は見えませんでした。鳴き声もニイニゼミとクマゼミはアブラゼミの声の中から聞こえてきたせいかわり別がつけられなく困りました。詳しい人と一緒に行き、勉強しなくては、と思いました。</p>
	苦労しました	<p>セミの声はどれも同じように聞こえた。判別が難しかった。自宅近くに木はないせいか余り聞こえなかった。近くに東芝林間病院があり、桜の木が多く鳴き声が多くあったが判別は難しく感じた。今後もセミの鳴き声をもっと勉強したいと思います。今回からだの調子が余り良くなく、十分な活動が出来ず皆様に申し訳なく思っています。</p>
		<p>ニイニゼミからツクツクボウシまで。日中のセミからツクツクボウシまで。1日で出来るだけ聞ける時期を模索していました。そして猛暑を避けた時間帯に歩くことにしました。しかし、1回の調査でニイニゼミまでとらえるのは無理でした。</p>
		<p>鳴き声カレンダー用で、アブラゼミの声が最初の頃ジリジリとうるさかったが、最後の頃は、おとなしい声のジージーと鳴いていたので、秋の虫とごちゃ混ぜになってしまった。</p>
	残念でした	<p>今年は特に暑く長い夏でした。夏ばてで気力も体力も無くしてしまったあげく、足を怪我して治るまで約3ヶ月かかりました。それで、調査の方は余り身をいれて出来ませんでした。申し訳なく思っています。</p>
		<p>担当メッシュにヒグラシがいると思いましたが、鳴き声のする時間帯での調査ができなかったため、確認することが出来ませんでした。</p> <p>今回の調査に限られた時間の中で調べるので早朝や夕方など調査に行く事が出来ず、不十分な調査票で申し訳なく思っております。小学校周辺の調査の時に子供達(小学生)が桜の木にセミに気になり、取ろうとしたが、その中の男の子が気持ち悪いといってさわること出来ないので驚きました。</p>
環境の変化	<p>あまりにもセミがないので驚いた。時期が遅いせいもあるかもしれないが、調査地からさほど離れていない、境川の木立の中ではアブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシがよく鳴いていたところを見ると、セミがあまりいない場所と考えていいのだろうか。</p> <p>調査中は自動車の音が気になった。少し広い道に出るととてもセミの声など聞こえそうに無い。又、細い道でも車を避けなければいけないことが多く改めて自動車の多さを感じた。昨年くらいから気になっているが、植え込みの中から聞こえるカネタタキの音がとても多いような気がする。過去との比較は出来ないが、もしかしたら増えているかもしれない。</p>	

	<p>このセミ調査は大変注目して調査に当たりました。先日8月13日、テレビのザ・ワイド(4チャンネル)でクマゼミの大量発生について放映があった。大阪公園では、1980年頃からアブラゼミよりもクマゼミが多く発生するようになった。発生数300万匹、朝6時から午前中に鳴き、86デシベルの騒音となる公害だという。又ケーブルテレビ線にも被害があるとか。(クマゼミの産卵管(♀)でケーブルテレビ線に穴をあけて産卵するので、切断してしまう被害である。)奇数年に大量に発生の傾向。温暖化により年々北へ移動しているとの事。このテレビを見て大変興味を持った。</p> <p>セミの調査は5年前の2002年に実施されましたがこの年は私の担当メッシュ内では発見されなかった。今回は鳴き声が確認されたので感激しております。ただ、鳴き声のみで姿や抜け殻は発見できなかった。</p> <p>地球温暖化に伴い、環境の変化によりクマゼミだけでなく多くの種類の生物に変化を与え、生態系に大きな変化が生じていくものと思われる。このためにも身近な生き物の調査を継続していかなければならないと思われます。</p>
感想	<p>セミの声を調べて町の都市化でセミが育成するような木が少なくなっていることがわかりました。鳴いているのは境川、団地、学校で8月の末になって少し住宅地で聞こえました。全く聞こえない場所が次の調査では確実に増えそうです。境川のアブラゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、ミンミンなどのセミしぐれに感動しましたが、この街で知らない人が多いのでは。</p> <p>境川沿いの団地で、朝10階建ての各階の通路を歩きました。セミの死骸が18匹、背がひっくり返っている数匹は起こして助けた。この団地全体ではかなりの数が命を絶っているのだろう。以前も見たことがあるから、多分これからも繰り返す夏の風物、何とか対策はと考えたが。</p> <p>全体を通して感じたことは、圧倒的にアブラゼミが多かったことである。逆に子供の頃はよく聞いたニイニゼミが意外と聞けなかったことである。アブラゼミの声がうるさく、他の声を聞き分けるのに苦労した。アブラゼミ以外を探すという感じの調査となった。又、ある地区を一日を通して定点観測が出来るわけが無いので、時間よっての違いはあるものと思われる。日々神社には10回近く様々な時間に行くようにした。それでもクマゼミの声が聞けたのは1回のみであった。ツクツクボウシの声も数回のみである。とにかく圧倒的にアブラゼミが優位を占めている。森林規模によって多様性が違う感じがした。</p> <p>8月12日に小倉橋から城山登山口→女坂→城山→根小屋パークセンターのルートで城山登山をした。小倉橋辺りでは、ミンミンゼミが圧倒種という感じであった。又女坂辺りでは歩いていると、足元からチット鳴いてヒグラシかツクツクボウシがよく飛び立った。旧市内のちょっとした森とは圧倒種がぜんぜん違う気がした。又、パークセンターではオオムラサキが吸蜜しているところや、飛び回るところを見ることが出来てとても感激した。</p> <p>7月中はセミが鳴かなかった(例年より遅い)。8月下旬鳴き声調査に夕方出かけて感じたのは、緑地帯、雑木林近縁に住む私にとっては、いつもセミが鳴いているものだと思っていたが、16号と16号旧道に挟まれた住宅地に入るとセミの鳴き声の一つも聞こえず、静かなのに驚愕した。庭でも裏の林でも朝から夜中までセミの大合唱に包まれていたのでニイニゼミの鳴き声が消えてしまい、聞き落としがあるかもしれない。7月多摩地区で街路樹のニイニゼミと鳴き声はわかったのだが・・・クマゼミは1、2回シャワシャワシャワと鳴く声を聞いたが、あまり聞かれなかった。今メモしている9月23日でもまだセミは少なくなったが鳴いている。</p> <p>メッシュ[H08]等はずっと「セミ」がいるかと思ったが確認できなかった。調査日の8月2日は曇り、雨、晴れとめまぐるしく天気が変わり、非常に暑い日だった。もう少し天気が安定した日だったら「セミ」ももう少しは確認できたかもしれないと思う。</p> <p>8/16 セミ全種が勢ぞろいした印象深い日でした。こんな日は他にありませんでした。早朝にミンミンゼミ、夕方・夜にアブラゼミが鳴く傾向があることを今回知りました。朝10時に何も鳴いてない日もあり(8月の話)蝶の活動時間帯とは違うことを学びました。アブラゼミとニイニゼミの鳴き声の区別がよくわからないときがありました。昨日今日(10/15、16)とベランダにアブラゼミの抜け殻が転がっているのを見つけました。</p> <p>いまや冷たい秋風も吹き始め、夏鳥も南下し始めています。季節の移り変わりをこの秋はセミの抜け殻で感じました。</p>
	<p>観察記録</p>

感想	観察記録	<p>[P15]について:区画整理により住宅地になった部分と調整区画で畑が残るメッシュで、鳩川沿いには昔からあった林(雑木林?)が、中丸の保存樹林(名称?)として残されている。対象種は全て確認(春のハルゼミはなし)。ミンミンゼミが大きな声のせいか圧倒的に多い様子。このため、アブラゼミの鳴き声もかすむ。都市化の部類といわれるが、調査地周辺では森林の残るところで鳴いていて庭木などでは見ることも出来ず、考察のポイントが必要か。2~3年前からクマゼミの鳴き声を確認している。猛暑の朝方によく鳴いている。姿や抜け殻がいつも確認できない。関西では公園などの低樹木でも鳴いているというのがこの地域では全て高木にいる様子である。ニイニゼミは少なかった。個体数が少ないのであろう。運良く抜け殻を見つけたのでこの辺りでは地中で生息している個体もあると思われる。</p> <p>その他のメッシュ:住宅地では庭木で鳴いている姿が多く、電柱にはアブラゼミの鳴く姿が多い。</p>
		<p>8月26日にやっと休みがあいた。6時半に家を出てトコト「風さんありがとう」こんな言葉が出たのは始めて。ちょっとした風なのに身にしみて感じ、とてもありがたかったです。相模大野中央公園から「村内家具」に向かって歩いているつもりがいくら行ってもいつもの所に出ない。おかしいなと思ったら「ハナマサ」の看板が見えてきた。迷子になっているとはっきりわかった。そうしたら緑道があったので、これを歩いていけばいつものところに出るだろうとあせりもしなかった。歩いて歩いて33℃はある中、半日歩き回って2人の人にお尋ねしたが「チンプンカンプン」私の訪ね方が悪かったのだろう。大きなケヤキが何本も生えていて感心して眺めていた、ということはあせりもしていなかったのだなと・・・。</p>
		<p>家の近く、町田の市民の森にはセミ沢山鳴いているのに 9/23 はセミ1匹鳴いてなかった。暑かったので皆あわてて出てしまったのか・・・又、町田の市民の森にはオオシンツク、オオシンツクと1匹だけ鳴いて私を慰めてくれたのかもかもしれない。</p>
		<p>セミの鳴き声でミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシの3種は確認が容易であったが、アブラゼミはほぼ確認可、クマゼミについては「シャン、シャン、シャン」の聞き分けが難しく、アブラゼミとの確認が難しかった。調査地域には緑道があり、相模カントリークラブが隣接している。また、「つるまの森」は、観察には非常によい環境であった。結果としてニイニゼミは確認出来なかった。</p>
		<p>以前にセミの抜け殻調べを小学生と行った事があるが、その際(3年前)には、アブラゼミを筆頭にニイニゼミやミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシも混じっていた。今回は、盆休みの時期のため(少し今年は発生時期もずれたように感じる)特定の種類に集中していた。比較的に一斉に出てもおかしくないように感じたが。</p>
		<p>今夏は真夏日・猛暑日が多く、調査は15時以降が多く見落としもあったかもしれない。9月16日(日)調査全地域を見回したが、この時期になると「鳴いている場所」が「森林及び林の密集地」に限定されて来たように思えた。以前鳴いていた場所(小さな公園、樹木の少ない場所等)でも鳴いていなかった。</p>
		<p>せみの幼虫が木に登っているのを見たときは非常にびっくりした。双眼鏡を持参し、姿を確認した折は童心になった。福岡出身なので、ぜひとも「クマゼミ」の鳴き声を聞きたいと思っていたが、聞くことが出来なくて残念でした。</p>
		<p>今年は遅い。7/22 鶴の森公園で抜け殻見たが鳴き声聞こえず。全般的に少ない。</p>
		<p>8月の暑い最中(8/20)夜8時ごろ大野伊勢丹デパートの前の街路樹でアブラゼミが鳴いていた。今年の調査:7/17 今シーズン初めてセミの声を聞いた。ニイニゼミ、ヒグラシ(アブラゼミ)、ミンミンゼミの声を初めて聞いた。8/4 自宅の庭で初めて(今年)アブラゼミの声を聞いた(住宅地の中)。10/4 木の多い陸地(横浜市港北区)にてツクツクボウシ、ミンミンゼミの声が聞こえた。10/7 こもればの森、御園の緑地(みゆき台団地)でツクツクボウシの音が聞かれた。</p>
		<p>10月28日に上溝中学校にてアブラゼミの鳴き声を聞いた。今までこんな遅い時期にセミの鳴き声を聞いたことが無かったので非常に驚いた。しかも1匹だけではなく2~3匹は鳴いていた。これも地球温暖化が原因なのでしょうか。</p>
<p>長期の調査では、聞き逃していた事も多かったと思い、反省点もあります。今年は、7月が寒かった事もあって、なかなか鳴きださなかったようですが、寒い日や台風が来た日は、ピタッと鳴かなくなるので、分かり易いと思いました。逆に、暑い日は、真夜中でもうるさいぐらい鳴いていて、短命がゆえの一生懸命さも感じました。</p>		

感想	観察記録	初蟬は葉桜の木7月27日ニイニゼミの姿も声も聞く(自宅では未だだが田名の望地辺の古木の幹に)。今年は遅いように思う。8月10日ごろがピークか、かなり多く聞こえた。8月一杯はよく鳴いていた。朝6時ごろになると、ニイニゼミが鳴き出した。毎日だ(6~8時頃には終り)。カナカナは、家の近隣にも調査範囲には聞くことは出来ませんでした。これは？橋本の駅で9月26日に1声だけ聞いた(平成14年調査時にも少なくなると書かれていた)。初めてのニイニゼミの声はよく聞きとれたが、だんだん蟬が増えてきて、ミンミン、アブラなどが鳴きだし、聞き分けがむずかしくなった。9月中旬~9月下旬までは出る用が多く十分にできませんでした。申しわけありませんでした。都内でも大きな樹のあるところでは、かなり聞く(アブラゼミ、ミンミンです)。
	疑問	6月28日津久井の青山交差点でヒグラシの初鳴きを聞きました。しかしその後は長い間聞かれませんでした。9月中旬後も、津久井、市立博物館、鎌倉、城山でもミンミンゼミ、アブラゼミの声を聞きました。しかし、橋本地区ではなぜか全く聞くことがありません。なぜ橋本では早くいなくなったのか疑問です。樹木の少ないのが、他との違いですがこれが原因か？
	調査方法・調査区域	<p>今年は猛暑で調査の回数が伸びず。特に時期や時間が複数あるので5メッシュはかなりきつい作業でなかったかと想像される。鳴き声カレンダーは家族と自宅で作ったので、在宅中の情報を記録。9月後半からめっきり寒くなりセミが激減。たまに暑くなると数匹がか細い声で鳴いている。クマゼミの抜け殻の絵も必要では？インターネットで検索して照らし合わせたりしたので。10/14 勝坂スポーツ広場午後2時ごろツクツクボウシが鳴いていた。今年がこれが最後？</p> <p>分布調査について:調査区域が日頃全く行くところではないので、調査の為の調査になったようにおもう。単日の調査では、時期により偏った結果しか得られないのではないか。ニイニゼミの確認が出来なかったが、「いない」とは言い切れないように思う。アブラゼミやミンミンゼミの声に混ざって鳴いていたのかもしれないが、聞き分け出来なかったかなと考える。調査時間帯でも内容が左右されるのでは。</p> <p>その他:鹿沼公園や県立相模原公園ではツクツクボウシが10月10日頃まで鳴いていた。鹿沼公園では桜の木の根廻に多数の穴が見られその周辺の植え込みに抜け殻が穴の数ほどに確認された。</p>
考察	観察記録	<p>セミの発生について(セミは25℃以下になると鳴かない)</p> <p>気が付いた事(最近6年間で横山公園での調査):①平成14年、15年は割合暑い夏であり、セミの鳴き声は自然と聞く事ができた。ツクツクボウシ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、そしてヒグラシ等、毎日の生活の中で、朝夕の散歩中セミの抜け殻、姿、鳴声、そして死体順次見ることが出来た。②16年、17年は全国的に、涼しい夏の様でした。それに合わせる様に、セミの出る穴の数が少なく、当然の結果として抜け殻、姿、死体等はあまり見る事が出来ず、セミの鳴声と夏の関係はなくなるのでは。ある人は「今年はセミの声が全然聞けないね〜。」木々の中で時折アブラゼミがそれも一匹で鳴く、集団でうるさくなるあの場面は、ない様な夏でした。③18年、19年は比較的暑い夏で(特に19年はまったく猛暑で)記録的な夏でした。したがってこの6年間で一番の夏で横山公園の近隣では、私の知る限りこんなにセミの発生を見たのは初めてです。横山公園にある落葉樹17本のメタセコイヤの木の下には通常3~5倍のセミの穴が地面に出来、7月末~8月初旬にかけ、毎日セミが抜け出す場面を見ることができ(朝5~6時)、メタセコイヤの木はセミの抜け殻で葉の表面に花が咲いた様になり、この夏はセミセミセミの夏でした。※メタセコイヤ:化石として発見された木です。後に、中国四川省の奥地で生きた木を発見され、世界の話になる。</p> <p>特に気が付いた事(新たに発見):①今年がセミの出る穴並びに、抜け殻、姿、鳴声、死体等全部がこの6年間(14~19年)で一番多く見ることができました(夏の暑い日が記録的だった)。②昼頃(12~14時)セミが穴よりは出し、そのまま地面に歩いていたものを約10日間で7匹発見した。土中に居る姿そのまま土中より出て、羽の無いセミ。③セミが土中より出て抜け殻を後に残り飛び出した。その時7羽のカラスが追いかけて(AM6:30)一口で食べた…私は何か別の世界の出来事を見る様で、そして、生き物の哀れを身をもって感じた。7年間土中で生活し、やっと地上に出て、自分の羽で、飛び立つその時…何か生物のその生存競争のそれを見る様でした。</p>

観察記録	<p>2つの調査(N=集めた数量 n=調べた数量):</p> <p>①セミの抜殻の調査(7月20日~8月20日) N=1000 n=100</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>no</th> <th>内 訳</th> <th>数量(匹)</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アブラゼミ</td> <td>73</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ミンミンゼミ</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ツクツクボウシ</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ヒグラシ</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>クマゼミ</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>生体</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>不明</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>②セミの死体の調査(8月25日~9月30日) N=350 n=100</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>no</th> <th>内 訳</th> <th>数量(匹)</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アブラゼミ</td> <td>89</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ミンミンゼミ</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ツクツクボウシ</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ヒグラシ</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	no	内 訳	数量(匹)	%	1	アブラゼミ	73	73	2	ミンミンゼミ	13	13	3	ツクツクボウシ	4	4	4	ヒグラシ	3	3	5	クマゼミ	1	1	6	生体	3	3	7	不明	3	3		合計	100	100	no	内 訳	数量(匹)	%	1	アブラゼミ	89	89	2	ミンミンゼミ	8	8	3	ツクツクボウシ	1	1	4	ヒグラシ	2	2		合計	100	100
	no	内 訳	数量(匹)	%																																																									
1	アブラゼミ	73	73																																																										
2	ミンミンゼミ	13	13																																																										
3	ツクツクボウシ	4	4																																																										
4	ヒグラシ	3	3																																																										
5	クマゼミ	1	1																																																										
6	生体	3	3																																																										
7	不明	3	3																																																										
	合計	100	100																																																										
no	内 訳	数量(匹)	%																																																										
1	アブラゼミ	89	89																																																										
2	ミンミンゼミ	8	8																																																										
3	ツクツクボウシ	1	1																																																										
4	ヒグラシ	2	2																																																										
	合計	100	100																																																										
考察	<p>セミは種類、時間帯によって鳴いたり鳴かなかったり、ヒグラシは明け方と夕方各 1.5 時間位鳴き、他の時間には鳴かない。アブラゼミ、ミンミンゼミは昼の暑い時間帯にきまぐれに鳴いているように思える。ゾーン調査は鳴く時間帯に行ったかどうかによって違う結果になる(調査した時間帯を記入したほうが良いデータとなる)。鳴き声はかなり遠くまで届く。(200M?)</p> <p>8月29日:朝から雨。アブラゼミ、ミンミンゼミは朝は鳴かない。朝4時ごろヒグラシが鳴いたと女房が言う。私は聞いていない。温度と明るさが鳴くためのきっかけ?雨が降っていてもアブラゼミ、ミンミンゼミは温度が上がると鳴くようである。目的(何を調べるかによって観察方法を変えないと必要な結果は得られない!)例えばセミの鳴くきっかけは温度か光か?など。ツクツクボウシは8月8日から10月14日まで長期間鳴いていた。</p> <p>10月に入りまだ鳴いているセミがいたが、消え入りそうな弱々しい鳴き方だった。少し涼しくなり、鳴いている日と鳴かない日があった。概ね半袖でいられるほどの気温の時には鳴いていたようだ。セミの発生や生存には気温が密接に関係しているものと、推測された。息子の通学する小学校で、私にとっては市内で初めてのクマゼミの声を聞きました。鳴き声カレンダーは、無理なく楽に出来ました。今後の調査でも、例えば「ツバメをみたか?」など場所を特定せず、市内を範囲とし調査員の皆さんから広く情報を得る調査方法も有用ではと思いました。</p> <p>8月8日津久井名手橋から三井水源の森に植物採取に出かけたとき杉林内は薄暗くて涼しく、歩く足元からヒグラシが次々と飛び立ち盛んに鳴いていた。ヒグラシは早朝と夕方に鳴くと思っていたが、森林の中では昼間でも鳴くのがわかった。また、前回の調査と比べ今回はクマゼミが自宅にいて聞こえていたのが、調査で歩いているときにも聞かれた。</p>																																																												
その他	<p>観察記録</p> <p>”セミの鳴き声カレンダー”記録について説明補填を致します。①自宅周辺の然るべき場所に生息しているセミの活動生態だけを追跡したため、他所から流れ込んでくる鳴き声等は敢えて除外した。②観察した場所は月見公園(千代田3丁目10番)。公園のみどり:緑といえるものは約18アールの広さの公園外周を縁どりしている照葉樹(カシ、シイの木)と落葉樹(桜、イチョウ)位で他に拾い上げるべき内容はない。周辺の様子:住宅地の中にある公園傍らには自治会広場があり更に付近には9面(場所)の平面駐車場が整備されているため比較的あき率の高い地域環境にある。</p>																																																												
	<p>その他</p> <p>セミが鳴き始めると入梅があける。大阪にはクマゼミが多く関東地方にはアブラゼミが多い。最近では地球温暖化でセミがいなくなっている。人が環境を悪くしている。一人一人がモラル、ルール、マナーを守って欲しい。自覚が必要。2030年になると3倍以上の温暖化になる。一人一人が自然を破壊ないように心掛けよう。環境を守るほど経済は発展する。日本には30種類のセミがいる。相生、光が丘、陽光台他あちこちに暑さのためにセミが死んでいた。</p>																																																												

任期終了まで調査にご協力いただいた皆さん（平成19年度）

※ 敬 称 略

青木 喬	河岸 花織	島田 奈々	野口 信
青野 久子	河岸 仁美	清水 輝男	野口 靖夫
浅木 つる江	川崎 香代	首藤 栄治	野口 幸夫
浅野 外喜博	川村 悦子	菅原 誠	早戸 正広
浅原 靖弘	川原田 稔	杉原 武男	原田 勇
浅原 米子	木村 知之	杉山 正明	肥田 優子
安達 桂	木村 光治	鈴木 孝雄	日吉 由美子
荒谷 輝正	小泉 綾子	瀬川 公男	福田 昭三
池川 源基	小泉 邦正	仙田 肇	藤井 孝之
市川 ケサノ	後藤 裕子	高崎 洋一	堀野 陽太郎
今井 多美子	小林 千代	高橋 勝郎	前川 義昭
今泉 勇雄	小林 通伸	高橋 孝子	益子 弘
岩田 正利	小林 義博	高橋 柳子	眞山 正彦
内田 英樹	小林 喜弘	田口 常利	村山 史世
大貫 文正	金銅 幸俊	田畑 房枝	柳下 信男
岡野 博	斉藤 敬三	辻野 泰子	山尾 晃雄
小川 路人	齋藤 健夫	富岡 英明	山口 富子
荻原 信行	櫻木 博史	長岡 弘治	山田 征四郎
奥井 宏	佐藤 金三	中川 博	横木 初美
小田 勇	佐藤 昭治	中島 朋来	吉岡 歌子
小原 敬子	佐藤 武晴	中村 有理子	吉岡 孝夫
折笠 良子	澤登 久子	新倉 和宏	若林 和彦
鹿島 敏夫	塩沢 徳夫	西田 和子	

平成22年2月発行

平成19年度 相模原市自然環境観察員制度 年次報告書

(発行) 相模原市 環境保全部環境対策課  
〒229-8611  
相模原市中央2丁目11番15号  
TEL 042(769)8240(直通)  
FAX 042(754)1064(直通)  
電子メールアドレス: [kankyoutaisaku@city.sagamihara.kanagawa.jp](mailto:kankyoutaisaku@city.sagamihara.kanagawa.jp)